

令和7年度 広南学園教育資料

Society5.0 を生きる資質・能力の育成

～主体的に考え、論議し、自己の生き方を考える道徳科の授業づくりを通して～



施設一体型小中一貫教育校 広南学園



呉市立広南小学校

737-0136 呉市広長浜4丁目1番26号
TEL:(0823)71-7965
FAX:(0823)71-4112
E-mail: hirms@kure-city.ed.jp
URL: <http://www.kure-city.jp/~hirms/>

呉市立広南中学校

737-0136 呉市広長浜4丁目1番9号
TEL:(0823)71-7920
FAX:(0823)74-3502
E-mail: hirmc@kure-city.ed.jp
URL: <http://www.kure-city.jp/~hirmc/>



目 次

はじめに

I 令和7年度研究推進計画

- 令和6年度までの取組 その成果と課題
及び令和7年度の研究推進へむけて 1-1
- 広南学園グランドデザイン 1-3
- 研究主題および研究仮説等 1-4
- 令和7年度広南学園カリキュラムマップ 1-21
- 令和7年度 生活科・総合的な学習の時間の全体計画 1-22

II 「学びがよい」向上部会

- 挑戦問題から始まる「課題発見・解決学習」 2-1
- 貫きカリキュラム 2-6
- S ルーブリック 2-14
- 乗り入れ授業 2-19
- 地域の人材活用 2-22

III 「指導力」向上部会

- 言葉磨きとICTの活用能力向上を目指して 3-1
- 広南学園生活ルーブリックの活用について 3-6

IV 付録 令和6年度開発単元等

- 中学校校内研修学習指導案 4-1
 - ・理科（中）1年 ・国語（中）2年 ・社会（中）2年
 - ・英語（中）3年 ・技術（中）2年 ・保健体育（中）1年
 - ・自立活動（中）特別支援学級1年
- 改訂した総合的な学習の時間の単元 4-15
 - ・（中）1・2・3年 成果と課題
- 開発・改訂した総合的な学習の時間の単元 4-19
 - ・（中）3年 未来貢献PROJECT
- 「キャリアノート」を活用した資質・能力の振り返り 4-24
 - ・（中）特別活動（学級活動）

「未来を創る」 みなさんへ

呉市立広南学園

未来に、どんな困難に出会っても、志を抱いて生きる人になりましょう。

志を抱くとは、決して人や世の中のせいにして逃げたりせず、自分のできることを考え、目標を定め、粘り強く、解決へ向けて努力し続けることのできる『心(こころ)の力』をもつことです。

夢や疑問やできないことに出会った時に、それを大切にして粘り強く学び続けることのできる熱い**挑戦・探究**の心、

自分の**責任・使命**を考え、それを果たそうとする強い心、

まわりの人に**感謝・貢献**しようとするあたたかい心、

お互いを大切にするために**協力・協働**しようとするやさしい心、

これらの4つの『心(こころ)の力』を育てることで、志は大きな志となって、あなたの人生の「道しるべ」となります。

そして、その志を『叶える力』を手に入れましょう。この力は、決して他人が与えることはできません。この力は、あなた自身が、問題解決に必要な準備を考え、整え、**挑戦**する経験を繰り返す中でしか鍛えられない力です。

先人から学んだ**知識・技能**を温め活用する力、

調べたり、尋ねたり、試したりしながら必要なものを見つけ出す**情報収集・判断**の力、

問題を解決するアイデアを見出し、人に伝える**思考・表現**の力、

互いの力を引き出し、あわせていく**協力・協働**の力、

これらの4つの力が鍛えられて、志を『叶える力』となります

未来を創る7つの資質・能力

資質・能力	めざす学びの姿
知識・技能	学んだ知識や技能を活用することができる。
情報収集・判断	尋ねたり、調べたり、試したりして、必要なものを見つけ、選び出すことができる。
思考・表現	しっかり考えて、学びを自分のものにして表現できる。
挑戦・探究	夢や疑問、できないことを大切に、見通しをもって粘り強く学び続けることができる。
責任・使命	自分の役割や使命を考え、するべきことを行うことができる。
協力・協働	他の人と協力し、いろいろな意見やそれぞれの力を生かすことができる。
感謝・貢献	感謝の心を持ち、自分なりに貢献することができる。

はじめに

未来を創る人 — Society5.0 を見据えて —

いわゆる「コロナ禍」と呼ばれる、数年に及んだ新型コロナウイルス感染症の拡大は、世界各地で人々の生活や行動、さらには文化や経済など、社会全体に広範な影響を与え、まさに予測困難な時代を加速化させました。このような時代だからこそ、これからも「未来を創る人」とはどのような「資質・能力」を持つ人なのかを問いかけながら、さらに研究を進めていく必要があります。

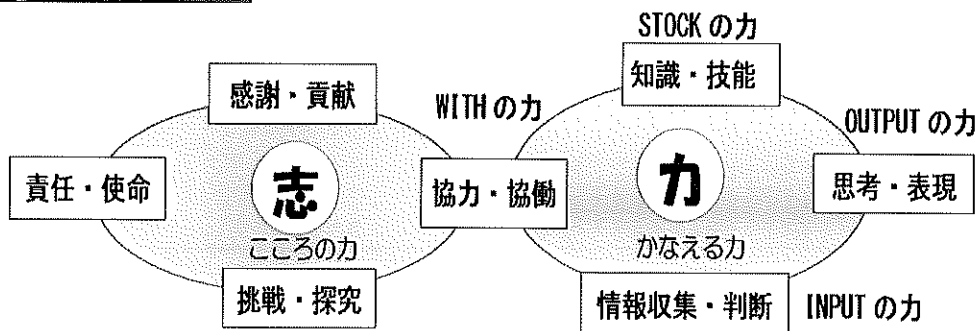
「未来を創る人」とはどんな「資質・能力」を持つ人でしょうか。これまで、私達は常にそのことを問いかけながら、研究を進めてきました。その中で、「2つの力」を持つ人をイメージするようになりました。

まず、1つ目の力は「志」という「心(こころ)の力」です。課題を発見しても、アイデアを持っていても、それを口にするだけの人、人や世の中のせいにするだけで、何もしようとしていない人がいます。その人に欠けているのは、「志」です。



郷土の偉人 宇都宮黙霖

広南地区には、郷土の誇る宇都宮黙霖という偉人がいます。不幸な生い立ちの中、教育の機会を奪われた黙霖は 15 歳になるまで文字を知りませんでした。22 歳の時には、病から耳と口が不自由になるという試練に出合います。しかし、黙霖は「新しい時代への変革に貢献する」という大志を抱きました。吉田松陰とも激しい書簡のやり取りをすることにより、その後の松陰の思想に多大な影響を与えたとされています。そして、明治維新に貢献した人物のひとりとして後世に名を残しました。黙霖は、世の中の「不」に出合った時は、その「不」を覆すためにどうしたらよいか、自分で課題を見付け、それに向かって高い「志」を持って行動する生き方をしています。



では、その「志」は、どのように育つのでしょうか。

人はもともと「挑戦したい・探究したい」という「資質・能力」を持って生まれ、その「資質・能力」で「夢を抱く」ようになります。そして、人とかかわりの中で「人と協力・協働したい」という「資質・能力」が育つことで互いに「夢を語る」ようになり、やがて社会の中で自分を自覚することで、「責任・使命を果たしたい」、また「感謝・貢献したい」という「資質・能力」が育ってきます。これら4つの「資質・能力」は、人間に生きる価値を与えてくれるものです。そして、学習指導要領に示された「資質・能力」の3つの柱のうち、「学びに向かう力・人間性等」に対応するものです。「自分の生きる価値」を学ぶことこそ、学びの中で最も大切な学びです。これらの価値を実感する経験を「心の羅針盤」に記録していく経験を、発達段階に応じて積み重ねていく。そのことを通して、「人としてどう生きるか」という「志」、「心(こころ)の力」は育っていくのです。

そして、2つ目の力は「叶える力」です。「叶える力」とは、「不」を覆すアイデアを実行して問題を解決する能力です。問題解決能力を高めるには、INPUT 能力(情報収集と的確な判断を行う能力)、OUTPUT 能力(思考し表現する力)、STOCK 能力(有用な知識・技能を活用

できる形で蓄積する力)、さらに WITH 能力(人と協力・協働する力)、これらの4つの「資質・能力」をそれぞれ高める教育活動の充実が重要と考えます。学習指導要領で示された「資質・能力」の3つの柱のうち、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」がこれらに対応するものです。

ところで、0から新しい価値を創り出す能力は、特別な人間だけが持つ能力でしょうか。そうではないことを赤ん坊は教えてくれます。すべての赤ん坊が、0から世の中で生きるためのすべを「情報収集・判断」「思考・表現」という「資質・能力」を発揮して「知識・技能」という形で見事に獲得し、積み重ねていくではありませんか。しかも、その力はヘレン・ケラーなど、障害をもつ人々が教えてくれているように、たとえ視覚・聴覚という情報収集能力を奪われても、それを補うように高まるように見えます。人間は、誰もが赤ん坊の時からその力のもととなる「資質・能力」を潜在的にすでに備えているのです。

では、何が問題かと言えば、今の児童・生徒が現代の教育制度の中で、効率的に「知識・技能」を与えられ続ける一方で、主体的にそれらの「資質・能力」を発揮しながら問題解決を行う機会が著しく奪われてきたことです。

「叶える力」は、他人が与えることはできない力です。生きていく中で、問題に直面し、自ら課題を見付け、探究的に問題解決へ向かう経験を積み重ねる中でのみ、鍛えられ獲得していく力です。「知識・技能」も自ら引き出す経験を通してはじめて力となるのです。学習指導要領で「何ができるようになるか」とともに「どのように学ぶか」が重要視されているのはそのためです。主体的・探究的な問題解決へ向かう経験となるような学びの工夫が求められています。

広南学園では、これまで「挑戦問題」からはじまる課題発見・解決学習の単元(PROJECT 学習)開発を通して、学びがい(学びの価値・学びの質)を深め、児童生徒の「主体的な学び」を育てる指導の工夫について研究を進めてきました。その中で、単元だけでなく時には教科や学校を飛び越えながら自在に学びをつなぐ「貫きカリキュラム」、また「資質・能力の評価」の研究については、児童・生徒との価値の共有こそが重要と考え、A(目指す目標)のさらにひとつ上のS(「資質・能力」の価値が最も発揮された理想の状態)を具体的に示す「Sループリック」を開発し研究を進める中で一定の成果をあげてきました。

さて、私達は、児童・生徒が未来に生きる上で必要な「資質・能力」を探究してきましたが、私達の暮らす社会は、AI やロボットの共存する「Society5.0」という革命的な変貌をすでに遂げ始めています。この社会の変貌は、一方で、人類に大きな希望を与えると同時に、児童・生徒に、本離れ・ネット依存といった深刻な問題を引き起こしています。以上のことから、児童・生徒には「予測のつかない未来を生き抜いていく力」を育てていくことが求められています。

令和元年度には、「Society5.0」を見据えたカリキュラムデザインをテーマに、平成 30 年西日本豪雨災害の「不」の経験を未来に活かすために、今後 30 年以内に起きる確率が 80%と言われる南海トラフ巨大地震を想定した避難プログラムや、小中9年間を見通した ICT 能力の育成を図るカリキュラムを作成しました。

令和2年度には、授業改善のため、「言葉磨き」と「ICT の効果的な活用」に取り組むと共に、道徳科を中心に、児童生徒自身が自己の成長やものの考え方の深まりを実感できるカリキュラムを作成し、実践しました。

令和3年度及び4年度には、学習評価を真に意味あるものとし、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現、指導と評価の一体化の実現のために、「授業改善と評価改善」について研究しました。

令和5年度及び6年度は、広島県と呉市の研究指定を受け、「主体的に考え議論し自己の生き方を考える道徳科の授業づくり」を中心とした授業改善と評価改善を研究しました。

令和7年度広南学園教育資料集は、本学園が積み重ねてきた「言葉磨き」と「ICT 教育」、「貫きカリキュラム」、「授業改善と評価改善」を基盤に、令和5年度から研究テーマとしている「主体的に考え、議論し、自己の生き方を考える道徳科の授業づくり」について、本学園の研究推進の方向性をまとめたものです。

今までの研究の積み上げを活かし、広南学園の取組を充実させるとともに、さらに発展させることで、「未来を創る資質・能力」をもった児童・生徒を育てていきましょう。

I 研究推進計画

コーチング

勇気づける

志を抱く

認める

夢を語る

活躍の場
を与える

ほめる

夢を見る

じっくり
鍛える

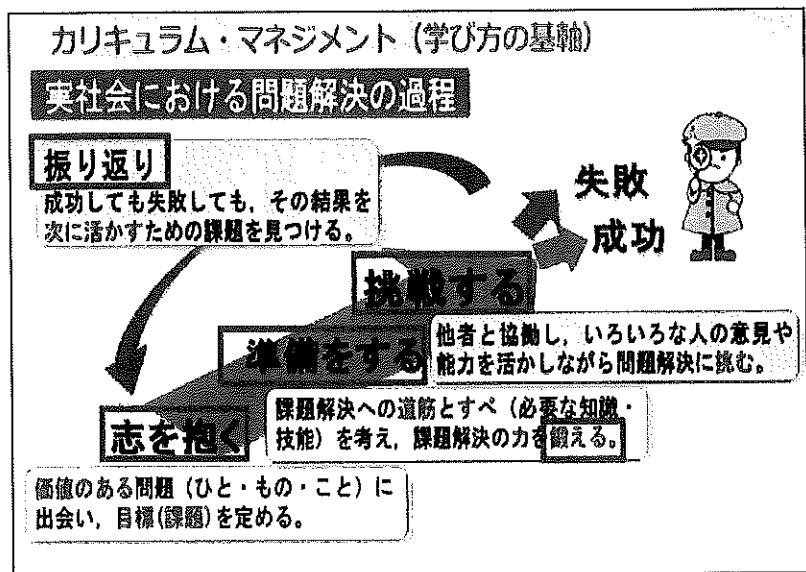
しっかり
教える

マネジメント

1 令和6年度までの取組 その成果と課題 及び 令和7年度の研究推進に向けて

本学園は、平成27年度から広南中学校が広島版「学びの変革」パイロット事業の指定校を受けたことを契機に、小中が連携しながら、新学習指導要領を見据え、「志(こころの力)」と「力(かなえる力)」の2つの柱をもとに設定した7つの「資質・能力」の育成に向けて、主体的な学びを促す単元開発に取り組んできた。小中一貫教育のゴールである9年生の平成26年度全国学力・学習状況調査の生徒質問紙調査では、夢や目標(肯定的評価68%)、挑戦心(肯定的評価64%)を抱くことに課題があった。そこで翌年の平成27年度、課題解決に向けて未来を創る理想の生徒像を求め、学園教育目標を「未来を創る」と見直した。その実現に向けて、研究推進委員会による「資質・能力」の設定やルーブリックによる評価、教科等を横断した探究型の単元開発に取り組んだ。これらは、順に開発したのではなく、同時並行的に互いに往還しながら何度も作り直すことで精選された。その中で、本学園独自の「学び方」の基軸が生まれた。

構想にあたっては、実際に生徒が会える実社会とのつながりを意識し、生徒が探究していく姿を思い浮かべながら独自の学びの過程になるよう留意した。実社会では、人は正解のない課題に、志をもって、準備、挑戦し、成功や失敗を繰り返しながら成長するものと捉え、本学園の教育活動も、価値ある問題に出会い、その解決に向けて「志を抱く」、「準備をする」、「挑戦する」という三つの過程と「振り返り」を基軸として生徒を「鍛え」、その過程で「資質・能力」を育成するものとした。

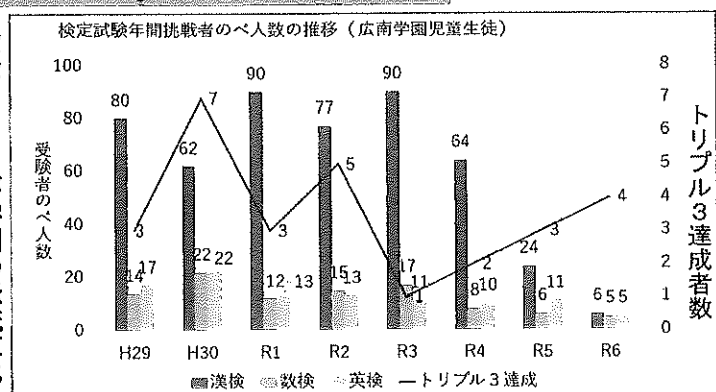


具体例として、7年生の総合的な学習の時間を核とした取組では、挑戦問題を「地域の人を笑顔にできる新しい自分づくりに挑戦しよう!」とし、「1人1落語」に挑戦する。文化庁「文化芸術による子供育成総合事業」を活用し、地域で活躍する落語家を招き、笑いで地域貢献したいという志を抱かせ、挑戦する場として、文化活動発表会や地域の花見、敬老会などで落語を披露する。準備段階では、国語科等の学習で試行錯誤しながら表現力を高めたり、英語落語に挑戦したりする。生徒は「振り返り」で、「地域の人に、こんな自分でも喜んでもらえたことがとてもうれしかった。新しい自分になれたようだ。」と綴っている。

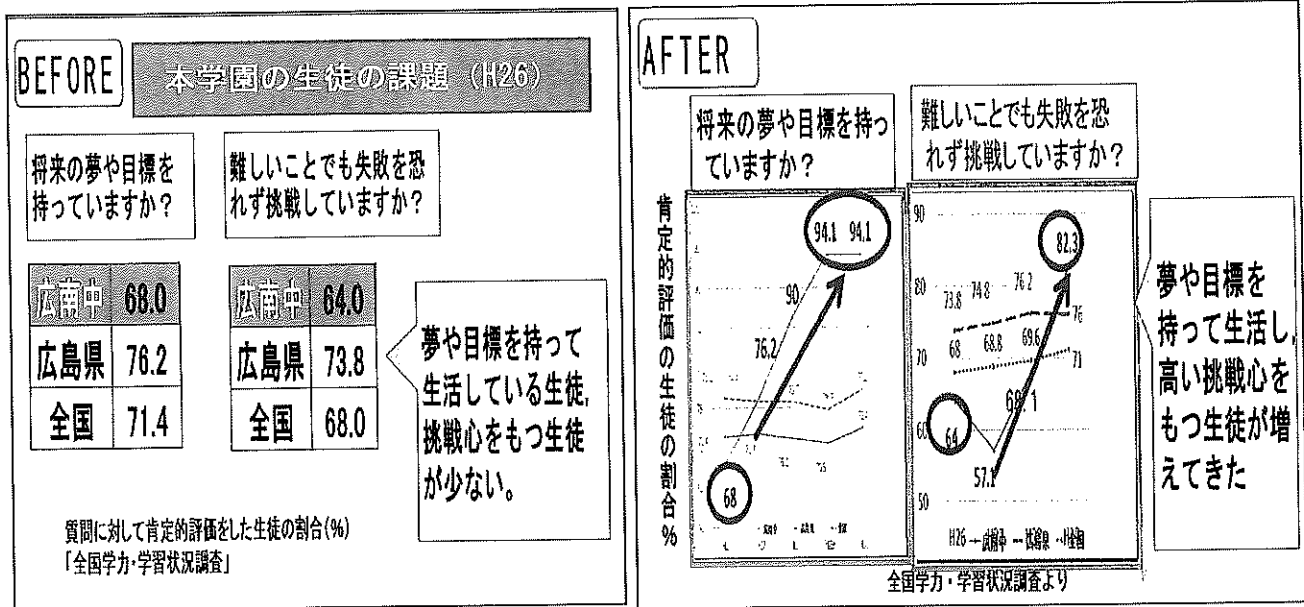
さらに、漢字検定、数学検定、英語検定の全てで3級以上を取得した児童生徒を、「トリプル3達成者」として表彰する等の仕掛けを講じ、「志を抱く」→「準備をする」→「挑戦する」という機会を、学校生活のあらゆる場面で積極的に与えていった。

未来 (Society5.0) を見据えて 挑戦の文化

挑戦することが学園の伝統文化として育っている



その結果、達成が困難と思えることにも失敗を恐れず挑戦することが学園の伝統文化として育ってきており、夢や目標(肯定的評価90%以上)、挑戦心(肯定的評価80%以上)の課題は大きく改善するとともに、「学習習慣・学習動機・学習意欲」「課題発見・解決学習」の項目における肯定的評価も、県平均を遥かに上回り80%以上となる等、多くの成果を上げてきた。令和2年度からは、いわゆるコロナ禍の影響もあり、目標値を下回ってきたが、令和5年度からは、授業や行事に行動制限がなくなり、どの項目も改善に転換し県平均を上回った。肯定的評価の向上を指標としながら、更に様々な取組を進めていくことが今後の課題である。



指標(学習と生活アンケートの項目アンケートのそれぞれの平均)	H29		H30		R1	R2	R3	R4	R5	R6
	肯定的評価	県平均とのポイント差	肯定的評価	県平均とのポイント差	肯定的評価	肯定的評価	肯定的評価	肯定的評価	肯定的評価	肯定的評価
学習習慣・学習動機・学習意欲	85%	+20	80%	+14	81%	80%	88%	90%	77%	82%
課題発見・解決学習	89%	+26	86%	+23	85%	84%	91%	90%	81%	87%

今、社会は、AI とロボット技術の急速な進化により「Society5.0」への急速な変貌を遂げているが、児童・生徒の生活も確実に大きく変貌しつつある。

そこで、平成31年度(令和元年度)から研究主題を「Society5.0 を生きる資質・能力の育成」とし、その中でも情報活用能力は「Society5.0」を生きる重要な「資質・能力」のひとつとなると考え、9年間を見通した「ICT 貫きカリキュラム」の開発、実践、改善を重点的に取り組んでいる。また、平成30年西日本豪雨災害を受け、津波を想定した避難プログラムと9年間を見通した「防災 貫き教育のカリキュラム」の開発、実践、改善にも取り組んでいる。

令和3年度には、前年の小学校に続き中学校でも新学習指導要領が全面実施され、指導と評価の一体化の重要性が鮮明になったことを踏まえ、児童・生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に引き続き取り組んだ。令和4年度も、同様に、評価の場面や方法を工夫して「授業改善と評価改善」を両輪として取り組んできた。

令和5年度及び令和6年度は、広島県及び呉市の研究指定を受け、本学園の特色ある教育課程をベースにして「主体的に考え、議論し、自己の生き方を考える道徳科の授業づくり」を中心とした「授業改善と評価改善」の取組を進めた。令和7年度は、この取組を継続し発展させる予定である。

広南学園グランドデザイン

学園教育目標

未来を創る

目標の具現化に向けて

「誇りを持って故郷を語り、受け継ぎ、発展を担う
志と力を育てる教育の創造」

ミッション

夢と志をもち、社会に貢献する人材を育成する

ビジョン

- 深い学びの精神と感謝の気持ち、社会貢献への気概をもつ児童生徒を育て、地域から信頼される学校
- 地域文化の拠点として地域の活性化に貢献する学校

児童生徒実態

- 明るく元気でよく挨拶をする
- 小中一貫教育の中で着実に成長

- 学力の二極化
- メディアコントロールが課題

保護者・地域実態

- ・ 地域の学習材が豊富
- ・ 児童生徒の成長に大きな期待
- ・ 保護者同士がそれぞれ親密
- ・ 教育活動に協力的
- ・ 地域におられる豊かな人材

広南学園学校運営協議会

目指す児童生徒像

～ 挑戦 自律 真摯 ～

- 夢を持ち、夢を語り、志を抱き、その実現に向けて挑戦する児童生徒
- 時を守り、場を清め、礼を正し、学びを求める児童生徒
- 自ら課題を見付け、その解決に向けて、常に努力し続ける児童生徒

目指す教職員像

～ 知識 見識 胆識 ～

- 広い知識と教養をもつ尊敬される教職員
- 義務教育9年間を見据え、常に自己研鑽に励む情熱ある教職員
- 率先垂範と徹底指導により、使命感をもって目指す児童生徒を育成する教職員

呉市立広南小学校

〒737-0136

広島県呉市広長浜四丁目1-26

TEL 0823 (71) 7965 FAX 0823 (71) 4112

呉市立広南中学校

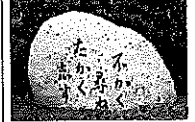
〒737-0136

広島県呉市広長浜四丁目1-9

TEL 0823 (71) 7920 FAX 0823 (74) 3502

【校章】

【校訓】



- 小中9年間を見通した児童生徒の指導体制の確立
- 「本時の展開」の授業改善（横の目）

「指導力」向上部会

児童生徒の主体性（学びに向かう力・人間性）を育てる指導の工夫

【指導技術・評価の改善】

言葉磨きと ICT 活用力の向上、
次時へ生かす振り返りの充実

- 授業改善
 - ・ 「はなしたいわ」シートの活用
 - ・ 「思考を促し深める」発問・指示の工夫
 - ・ 「自分の考えを理由を明らかにして分かりやすく伝える」発表の工夫（三角ロジックの活用）
 - ・ 「めあて」の達成に向けた ICT の効果的な活用
- 評価改善
 - 「主体的に学習に取り組む態度」を見取る振り返り

【相手大切に礼儀の校風づくり】
・ 児童委員会、生徒会活動
・ いじめ撲滅プロジェクト

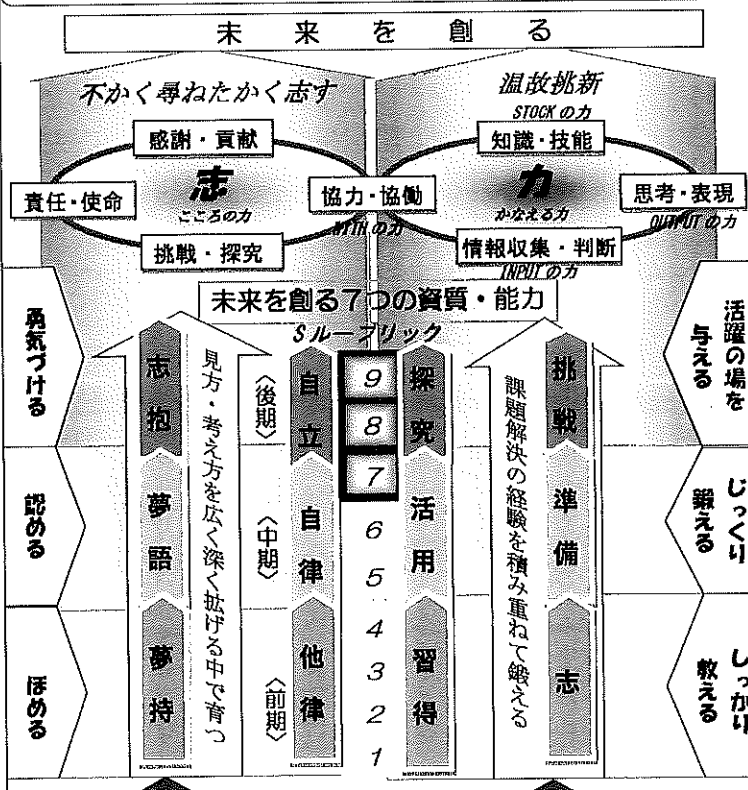
- 【先輩後輩・地域との絆づくり】
- 絆 PROJECT（異年齢交流）
- 学園朝会
- 芸術鑑賞会・広南寄席（中）
- 広南学園運動会
- 広南劇場（中）学習発表会（小）
- 起業企画、防災企画（中）
- 二分の一人式（小）
- せとうち海援隊活動
- プルタブ集め（小）
- エコキャップ集め（中）

【健康・運動・生活づくり】

- ・ 生活ルーブリック
- ・ 「5つの合言葉・3つの約束」
- ・ メディアコントロール
- 業間体育、ロング屋休憩（小）
- 部活動（中）
- 食育の充実 ○ 読書活動

R7 研究主題

「Society5.0 を生きる資質・能力の育成をめざして」
～主体的に考え、議論し、自己の生き方を考える道徳科の授業づくりを通して～



保護者との連携

【協働的な子育て】
・ 「5つの合言葉・3つの約束」

【PTA参加行事】

- ・ 「学校に行こう週間」の取組
- ・ PTC 行事、土曜・日曜参観日の充実
- ・ PTA 球技大会

【PTA主催行事】

ふれあい活動（小）、PTA バザー（中）

地域の教育力活用

- 【学習】【行事】 各教科等の学習、落語、尺八、着付け、筆、書道、茶道、キャリアスタートウィーク、起業企画、読み聞かせ、放課後学習、昔遊び 等
- 【地域行事】 小坪神楽、祭礼（小坪・長浜）ふれあいサロン（中）、広地区教育祭（中）
- 【安全】 「7・9広南防災の日」、交通安全推進委員会安全パトロール
- 【部活動】（中）文化活動部、バレーボール部、ソフトテニス部

- 小中9年間を見通したカリキュラムマネジメント
- 「貫きカリキュラム」・単元のマネジメント（横の目）

「学びがい」向上部会

学習内容の学びがい（学ぶ価値・学びの質）を深める工夫

（課題発見・解決学習の単元開発と内容のまとまりごとの評価）

Society5.0を見据えた

カリキュラムデザイン

- 挑戦問題の開発（つなぐ・磨く）
- 内容のまとまりごとの評価の工夫
 - ・ 「主体的に学習に取り組む態度」を見取る振り返り
- 「個人内評価」の工夫
 - ・ 「Sルーブリック」
 - ・ 「キャリアログ」の活用（各学年末、小中の節目）
- 貫きカリキュラム等の実践、改善
 - ・ 「ICT 貫きカリキュラム」
 - ・ 「防災 貫きカリキュラム」
 - ・ 「道徳学習プログラム」

【「資質・能力」ルーブリックの活用】

- 「Sルーブリック」で「資質・能力」の価値の共有

【活躍・挑戦の場づくり】

- 総合的な学習の時間（中）
 - ・ 落語、HM II、創作劇
- 授業での活躍の場
 - ・ 予習課題・復習課題の活用（Qubenaの活用）
 - ・ ミニ発表会、班発表
 - ・ ミニ先生、教えあい
- 校内外の挑戦の場
 - ・ 「トリプル3+1」（中）（漢検・数検・英検+防災検定）
 - ・ 「二刀流」（小）（漢検・剣道+剣道）
 - ・ 各種学力調査
 - ・ 科学研究、発明工夫
 - ・ 各種応募作品
 - ・ 陸上記録会（小）
 - ・ 創外的な大会（中）

2 令和7年度 研究主題および研究仮説

Society5.0 を生きる資質・能力の育成

～主体的に考え、議論し、自己の生き方を考える道徳科の授業づくりを通して～

主題設定の理由

学習指導は、これまで「課題発見・解決学習」の単元づくりと、「言葉磨き」、「ICT の効果的な活用」、「はなしたいわシート」の活用」に視点を当て、本時の展開の授業改善を積み上げてきた。学習評価は、学園として研究を深めることに取り組んでいる。今年度も、「主体的に考え、議論し、自己の生き方を考える道徳科の授業づくり」を中心として、授業(言葉磨き・ICT・はなしたいわシートの活用)と評価を改善していくことで、児童・生徒の7つの「資質・能力」の育成を図る。特に、プロジェクト学習等を意識し、主体的な学びを促す授業改善を図っていく。

3 研究推進体制

広南中学校区 管理職ミーティング (原則隔週)

【 広南中学校区 小中一貫教育学園企画会議 】 (原則月1回)

校長、教頭、小中一貫教育推進コーディネーター、教務主任、研究主任、生徒指導主事、道徳教育推進リーダー

【「指導力」向上部会】

ミッション

- ・小中9年間を見通した指導体制の確立
- ・「本時の展開」の授業改善(蟻の目)

部会 研究テーマ

児童生徒の主体性(学びに向かう力・人間性)を育てる指導の工夫 【指導技術・評価の改善】

R7 研究テーマ

- 言葉磨きとICT活用力の向上、振り返りの充実
- 授業改善
 - ・「思考を促し深める」発問・指示の工夫
 - ・「自分の考えの理由を明らかにして分かりやすく伝える」発表の工夫(三角ロジックの活用)
- ・めあての達成に向けたICTの効果的な活用
- ・「はなしたいわ」シートの活用
- 評価の工夫
 - ・「主体的に学習に取り組む態度」を見取る振り返り
- 相手を大切に作る礼節の校風づくり
- 先輩後輩・地域との絆づくり
- 健康・運動・生活づくり
 - ・生活ルーブリック・「5つの合言葉・3つの約束」
- ・メディアコントロール

校長(中)、教頭(小)、小中一貫CO(中)

教職員

【「学びがい」向上部会】

ミッション

- ・小中9年間を見通したカリキュラムマネジメント
- ・「貫きカリキュラム」、「道徳学習プログラム」を中心とした単元のマネジメント(鷹の目)

部会 研究テーマ

学習内容の学びがい(学ぶ価値・学びの質)を深める工夫 【課題発見・解決学習の単元開発と内容のまとめりと評価】

R7 研究テーマ

- 「Society5.0」を見据えたカリキュラムデザイン
- 挑戦問題の開発(つなぐ、磨く)
- 内容のまとめりと評価の工夫
 - ・「主体的に学習に取り組む態度」を見取る振り返り
- 「個人内評価」の工夫(Sルーブリック)
 - ・「キャリア・ログ」の活用(各学年末、小中の節目)
- 貫きカリキュラム
 - ・「ICT 貫きカリキュラム」「防災 貫きカリキュラム」「道徳学習プログラム」の実践・改善
- 活躍・挑戦の場づくり
 - ・授業での活躍の場
 - ・校内外への挑戦の場

校長(小)、教頭(中)、小中一貫CO(小)

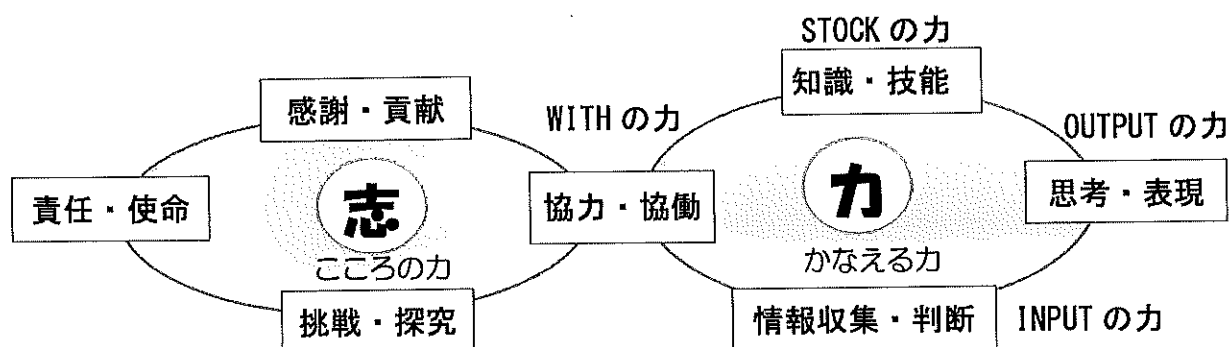
教職員

4 広南学園の教育目標を実現する「資質・能力」の設定

令和7年度の学園教育目標「未来を創る」

「誇りを持って故里を語り、受け継ぎ、発展を担う 志 と 力 を育てる教育の創造」

<未来を創る 志 と 力 を育てる「2つの柱」と「7つの資質・能力」>



資質・能力			めざす学びの姿（評価規準）
力	問題解決へ向かう探究の能力	知識・技能	課題解決に必要な知識や技能を習得し、活用することができる。
		情報収集・判断	尋ねたり、調べたり、試したりして、必要なものを見付け、選び出すことができる。
		思考・表現	しっかり考えて、学びを自分のものにして表現することができる。
		協力・協働	他の人と協力し、いろいろな意見やそれぞれの力を生かすことができる。
志	主体的・協働的に地域社会に参画しようとする意欲と態度	感謝・貢献	感謝の心を持って、自分なりに貢献することができる。
		責任・使命	自分の役割や使命を考え、すべきことを行うことができる。
		挑戦・探究	夢を持ち、疑問やできないことを大切に、見通しを持って粘り強く学び続けることができる。

5 学びがい（学ぶ価値と学びの質）を向上させる授業改善のポイント

(1) 教科横断的・総合的な問題解決の学習の流れを念頭に置いた深い学びの過程になっているか。

単元計画 <貫きカリキュラム・道徳学習プログラム・カリキュラムマップの活用>

(2) 他者との協働や外界との相互作用を通じて自分の考えを広げ深める対話的な学びの過程になっているか。

授業の展開 <TPOに応じた言葉磨き、三角ロジック、ICT、はなしたいわシートの活用>

(3) 意欲的に学びに向かい、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習を振り返って次につなげる主体的な学びの過程になっているか。

授業の導入および終末 <ICT等を活用した意欲付け> <児童生徒の振り返りの活用>

(4) どのような「資質・能力」が育つか、学びの質を見取る評価規準の共有がなされているか。

※ 今年度は、上記の4つの視点で指導案を作成し、授業研究を行う。また、小中での授業研究に向けて、蟻の目(本時の展開)と鷹の目(貫きカリキュラム)による合同カンファレンスを行う。

〇〇科	第〇学年	呉市立広南〇学校	指導者 〇〇 〇〇
単元名 「単元名(題材名)」 挑戦問題 『 本単元で育成する資質・能力 知識・技能 情報収集・判断 思考・表現 挑戦・探究 協力・協働			

1 対象・日時 第〇学年〇組 〇名
令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時

資質・能力について、必要ない項目は削除する。

2 単元で目指す学ぶ姿

<単元で学びの姿を見取る資質・能力のルーブリック>

資質・能力		評価規準
知識・技能	知識	〇〇〇.....
	技能	〇〇〇〇.....
思考・表現力・判断力	情報収集・判断	Sルーブリック 7つの資質・能力のうち、単元を通して、どれを主に育成しようとするのか。また、その資質・能力のSの状態を指導者が意識して、単元づくりをする。
	思考・表現	
（主体的に学習に取り組む態度） 学びに向かう力・人間性	挑戦・探究	授業では、育成しようとする資質・能力をさらに絞り、Sの状態を生徒にしっかり意識させ、自らの学びの状態を振り返らせることで、資質・能力の育成を図る。
	責任・使命	
	協力・協働	
	感謝・貢献	

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、.....
 〇〇〇〇を.....
 〇〇〇

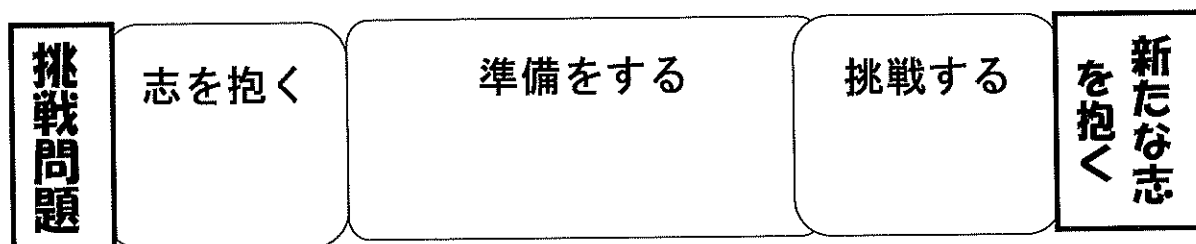
(2) 生徒観

〇〇〇.....

(3) 指導観

指導にあたっては、次の①～⑤の5つのポイントで授業改善を進める。

- ① 挑戦問題から始まる課題発見・解決学習の流れを次のように設定する。



- ② 考え議論する

〇〇〇・・・・・・・・・・。

- ③ 言葉磨き

〇〇〇・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。

次の2点の工夫について、記入する。

- 発問・質問（生徒の考えを広げたり深めたりする）

共感（生徒の主体性を引き出す共感的な評価活動「ほめる」「認める」「勇気づける」）

（例）

Before 「ほうきは、先が痛むので、先を上にして置いてください」

After 「あなたはほうきをどのように置きますか？」課題発見

「このほうきの先は、なぜ痛んでと思いますか？」思考

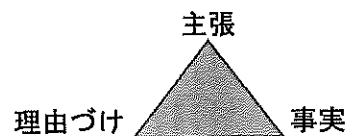
「今気づいたことを次からやってみてください。どんなことに気づいてくれたのか
楽しみにしています」解決策の実行と評価

- 三角ロジック（事実に基づいて理由づけをし、主張できる生徒の言語能力の育成）

発表の原則（話型）

A 私は、・・・だと思います（考えました）。

理由は・・・だからです。みなさん、どうですか？



- ④ ICTの活用

Google、ロイロノート、カメラ機能、画像・動画編集、インターネット等々の機能を、どのような形態で（ICT個別、ICT協議、ICT一斉）、どのように効果的に活用するかについて記入する。

- ⑤ 評価の工夫

次の3点の工夫について、記入する。

- 本時の「めあて（課題）」と「まとめ（評価）」がつながるような振り返りをさせる。
- 児童生徒が自分の言葉で振り返りをするよう指導する。
- 授業の中で、前時の振り返りや、予習課題や復習課題を活かした指導をする。

4 指導と評価の計画（全○時間）

次	学習活動	知 技	思 判 表	主	評価規準【資質・能力】 (評価方法) ○評定として見取る評価 ●評定として見取らない評価
1	課題の設定 挑戦問題 各教科、小中、社会とつなぐ単元づくり 他の単元や教科、小中、実社会とのつながりを見通した「貫きカリキュラム」を 意識した単元計画を工夫する。				思考・判断・表現【情報収集・判断】
2	情報の収集				
3	整理・分析				
4	整理・分析				
5	情報の収集				
6	整理・分析				
7	まとめ・創造・表現				

5 本時の学習（○時間目／全○時間）

（1）本時のねらい

○○○・・

○○○することができる。

・教科の評価の観点『 』 ・資質・能力【 】

（2）学習の流れ

	学 習 内 容	児童の活動（形態を含む） 指導上の留意点 （・）	評価規準 【資質・能力】 （評価方法）
導 入 分	○ 前時の振り返りの紹介、家庭学習および既習事項の確認等を行い、前時とつなげる。		
課題意識を持つ	○「 」 児童に課題意識を持たせるための教師の発問の具体例	児童に期待する思考や発言の具体例	
	めあて：		
展 開 分	ICT 一斉 ○ 「 」 学びを深めるための教師の発問の具体例	ICT 協議 ・ 話型 児童に期待する思考や発言の具体例	『思・判・表』 【 】 ・・・ことができる。 ()
終 末 分	○ まとめ： めあてに対応したまとめをする。 できれば、児童の言葉でまとめさせ ○振り返りをかく。 視点を与えた振り返りを書くことで、次時につなげる。		

〇〇科	第〇学年	呉市立広南〇学校	指導者 〇〇 〇〇
単元名	「〇〇〇〇〇・」 単元名(題材名)		

1 対象・日時 第〇学年〇組 〇名
令和7年〇月〇日（〇）第〇校時

2 単元を構成する問い

「本質的な問い」・「単元を貫く問い」について	
本質的な問い	〇〇〇〇・・・・※MSゴシック太字
単元を貫く問い	〇〇〇〇・・・・※MSゴシック太字
「単元（題材）について」【単元観】	
〇〇・・・・	
〇〇・・・・ ※MS明朝	
生徒について【生徒観】	指導の工夫について【指導観】
〇〇・・・・ ・・・・。	〇〇・・・・ ・・・・。 「考え議論する」「言葉磨き」「ICTの活用」「評価の工夫」を視点に記述する。

3 単元（題材）の目標

〇〇〇・・・・
〇〇〇・・・・ ※MS明朝

4 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①〇〇・・・・ 〇〇・・・・ 知 ① ②〇〇。 知 ② ※MS明朝	〇〇・・・・ 〇〇・・・・ 思	〇〇・・・・ 〇〇・・・・ 態

5 単元の計画（全〇時間）

時	学習内容	評価規準				他の単元・教科、小中、社会とのつながり
		知	思	態	評価方法	
1	課題の設定 『〇〇・・・・。(?)』 ※MS明朝 整理・分析 情報の収集 ・〇〇・・・・ 〇〇・・・・ ※MS明朝	①	〇		・活動の観察 ・発表 ・記述の分析 ・ワークシート ・レポート 等	【小学校】 【〇〇科】 【社会とのつながり】 〇〇・・・・
〇 (本時)	まとめ・創造・表現 ・			〇	・〇〇 ・〇〇	

6 本時について（本時 ○/○）

（1）本時の目標

○○・・

○○・・・・・・・・・・。 ※MS明朝

（2）本時の展開 ※分かりやすいように、字体・フォントの変更可

	学 習 活 動	児童生徒の活動（形態を含む） 指導上の留意点（・）	◎評価規準（評価方法） ◇「努力を要する」状況と判断した児童生徒への手立て
導 入 ○分	○	前時の振り返りの紹介、家庭学習および既習事項の確認等を行い、前時とつなげる。	◇ペア活動
課題意識を持つ	児童生徒に課題意識を持たせるための教師の発問の具体例	児童生徒に期待する思考や発言の具体例	
	めあて：		
展 開 ○分	ICT 一斉 ○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ・・・・・・。	ICT 協議 ・○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ・・・・。 話型	◎について考えている。（記述の分析） ◇話し方のモデルを示す。
学びを深める	学びを深めるための教師の発問の具体例	児童生徒に期待する思考や発言の具体例	
終 末 ○分	○		
学習過程を振り返る	まとめ： ○振り返りをかく。	めあてに対応したまとめをする。 児童生徒の言葉でまとめさせる。 視点を与えた振り返りを書くことで、次時につなげる。	

〇〇科学習指導案（略案）

呉市立広南中学校
指導者 〇〇 〇〇

- 1 日 時 令和〇年〇月〇日（曜日） 第〇校時
- 2 学年・学級 第〇学年〇組（〇名）
- 3 単 元 名 〇〇・・・。
- 4 本質的な問い 〇〇・・・。
- 5 単元を貫く問い 〇〇・・・。
- 6 本時のねらい 〇〇・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
〇〇・・・・・・・・。

7 学習の流れ

	学習内容	生徒の活動（形態を含む） 指導上の留意点（・）	◎評価規準（評価方法） ◇「努力を要する」状況と判断した生徒への手立て
導入 (〇分) 課題意識を持つ	○前時の振り返りの紹介、家庭学習及び既習事項の確認を行う。	ICT 一斉 生徒に期待する思考や発言の具体例	◇ペア活動
めあて：			
展開 (〇分) 学びを深める	○生徒の活動やグループ活動 共感 ○ 発問	ICT 協議 生徒に期待する思考や発言の具体例 話型	◎について考えている。（記述の分析） ◇話し方のモデルを示す。
終末 (〇分) 学習過程を振り返る	○生徒のことばでまとめさせる。		
まとめ：			
	・振り返りシートに記入する。 ・復習課題を提示する。		

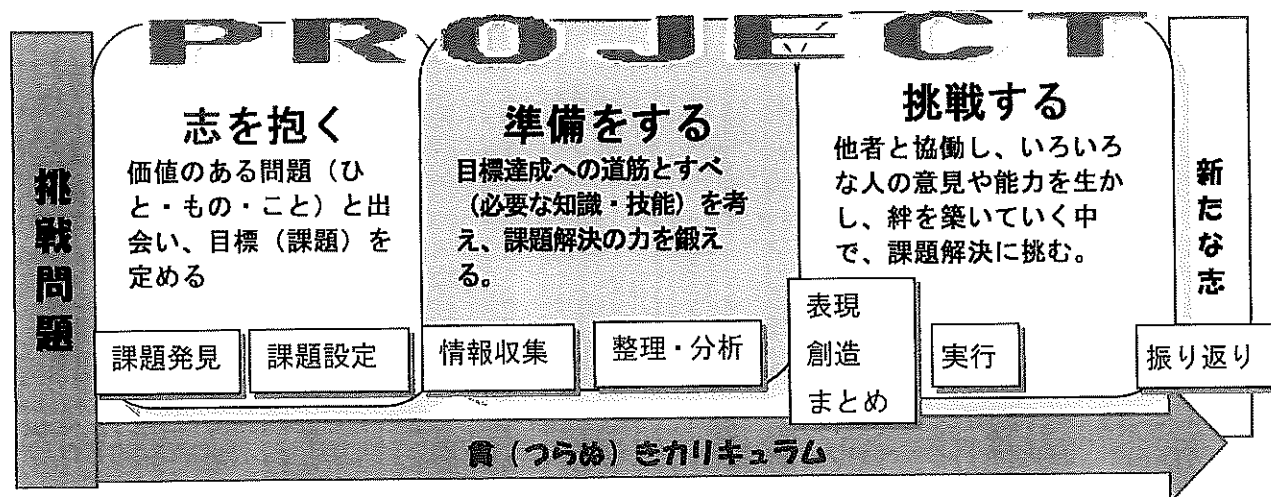
教科の見方・考え方（本時）：

6 カリキュラムマネジメント

○ カリキュラムデザイン **貫きカリキュラム**

教師の願いを基盤として、一つの挑戦問題から始まる課題発見・解決学習の流れを、実社会における横断的・総合的な探究の過程に沿って様々な単元・題材等を関連付け一つの PROJECT として貫きを持たせることで、児童生徒の主体性を引き出し、実社会における問題解決に向かう志と探究的な能力(資質・能力)を育てるカリキュラムに高める。

実社会における問題解決に向かう探究の過程



なお、本校では、「課題」と「問題」の用語については次のように整理している。

挑戦問題	解決すべき問題と出あわせるため教師から行う意図的な問題提起
課題発見	教師の問題提起を受けて児童生徒が自ら見出す自分で取り組むべき課題 または、学習の結果、児童生徒が自ら見出すさらなる取り組むべき課題
課題設定	課題解決へむけての見通しを示したもの
課題解決	課題解決により問題解決へむけてのすべ(知識・技能など)を得ること
問題解決	課題解決で得られたすべと協働的な営みの積み重ねにより挑戦問題の解決を図ること

7 評価計画

短期スパン→資質・能力ルーブリックを活用して形成的評価に活用

毎時間の授業、行事の目標を資質・能力のルーブリックを活用して設定

短・中期スパン→単元ごと総括的評価

【単元始め】単元目標にそった資質・能力ルーブリックの提示

【単元終わり】パフォーマンス評価等を活用し、ルーブリックに基づく自己評価+他者評価

中期スパン→学期ごとに総括的評価 (県のデータと比較することで客観性を確保)

【7月】1学期の振り返り (学習と生活のアンケート項目の活用)

【12月】1・2学期の振り返り (学習と生活のアンケート項目の活用) (次ページ参照)

長期スパン(1年ごと)個人内総括的評価+総括的評価

【4月】未来を創る力の全体像の提示

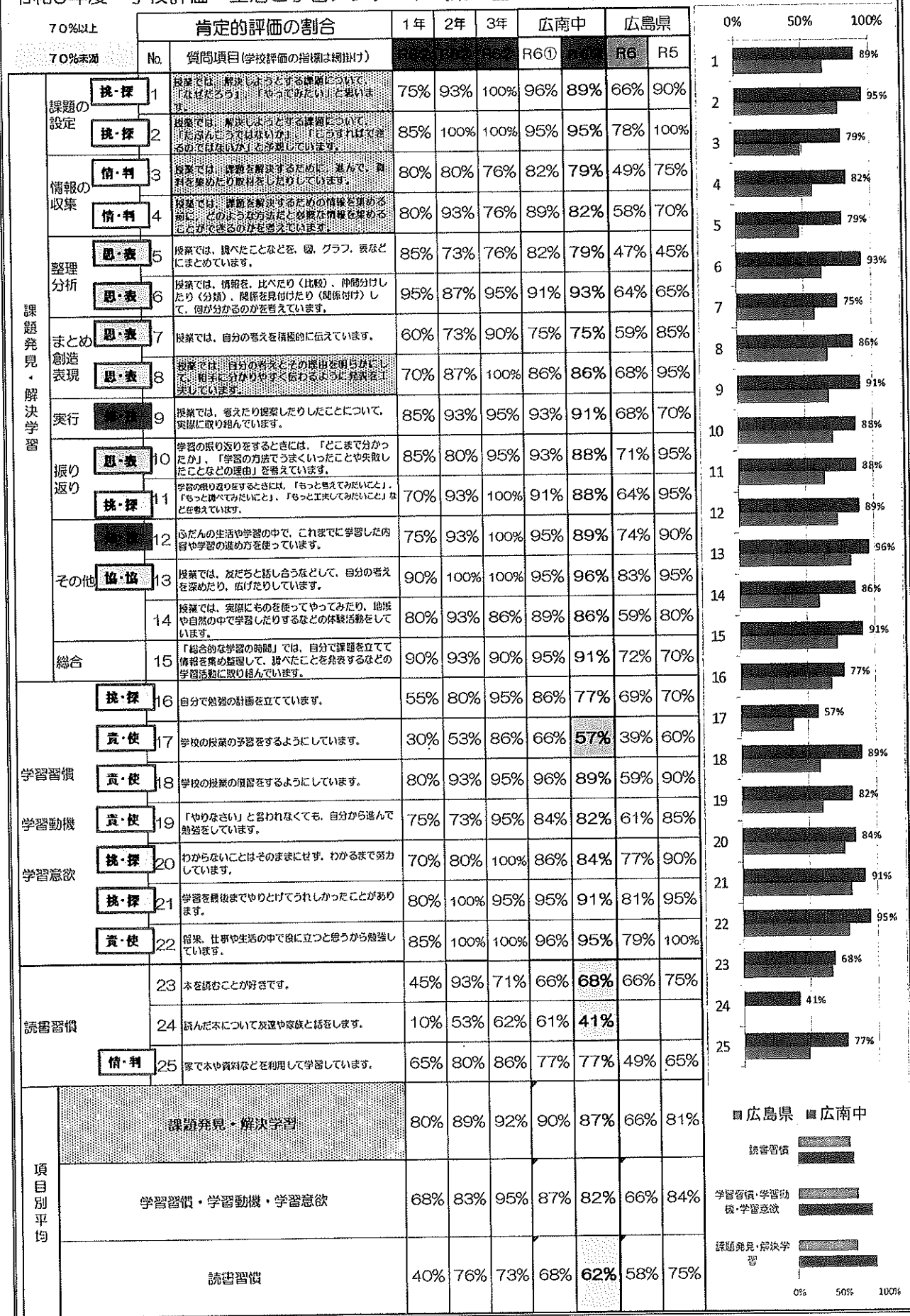
※ 今年度は、これらのスパン(短期・中期・長期)の資質・能力の評価を、キャリア・ログを活用しながら研究する。

中期スパンの資質・能力の変容には、学習と生活のアンケート項目を活用（小学校）

学校 評価	領域	「生活と学習」アンケート	肯定的評価 12月											7月 10日	前年度 7月10日
			第1 学年	第2 学年	第3 学年	第4 学年	第5 学年	第6 学年	人数	学習 意欲	学習 習慣	学習 態度	学習 成果		
1	学習習慣・学習意欲・学習意欲	学校の授業の予習をするようにしています。			100%	69%	100%	93%	47	52	90.4%	90.6%	54.8%		
2		予習学習では、分からないことや問題の解き方、考えの説明などを気付きに かいている。			100%	77%	100%	93%	48	52	92.3%	86.8%			
3		学校の授業の復習をするようにしています。	100%	94%	100%	77%	94%	100%	73	78	93.6%	93.7%	66.0%		
4		学習を最後までやりとけて、うれしかったことがあります。	100%	100%	89%	77%	100%	86%	72	78	92.3%	92.4%	87.1%		
5		将来、仕事や生活の中で役に立つと思うから勉強しています。	100%	94%	100%	92%	94%	93%	74	78	94.9%	94.9%	86.1%		
6		分からないことはそのままにせず、分かるまで努力しています。	100%	88%	100%	85%	100%	100%	74	78	94.9%	96.2%	84.1%		
7		「もっと力をつけたい」、「分かるようになりたい」から勉強しています。	100%	100%	100%	85%	94%	93%	74	78	94.9%	93.7%			
8	「課題発見・解決学習」	授業では、解決しようとする課題について、「たぶんこうではないか」「こ うすればできるのではないかと」予想しています。		88%	100%	85%	94%	93%	63	69	91.3%	92.4%	86.6%		
9		授業では、課題を解決するために、進んで資料を集めたり取材をしだして います。			100%	77%	94%	93%	47	52	90.4%	90.6%	62.4%		
10		授業では、課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必 要な情報を集めることができるのかを考えています。			89%	77%	75%	86%	42	52	80.8%	92.5%	89.0%		
11		授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。			100%	77%	94%	100%	48	52	92.3%	90.6%	70.5%		
12		授業では、情報を、比べたり（比較）、仲間分けしたり（分類）、関係を見 付けたり（関係付け）して、何が分かるのかを考えています。	100%	94%	78%	77%	100%	100%	72	78	92.3%	94.9%	74.5%		
13		授業では、自分の考えを積極的に伝えています。	100%	100%	89%	46%	88%	79%	65	78	83.3%	92.4%	66.9%		
14		授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝 わるように説明しています。	100%	100%	100%	69%	94%	93%	72	78	92.3%	91.1%	72.4%		
15		授業では、考えたり提案したりしたことについて、実際に取り組んでいま す。	100%	94%	89%	77%	100%	100%	73	78	93.6%	97.5%	74.9%		
16		学習の振り返りをするときには、その時限の「振り返りの視点」に合わせて、学んだことを整理し たり、次の学習につなげたりしようとしています。	100%	94%	100%	69%	100%	100%	73	78	93.6%	92.4%			
17		授業では、友だちと話し合うなどして、自分の考えが深まったり、広がった り、分からないことが分かったりします。	100%	100%	100%	77%	100%	100%	75	78	96.2%	96.2%			
18		ふだんの生活や学習の中で、これまでに学習した内容や学習の進め方を使っ ています。	100%	100%	100%	69%	94%	100%	73	78	93.6%	93.7%	82.4%		
19	授業では、実際にものを使ってやってみたり、地域や自然の中で学習したり するなどの体験活動を行っています。	100%	100%	100%	85%	94%	100%	75	78	96.2%	92.4%	77.7%			
20	道徳	道徳の授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたり しています。	100%	94%	89%	92%	100%	100%	75	78	96.2%	97.5%	82.6%		
21	総合	「総合的な学習の時間」では、自分で課題をたてて情報を集め整理して、調 べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。			100%	69%	88%	100%	46	52	88.5%	94.3%	75.3%		
22	改善計画	国語の授業では、分からない言葉や漢字は、辞書を使って調べています。			100%	46%	88%	79%	40	52	76.9%	92.5%			
23		国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり 読んだりするときに活用しようとしています。		100%	78%	92%	94%	86%	63	69	91.3%	90.6%			
24		算数の授業では、とき方や考え方を絵や図などに表して考えています。		100%	100%	69%	100%	100%	65	69	94.2%	92.5%			
25		算数の授業で公式やきまりを語るとき、そのわけを理解するようにしていま す。			100%	85%	100%	100%	50	52	96.2%	92.5%			
26	読書活動	本を読むのが好きです。	100%	88%	89%	54%	81%	86%	64	78	82.1%	84.8%	73.9%		
27		読んだ本の内容について、友だちや家族と話をしています。	100%	76%	100%	31%	81%	57%	56	78	71.8%	65.8%			
28	ICT	タブレットを使うことで、しっかり考えたり理解したりすることができます。	100%	100%	100%	92%	100%	93%	76	78	97.4%	96.2%			
29		タブレットを使うことで、勉強したい、調べたいという思いをもったことがあります。	89%	94%	78%	92%	100%	93%	72	78	92.3%	96.2%			
30	防災	「自分の家は自分で守る」という思いをもっていますか。	100%	100%	100%	100%	100%	100%	78	78	100.0%	98.7%			
31	自主 学習	2学期の生活目標「はきものをそろえよう」	100%	100%	100%	92%	100%	100%	77	78	98.7%	96.2%			
32	5つの 合言葉	時間を大切にする	100%	88%	100%	77%	100%	86%	71	78	91.0%	96.2%			
33		周りを美しく整える	100%	88%	67%	77%	94%	79%	66	78	84.6%	91.1%			
34		挨拶をする	100%	100%	89%	77%	94%	93%	72	78	92.3%	96.2%			
35		話をよく聞く	100%	88%	78%	77%	100%	93%	70	78	89.7%	96.2%			
36		自分の思いを伝える	100%	88%	78%	77%	94%	100%	70	78	89.7%	96.2%			
項目別 平均		学習習慣・学習意欲・学習意欲	100%	95%	98%	80%	97%	94%	66	71	93.5%	93.0%			
		課題発見・解決学習	100%	96%	95%	75%	94%	96%	64	70	91.8%	93.6%			
		読書活動	100%	82%	94%	42%	81%	71%	60	78	76.9%	75.3%			
		防災教育	100%	100%	100%	100%	100%	100%	78	78	100.0%	98.7%			
		ICT	94%	97%	89%	92%	100%	93%	74	78	94.9%	96.2%			
		5つの合言葉	100%	91%	82%	77%	96%	90%	70	78	89.5%	95.2%			

令和6年度 学校評価 生活と学習アンケート（第2回・12月実施）集計結果(中学校)

令和6年度 学校評価 生活と学習アンケート（第2回・12月実施）集計結果



本校で設定した資質・能力の高まりを意識した生徒の振り返り

○ 落語を通して、最も成長したと思う資質・能力は？（R6 1年生）

【思考・表現】落語を始める前は、自信がなくて、自分なりに表現することがとても難しかったけれど、落語を通して、自分なりに工夫したり、その場面が思い浮かぶような演技をすることができるようになりました。

【挑戦・探究】以前は、自分の殻を破ることができませんでした。落語を通して、場面によって声を変えたり、身振り手振りで表現したりして、新しい自分をつくることができました。

【知識・技能】落語の楽しさや魅力を、自分なりに理解して、それを周りの人に伝えることができました。

【協力・協働】同じグループの人たちに見てもらったり、アドバイスをもらい、それをもとに練習して「おもしろかった」と言ってもらえるような発表ができたから。

○ 2学期に身に付いた資質・能力は？（R6 3年生）

【協力・協働】協力の力が一番身に付いたと思います。クラス全員で取り組んだこと全て、協力して助け合ってきました。その中で、助けた人に助けられることがたくさんありました。

【協力・協働】協力・協働だと思います。理由は、社会に出て、人と協力することは、何よりも大切だし、それをふまえて、自分も力を伸ばしていくことができると思ったからです。

8 資質・能力ルーブリックの活用について

Sルーブリック

さらに上質な学びのイメージをSとして生徒と共有することで、学びの価値や学びの質を高める

S: Super(期待する活動以上に、何かプラスαが見られる) 下線部がプラスアルファ

A: 十分満足できる(期待する活動が十分見られる)

B: 概ね満足できる(期待する活動は見られるが、未到達な部分もある)

C: 努力を要する(期待する活動が見られない) ※到達目標をAとする。

S~Cの4段階評価は、黒川晴夫(関西大学総合情報学部)教授の考え

<資質・能力のルーブリック(基本)>

		資質・能力	評価	評価基準
問題解決へ向かう探究の能力	知識・技能	知識・技能	S	課題解決に必要な知識や技能を習得・活用して人に教えることができる。
			A	課題解決に必要な知識や技能を習得し、活用することができる。
			B	課題解決に必要な知識や技能を習得することができる。
			C	課題解決に必要な知識や技能を習得することができない。
	思考力・判断力・表現力	情報収集・判断	S	尋ねたり、調べたり、試したりして、 <u>ものの見方や考え方を広げ深める</u> ことができる。
			A	尋ねたり、調べたり、試したりして、必要なものを見付け、選び出すことができる。
			B	尋ねたり、調べたり、試したりして、関係ありそうなものを見付けることができる。
			C	尋ねたり、調べたり、試したりすることができない。
		思考・表現	S	しっかり考えて、学びを自分のものにし、 <u>工夫や意見を加えて表現</u> することができる。
			A	しっかり考えて、学びを自分のものにして表現することができる。
			B	学んだことを表現することができる。
			C	学んだことを表現できない。
主体的・協働的に地域社会に参画しようとする意欲と態度	学びに向かう力・人間性	協力・協働	S	他の人と協力し、いろいろな意見やそれぞれの力を生かして課題を解決することができる。
			A	他の人と協力し、いろいろな意見やそれぞれの力を生かすことができる。
			B	他の人と協力しようと努力することができる。
			C	他の人と協力しようとしていない。
		感謝・貢献	S	感謝・貢献することを重ねることで絆を深めることができる。
			A	感謝の心を持って、自分なりに貢献することができる。
			B	感謝の心を持って、自分なりに貢献しようと努力することができる。
			C	感謝の心を持っていない。
		責任・使命	S	自分の役割や使命を考え、 <u>生き方の目標を見付け出す</u> ことができる。
			A	自分の役割や使命を考え、すべきことを行うことができる。
			B	自分の役割や使命を理解し、果たそうと努力することができる。
			C	自分の役割や使命を理解していない。
		挑戦・探究	S	夢を持ち、疑問やできないことを大切にし、 <u>新しい自分やものを創り出す</u> ことができる。
			A	夢を持ち、疑問やできないことを大切にし、見通しを持って粘り強く学び続けることができる。
			B	夢を持ち、疑問やできないことを大切にし、学び続けようと努力することができる。
			C	できないことや分からないことをあきらめている。

実際の授業では、発達段階・学習対象や内容に応じて児童生徒にも分かりやすいものに表現を変えて使用する。各 PROJECT や単元のルーブリックはこれを基準に考えて定める。

※ Sの内容については、児童生徒自身に考えさせたり、授業の中で見付けたりすることも効果的である。

9 広南学園授業観察シート（令和7年度）

呉市立広南小学校

令和 年 月 日（ ）

令和7年度 道徳科授業評価カード

第○学年

主題名：

内容項目：

教材名：「 」

授業者（ ）

参観者（ ）

評価項目	評価
① 主体的に考えてみたくなるような工夫（導入，教材提示等）ができていたか。	4 3 2 1
② 考え議論してみたくなるような発問であったか。	4 3 2 1
③ 話し合いを通して、自分の考えを深めたり広げたりしていたか。	4 3 2 1
【児童生徒の姿】	
④ 自分のことを振り返りながら考えていたか。	4 3 2 1
【児童生徒の姿】	
4 とてもあてはまる 3 あてはまる 2 あまりあてはまらない 1 ほとんどあてはまらない	
【授業者への助言】（気づき，意見，感想，励まし，改善策など）	

★協議会后，提出してください。

授業評価カード（令和7年度版）

広南中学校 授業参観シート

1 基本情報

学校名	広南中学校
学校で育成を目指す資質・能力	知識技能 情報収集判断 思考表現 挑戦探求
日時・学年・学級〔児童生徒数〕	月 日（ ） 校時 年 組〔 名〕
教科等・単元（題材名）	保健体育科 心の健康「欲求と心健康」
授業者	
参観者	

2-1 授業評価表（教員評価）

	評価項目	評 価
言葉磨き・考え議論	発問 質問 生徒の考えを広げたり深めたりするための的確な指示・質問・発問ができていたか。（深い学び）	4 3 2 1
	共感 生徒の主体性を引き出す共感的な評価活動（「ほめる」「認める」「勇気づける」声かけ）ができていたか。（主体的な学び）	4 3 2 1
	三角ロジック 事実に基づいて理由づけをし、主張できる生徒の言語能力の育成につながる的確な指導ができていたか。（対話的な学び）	4 3 2 1
情報活用能力	●生徒の情報収集・判断・活用能力を引き出す指導ができていたか。	4 3 2 1
	●ICT等を活用して授業改善を行っているか。 活用場面 ICT 個別 ICT 協議 ICT 一斉	4 3 2 1
振り返り・カリキュラム・マネジメント能力	○本時のめあて（課題）とつながる生徒のまとめ・振り返り（評価活動）を行わせることができたか。（主体的な学び）	4 3 2 1
	○内容のまとまりごとに、振り返りシート等を活用しながら、生徒の主体的に学習に取り組む態度を育てることができたか。（主体的な学び）	4 3 2 1
	○授業の中で、前時の振り返りや、予習課題や復習課題を生かした指導ができていたか。（主体的・深い学び）	4 3 2 1
	○理解や思考を促すワークシートやノート指導・板書等の工夫を行っていたか。（深い学び）	4 3 2 1
	○問題解決の過程を踏まえた指導（「しっかり教える」「じっくり鍛える」「活躍の場面を与える」）を意識した単元計画になっているか。（深い学び）	4 3 2 1
	○他の単元や教科、実社会とのつながりを見通した「貫きカリキュラム」を意識した単元計画の工夫はみられるか。（深い学び）	4 3 2 1
4 とてもあてはまる 3 あてはまる 2 あまりあてはまらない 1 ほとんどあてはまらない		

2-2 授業評価表（生徒の姿）

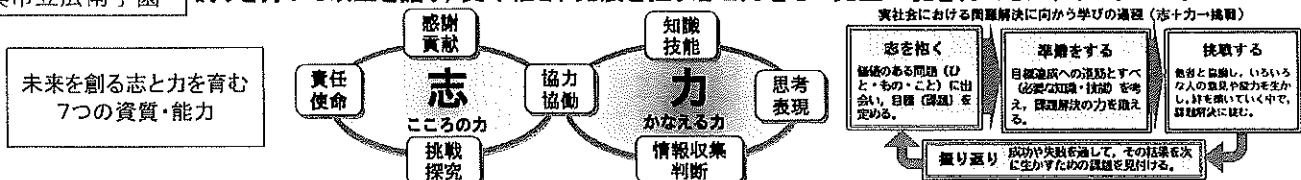
	目指す児童生徒の姿	単元や本時における 児童生徒の姿	評価とコメント A：充分満足できる B：おおむね満足できる C：努力を要する
1	【自分の考えの表現】 児童生徒は、課題に対して自分の考えをもち、論理的に表現している。	三角ロジックを用いて、自分の考えを「根拠」と共にまとめている。	[]
2	【他者との考えの交流】 児童生徒は、友達との話し合いや協働を通して、自分の考えを深めている。	自分の考えを、根拠を明確にして友達に説明したり、交流したことから自分の考えを再構築したりしている。	[]
3	【学習の振り返り】 児童生徒は、振り返りにより、自分が身に付けた学び方を認識している。	本時のめあてに沿って振り返りを行い、自分の言葉で表現している。	[]
4	【学び方の選択・学習の調整】 児童生徒は、（単元の様々な場面で）デジタル機器を活用し、自らの学び方の幅を広げている。	予習として調べていたことや、交流を通して得た情報を基にして、複数の事柄を根拠に自分の考えをまとめている。	[]

3 授業の気づき

時刻	■主な学習活動（発問、学習内容等を含む） □児童生徒の反応、具体的な姿	○児童生徒の姿に基づいた参観者の気づきや助言
		【本時のねらいの達成状況について】

4 今後の授業改善に向けた授業者への助言

3点程度に焦点化して、具体的に記述してください。



		教科等		道徳(地域教材等)		総合的な学習の時間・生活科		特別活動その他		校外への	
						生き方学習		ふるさと学習		挑戦	
後期の目標		9年生		8年生		7年生		6年生		5年生	
実社会との接続を促した探究的な学習の過程において、 学んだ知識・技能を活用し、協働的・創造的に学ぶ力を 通して、よりよい未来を創ろうとする志を抱き、志を叶える力 を身に入れるために、生涯に渡って学び続けようとする生徒 を育成する。		外国の人に日本の文化を伝えよう(英)		未来へ走れ (采谷選手)		自己PR大作戦		未来貢献 PROJECT		資質・能力の振り返り (各行事末・各学期末・各学年末)	
		地域の課題の解決法を考える(社)		志を胸に(黙葬)		FOR THE NEXT STEP				オープンスクールへの参加	
		日本チーム銀メダルの誇り(体)		日本人という意識						地域の文化祭への出演	
中期の目標		保育実習(普道びを伝えよう)(家)		日本人という意識		ようこそ先輩		広南起業 PROJECT		まちづくり事業	
		南中ソーラン(踊り)指導(体)		郷土を思う		職場体験				広教育祭への出店	
		落語の秘宝(国)		算額を作ろう!(数)						小学校・地域への出前落語	
前期の目標		外国の人に地域の文化を伝えよう(英)		一枚の絵 (日本遺産)		魅力的な生き 方探し (ビブリオトーク)		落語PROJECT		科学研究	
		日本チーム銀メダルの誇り(体)		ランナー (采谷選手)						ロボコン	
		身近な地域を見直そう(社)								三種検定	
前期の目標		南中ソーラン(踊り)習熟(体)		入船山記念館に こめられた思い (日本遺産)		輝け 自分の未来		歴史探訪 ～広南の宝～ 宇都宮県立・石炭文 庫・小坪神楽		漢検	
		広南の大地の生い立ちを探究2(理)		三田さんの思い (校歌)		いろいろな人の 生き方に触れる		石炭文庫由千しの お手伝い		科学研究	
										漢検	
前期の目標		広南の大地の生い立ちを探究1(理)		白神山地		和の心との出会い 茶道		自然を守ろう わたしたちの町		漢検	
		成長を振り返って未来へ進もう(国)				広南地区の防災対策について考えよう		広南の里山を守ることに チャレンジ		科学研究	
		広南小ソーラン(踊り)指導(体)								漢検	
前期の目標		発信しよう、私たちのSDGs(国)		折り紙大使 音楽発表会		二分の一成入式 に向けて		里山を守ろう う!		漢検	
		和の文化を発信しよう(国)		歴史の見える丘 から見たもの (日本遺産)						科学研究	
		わたしたちの生活と環境(社)								漢検	
前期の目標		広南小ソーラン(踊り)習熟(体)		ふるさとを守った 大イチョウ		もっと知ろうよ わたしたちの町 ・広南の町しらべ ・ひまわりプロジェクト ・地域の伝統や歴史を知ろう				漢検	
				ふるしき						科学研究	
				わたしたちの宝 「炭が峰」						漢検	
前期の目標		十年後のわたしへ(国)		小坪神楽を もう一度		どきどき わくわく まちたんけん もっとなかよし まちたんけん ・まちの人に聞きに行こう		あしたへジャンプ 大きくなった自分(生)		漢検	
		くらしの中の「和」と「洋」(国)		真つ黒な クレヨン (日本遺産)						科学研究	
		ごみのしよりと利用(社)								漢検	
前期の目標		きょう土のはってんにつくす(社)				がっこう だいすき ・はじめましてともだち ・ともだちとがっこうをたんけんしよう(生)		たのしいあきいっぱい ・こうえんであきさがそう(生)		漢検	
		広南小ソーラン(踊り)習熟(体)				じぶんのできるよ ・いえでのせいかつをみつめよう(生)				科学研究	
										漢検	
前期の目標		わたしのまち みんなのまち(社)		かんげい会の ごちそう						漢検	
		市のうつりかわり(社)								科学研究	
		広南小ソーラン(踊り)習熟(体)								漢検	
前期の目標		「わたし」の説明文を書こう(国)		がっこうにはね						漢検	
		グループの合い言葉を書きよう(国)		たのしい 広こうえん						科学研究	
										漢検	

令和7年度 生活科・総合的な学習の時間の全体計画

校番(2) 呉市立広南小学校

第1 目標

探究的な見方・考え方を働かせ、生き方について広く深く視野を広げるとともに、故里を知り、つながり、貢献する生き方と方策について横断的・総合的な学習を行うことを通して、主体的・協働的に地域社会に関わろうとする意欲と態度(志)と、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力(力)を育成する。

- (1) 探究的な見方・考え方を働かせ、生き方について広く深く視野を広げるとともに、故里を知り、つながり、貢献する生き方と方策について横断的・総合的な学習を行うことを通して、主体的・協働的に地域社会に関わろうとする意欲と態度(志)と、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力(力)を育成する。
- (2) 探究的な見方・考え方を働かせ、生き方について広く深く視野を広げるとともに、故里を知り、つながり、貢献する生き方と方策について横断的・総合的な学習を行うことを通して、主体的・協働的に地域社会に関わろうとする意欲と態度(志)と、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力(力)を育成する。
- (3) 探究的な見方・考え方を働かせ、生き方について広く深く視野を広げるとともに、故里を知り、つながり、貢献する生き方と方策について横断的・総合的な学習を行うことを通して、主体的・協働的に地域社会に関わろうとする意欲と態度(志)と、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力(力)を育成する。

<学校教育目標>

未来を創る

～誇りを持って故里を語り、受け継ぎ、発展を担う志と力を育てる教育の創造～

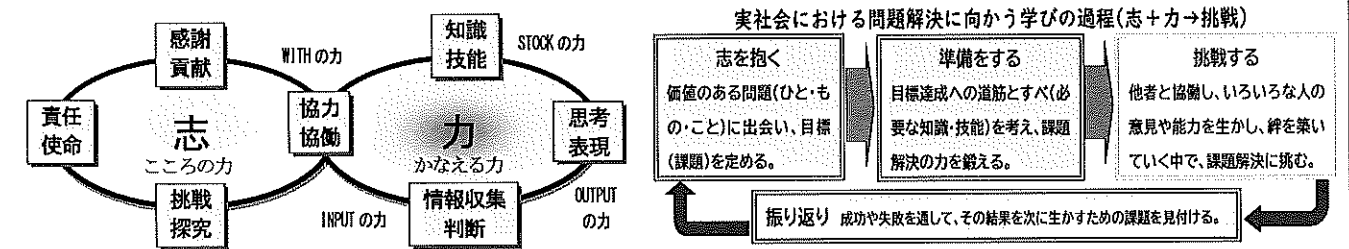
<研究主題>

Society5.0 を生きる資質・能力の育成

～主体的に考え、議論し、自己の生き方を考える道徳科の授業づくりを通して～

総合的な学習の時間の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、生き方について広く深く視野を広げるとともに、故里を知り、つながり、貢献する生き方と方策について横断的・総合的な学習を行うことを通して、主体的・協働的に地域社会に関わろうとする意欲と態度(志)と、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力(力)を育成する。



育てようとする資質・能力			目指す学びの姿(評価基準)
力	問題解決に向かう探究の能力	知識・技能 思考力・判断力・表現力等	課題解決に必要な知識や技能を習得し、活用することができる。 尋ねたり、調べたり、試したりして、必要なものを見つけ、選び出すことができる。 しっかり考えて、学びを自分のものにして表現することができる。
	主体的・協働的に地域社会に参画しようとする意欲と態度	学びに向かう力・人間性等	他の人と協力し、いろいろな意見やそれぞれの力を生かすことができる。 感謝の心を持って、自分なりに貢献することができる。 自分の役割や使命を考え、すべきことを行うことができる。 夢を持ち、疑問やできないことを大切に、見通しを持って粘り強く学び続けることができる。

単 元	生き方学習	ふるさと学習
探究課題	不かく尋ね たかく志す 広く深く視野を広げ、不を覆す高き志を胸に	温故挑新 故里を温め、新しきに挑戦しよう
前期	1 学年 1 学年 1 学期 1 学年 2 学期 1 学年 3 学期 1 学年 4 学期 1 学年 5 学期 1 学年 6 学期	1 学年 1 学年 1 学期 1 学年 2 学期 1 学年 3 学期 1 学年 4 学期 1 学年 5 学期 1 学年 6 学期
	2 学年 2 学年 1 学期 2 学年 2 学期 2 学年 3 学期 2 学年 4 学期 2 学年 5 学期 2 学年 6 学期	2 学年 2 学年 1 学期 2 学年 2 学期 2 学年 3 学期 2 学年 4 学期 2 学年 5 学期 2 学年 6 学期
	3 学年 3 学年 1 学期 3 学年 2 学期 3 学年 3 学期 3 学年 4 学期 3 学年 5 学期 3 学年 6 学期	3 学年 3 学年 1 学期 3 学年 2 学期 3 学年 3 学期 3 学年 4 学期 3 学年 5 学期 3 学年 6 学期
中期	4 学年 4 学年 1 学期 4 学年 2 学期 4 学年 3 学期 4 学年 4 学期 4 学年 5 学期 4 学年 6 学期	4 学年 4 学年 1 学期 4 学年 2 学期 4 学年 3 学期 4 学年 4 学期 4 学年 5 学期 4 学年 6 学期
	5 学年 5 学年 1 学期 5 学年 2 学期 5 学年 3 学期 5 学年 4 学期 5 学年 5 学期 5 学年 6 学期	5 学年 5 学年 1 学期 5 学年 2 学期 5 学年 3 学期 5 学年 4 学期 5 学年 5 学期 5 学年 6 学期
	6 学年 6 学年 1 学期 6 学年 2 学期 6 学年 3 学期 6 学年 4 学期 6 学年 5 学期 6 学年 6 学期	6 学年 6 学年 1 学期 6 学年 2 学期 6 学年 3 学期 6 学年 4 学期 6 学年 5 学期 6 学年 6 学期

絆プロジェクト

中学生の落語を聴く会

和の心との出会い

指導方法	学習の評価	指導体制
・教師は児童の主体性と協働的な態度を育てる支援を見通しをもって行う。 ・体験を通しての学びを重視する。	・児童の課題や学習計画、探究の過程を振り返るポートフォリオ評価の活用 ・ルーブリックによる自己評価・他者評価	・全教職員による協力体制 ・地域の人材、保護者、地域の施設、関係機関と連携し、指導・支援体制を構築

令和7年度総合的な学習の時間の全体計画

生徒の実態
○ 小規模校であり、素直で学習や特別活動などに意欲的に取り組んでいる生徒が多い。礼節を大切にしようとする校風も育ってきた。
● メディアコントロールが課題である。

保護者・地域の実態
・厳しい家庭環境にある生徒が増加している。一方で、学校に協力的な人材は多い。
・過疎化が進み、少子・高齢化が急速に進んでいる。
・海と山の豊かな自然環境に囲まれている。

<学校教育目標>

未来を創る

～誇りを持って故郷を語り、受け継ぎ、発展を担う志と力を育てる教育の創造～

<研究主題>

Society5.0 を生きる資質・能力の育成

～主体的に考え、議論し、自己の生き方を考える道徳科の授業づくりを通して～

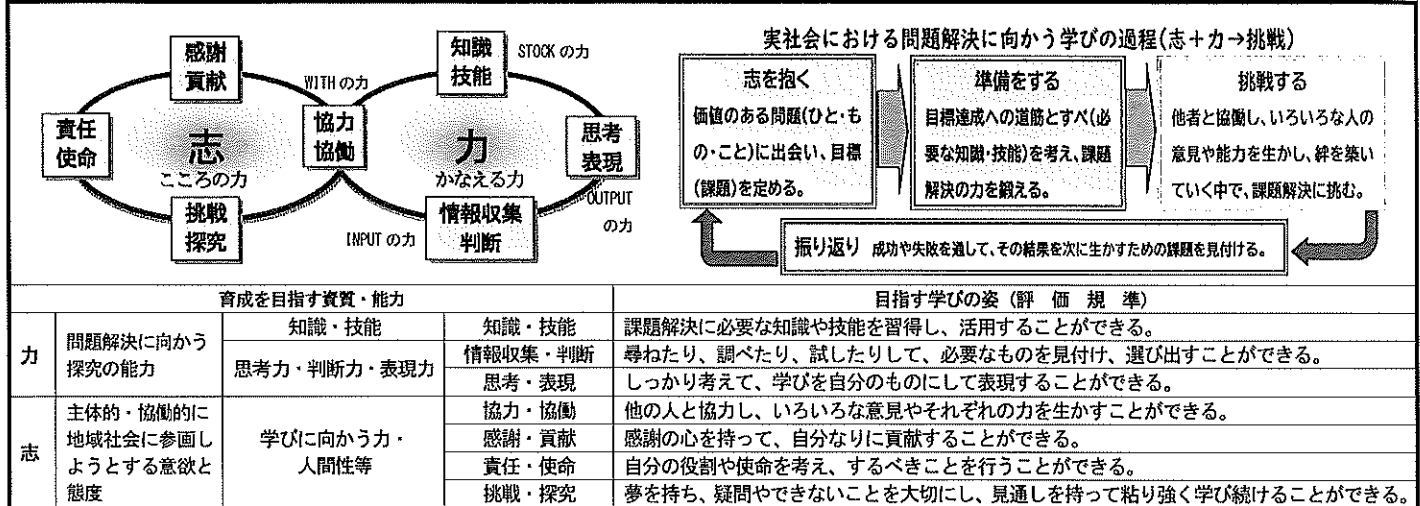
第1 目標

探究的な見方・考え方を働かせ、機動的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

本校の総合的な学習の時間の目標

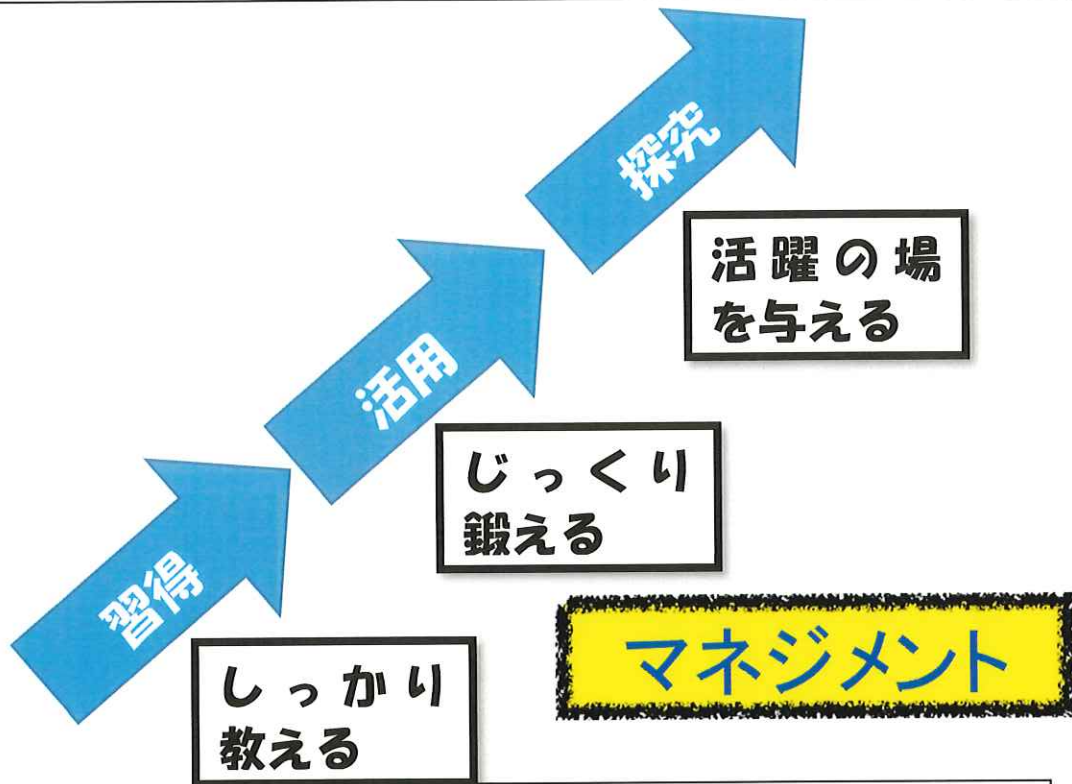
探究的な見方・考え方を働かせ、生き方について広く深く視野を高めるとともに、故郷を知り、つながり、貢献する生き方と方策について横断的・総合的な学習を行うことを通して、主体的・協働的に地域社会に関わろうとする意欲と態度（志）と、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力（力）を育成する。



単 元	生き方学習	ふるさと学習
テーマ	「不かく尋ね たかく志す」 広く深く視野を上げ、不を覆す高き志を胸に	「温故挑新」 故郷を温め、新しきに挑戦しよう
中期	探究課題 魅力的な生き方がし 「運命の本ビブリオトーク」を通して、地域に貢献した志とそれぞれの先人の生き方の魅力を知るとともに、人間の生き方について広く深く視野を上げ、主体的な自分の生き方を模索する。	探究課題 落語貢献 PROJECT 「人を楽しませることのできる新しい自分づくり」という目標へ向けて古典芸能（落語）の習得に協働的に取り組み、出前落語等で地域の方に楽しんでもらえる貢献活動に挑戦することを通して、地域に貢献する志と課題解決の力を高める。
後期	探究課題 「職場体験学習」「広南起業 PROJECT」 職場体験を通して、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通し、社会的・職業的自立に向けた「基礎的・汎用的能力」や態度を身に付ける。 起業家からの情報収集を通して、いろいろな職業で活躍する先人の生き方や考え方を知るとともに、広く深く職業的視野を上げ、主体的な自分の職業的自立へ向けての考え方を模索する。	探究課題 「起業による社会貢献」という目標へ向けて、職場体験と故郷を題材にした起業による社会貢献活動を通して、地域社会に貢献する志と課題解決の力を高める。 探究課題 「未来貢献 PROJECT」 故郷の未来に貢献するための課題を設定し、課題解決へむけたメッセージを創作劇のいう総合的な表現活動を通して地域に発信する PROJECT の取組を通して、各教科で学んだ知識・技能を総合的に発揮しながら、主体的に地域社会に参画する志と協働的に課題解決に向かう力を高める。
	探究課題 I 「FOR THE NEXT STEP」 様々な進路先について広く深く視野を広げることを通して、よりよい進路選択へむけて自立的態度と支援的環境づくりを実現する。 探究課題 II 「自己PR大作戦」 将来に向けて自分の良さや志を伝える表現力を磨くことを通して、社会的自立にむけて、主体的な自分の生き方について考えを深める。	探究課題 地域の匠に学ぶ 日本の優れた伝統文化を地域の方から学び、伝えることのできる力を身に付ける。

指導方法	学習の評価	指導体制
・教師はファシリテーターとして、生徒の主体性と協働的な態度を高める支援を見通しを持って行う。 ・地域ボランティアや地域の人材を有効に活用する。	・生徒の課題や学習計画、探究の過程を振り返るポートフォリオ評価（ワーキングポートフォリオ） ・ループブリックによる自己評価・他者評価 ・キャリア・ログによる評価	・全教職員が協働し、学年組織を中心に指導を進める。 ・地域の人材や外部団体と連携し、問題解決に向かう学びの過程に沿って、協働指導体制を構築していく。

Ⅱ 「学びがい」向上部会



ミッション

- ・小中9年間を見通したカリキュラムマネジメント
- ・「貫きカリキュラム」のマネジメント（鷹の目）

R6 研究テーマ

学習内容の学びがい(学ぶ価値・学ぶの質)を深める工夫

〔課題発見・解決学習の単元開発と内容のまとまりごとの評価〕

挑戦問題から始まる課題発見・解決学習

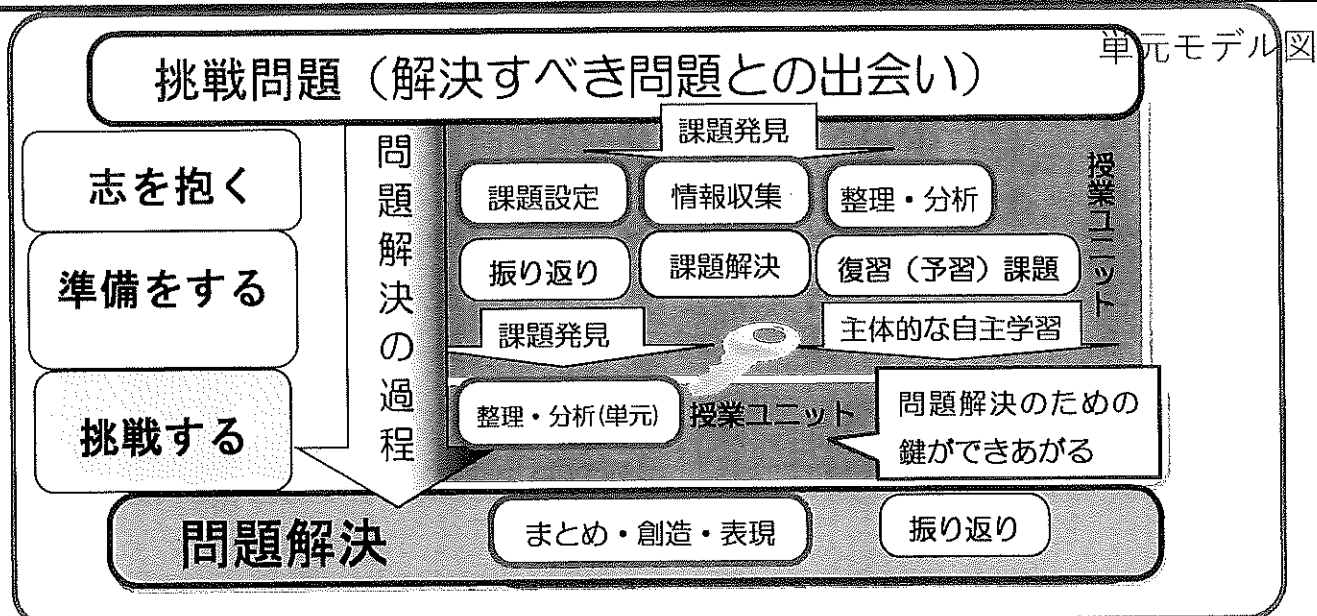
挑戦問題の提示によって

「解決すべき価値のある問題だけど、今の自分には解決できない、解くことができない」現状を自覚させるとともに、「この学習をすれば、この問題が解決できるようになる」見通しを示すことで、児童・生徒は学びへの意欲を高め、志を抱く（目標を定める）ことができる。

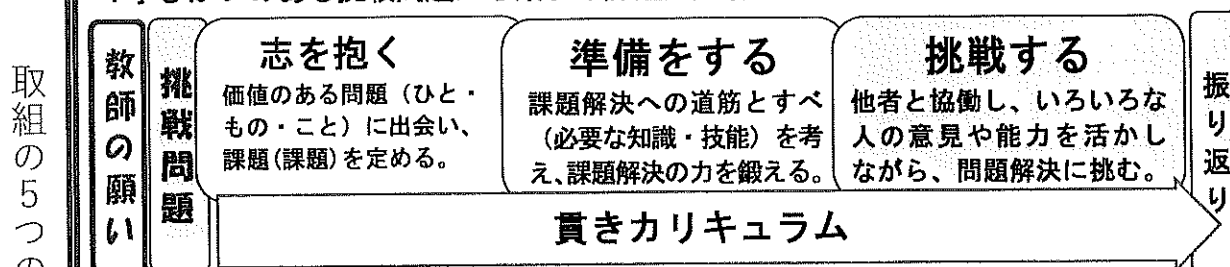
また、問題解決へ向かう準備（自分が取組むべき課題を発見し、それらのひとつひとつを解決しながら問題解決に必要なすべ《知識・技能》を習得していく課題解決の）過程を通して、問題解決の力が鍛えられ、その解決への見通しは生徒にとって確かなものになっていく。

そして、必要に応じて他者とも協働し、いろいろな人の意見や能力を生かし、絆を深めたりしながら問題解決へ向かう挑戦の経験を積み重ねることで、児童生徒は、実社会における問題解決に向かう態度と能力を身に付けることができる。

教科学習における課題発見・解決学習の単元づくり



1 学びがいのある挑戦問題から始まる課題発見解決学習の流れの設定



2 振り返り時間（5分）の充実

- ・ 自分自身で学んだことを整理させることで学習の定着状況の把握
- ・ 学習から生まれるさらなる問い（課題発見）（以降の授業の課題設定に生かす）

3 自学自習への意欲を引き出す予習課題・復習課題の設定

- ・ 予習課題（次の時間で活躍させるための準備） 個人思考・情報収集
- ・ 復習課題及び単元末課題（学んだことを定着・活用・発展させる課題）

4 ワークシート・ノート指導の工夫

- ・ 指導方法（問題解決の過程を踏まえた指導）の共有及び改善

5 評価の工夫

単元名

「火山活動と火成岩」

挑戦問題 「灰ヶ峰は火山か？」

本単元で育成するおもな資質・能力

知識・技能

思考・表現

協力・協働

挑戦・探究

単元の目標

火山の形や活動の様子及びその噴出物を調べ、それらを地下のマグマの性質と関連付けてとらえるとともに、火山岩と深成岩の観察を行い、それらの組織の違いを成因と関連付けて捉えることができる。

挑戦問題 「灰ヶ峰は火山か？」

志を抱く
準備をする
挑戦する

課題設定

情報収集

整理・分析

火山の特徴

噴火の形	噴火の回数	噴火の大きさ
噴火の回数	噴火の大きさ	噴火の回数
噴火の大きさ	噴火の回数	噴火の大きさ

新しい知識・考えを
習得した喜び

(生徒の声) 火山のことがいろいろとわかった!!

(生徒の声)
ほんとうに火山だったらどうしよう?
(予想) 火山だと思う 4人
火山だと思わない 15人
火山かどうかを見分けることが
自分ができるようになるのだろうか?



(生徒の声)
火成岩を鑑定すること
でいろいろなことが
推理できるようになっ
た!

活用できた

問題解決の鍵

前時の振り返り(課題解決に必要なものは何?)

課題発見

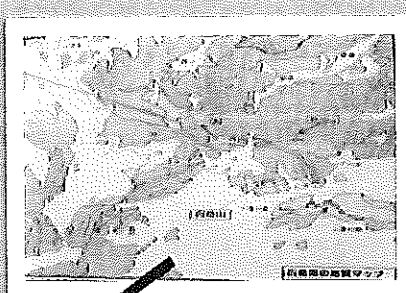
課題発見

課題発見

灰ヶ峰の頂上の石 A

ふもとの石 B

周囲の様子分かるもの



岩石A

鑑定結果

岩石B

鑑定理由
白っぽい、粒が粗い、
気泡がある。

鑑定理由
黒っぽい、粒が細かい、
気泡が少ない。

(生徒の声)
問題解決できたかも!?

思考・表現

推論

振り返り

(生徒の声) 火成岩の知識で小学校の時に解けなかった謎が解けるか

協働して問題解決

個人レポートの作成

振り返り

学んだことを役立て
ることができた喜び

挑戦問題 「マロンストーンの謎に挑戦Ⅱ」

総合的な学習の時間における課題発見・解決学習の単元づくり

広南中学校の総合的な学習の時間の目標

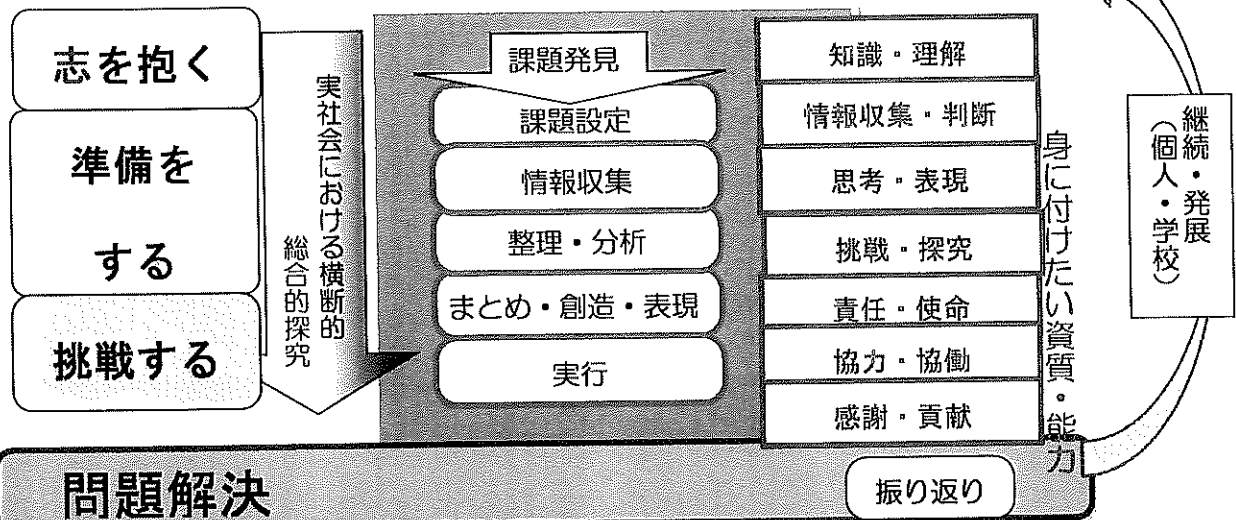
探究的な見方・考え方を働かせ、生き方について広く深く視野を広げるとともに、故里を知り、つながり、貢献する生き方と方策について横断的・総合的な学習を行うことを通して、主体的・協働的に地域社会に関わろうとする意欲と態度（志）と、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力（力）を育成する。

単 元	生 き 方 学 習	ふ る さ と 学 習
テーマ	不かく尋ね たかく志す 広く深く視野を広げ、不を覆す高き志を胸に	温故挑新 故里を温め、新しきに挑戦しよう <地域との交流>

挑戦問題（解決すべき問題との出会い）

単元モデル図

実社会における問題解決の過程



取組の5つのポイント (H30)

- 1 学びがいのある挑戦問題の設定
 <生き方学習> 「不かく尋ね高く志す」
 ・ 人間の生き方について広く深く視野を開くきっかけとなるもの
 <ふるさと学習> 「温故挑新」（故里を温め、新しきに挑戦）
 ・ 体験を通して故里に感謝の気持ち・貢献する喜びを育てることができるもの
 - 2 実社会における問題解決の過程を意識した総合的・教科横断的指導計画
- | | | | | | |
|-------|----------|---|---|---|------|
| 教師の願い | 挑戦問題 | 志を抱く
価値のある問題（ひと・もの・こと）に出会い、目標（課題）を定める。 | 準備をする
課題解決への道筋とすべ（必要な知識・技能）を考え、課題解決の力を鍛える。 | 挑戦する
他者と協働し、いろいろな人の意見や能力を生かしながら、問題解決に挑む。 | 振り返り |
| | 貫きカリキュラム | | | | |
- 3 より深い継続的な取組にするための工夫
 <生き方学習> 学んだことを実践していけるもの
 <ふるさと学習> 学校の伝統として先輩の取組をベースに継続・発展していけるもの
 - 4 ワークシートづくり
 ・ 指導方法（探究の過程を踏まえた指導）の共有及び改善
 - 5 評価の工夫
 ・ ポートフォリオ 広南学園の資質能力ルーブリックの活用

「伝統文化を受け継ごう」落語に挑戦！

挑戦問題 「たくさんの人を笑顔にできる新しい自分づくりに挑戦しよう！」

実社会における横断的・総合的な探究の過程（志+力→挑戦）

志を抱く

価値のある問題（ひと・もの・こと）に出会い、目標（課題）を定める。

準備をする

課題解決への道筋とすべ
(必要な知識・技能)を考
え、課題解決の力を鍛える。

挑戦する

他者と協働し、いろいろな人の
意見や能力を生かし、絆を深め
ていく中で、問題解決に挑む。

振り返り

成果と課題を 踏まえ、新た な志を抱く

單元目標

「人を楽しませることのできる新しい自分づくり」という問題解決へ向けて古典芸能（落語）の習得に協働的に取り組み、出前落語等で地域の方に楽しんでもらえる貢献活動に挑戦することを通して、地域に貢献する志と課題解決能力の資質・能力を高める。

挑戦問題の提示

たくさんの人を笑顔にできる
新しい自分づくりに挑戦しよう！

STEP 1 「落語の魅力を知ろう！」

落語は一人でできる芸なので、自分の特技にできるのではないかなと思いました。練習して完成させるのがとても楽しみです。(生徒感想より)

衣笠さんは、銀行員時代から落語で社会貢献されていた。2年生の先輩もそれに習い、出前落語で地域貢献された。その伝統を引き継いで自分もがんばりたい。

課題発見

今の自分にはあんな表現力
もないし、人前でたった一
人で演じる度胸もない。

課題の設定

落語の表現の技を学び、表情豊かに相手を楽しませることのできる表現力を身に付ける。

準備をする

課題の設定

情報収集

整理・分析

STEP 2 「落語の技を学ぼう！」

教えてもらうのではなく「技を盗む」という気持ちで情報収集していこう。

他教科との関連

国語科における古典
の世界や古典作品に
ついての学び

STEP 3 「落語の技を磨きあおう！」

知識・技能

情報収集・判断

彼のように目線を大切にすると確かにちがった人間がしゃべっているように伝わる。僕も取り入れてみよう。

思考·表明

どうしたら、みつたっぴりのみたらし団子を食べているようすが伝わるだろう？

精力·協働

僕の落語を見ていて気付いたことを教えて！

表情が硬いよ。もっと表情を豊かに！

まとめ・創造・表現

広南劇場落語発表者選考会

まとめ・創造・表現Ⅱ

STEP 4「落語の学びを生かして広南劇場で貢献しよう！」

落語発表者

幕間発表者



さらに技をきわめて、クラスの代表として頑張るぞ。

協力・協賛

落語で身につけた力を活用して幕間の出し物や応援の工夫をして会場をあたためる。



実行



いよっ！
広南亭猿丸たいゆうー！



寸劇&応援歌&ダンスでも盛り上げます

STEP 5「出前落語に挑戦しよう！」

小学生は楽しいと思うポイントがちがう。不思議だ。

地域のおじいちゃん、おばあちゃんに笑ってもらい、長生きしてもらおうぞ！



小学校高学年へ



感謝・貢献



呉市中の人を楽しませるぞ！



広南中期待の星
広南中一年
広南亭ガチャボン

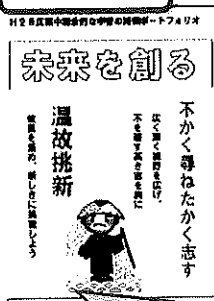
ふれあいサロンへ

つばき会館ホールへ

小学校とのつながり

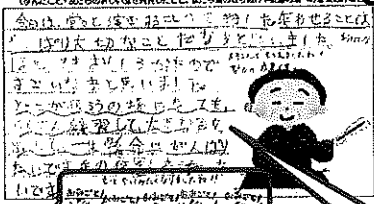
地域とのつながり

振り返り



未来を創る

温故知新
不かく尋ねたかく志す
不かく尋ねたかく志す
不かく尋ねたかく志す



学年教師による評価

自己評価

自分が成長したと思うところは、はずかしがらずに堂々と演じることができたということです。最初は落語をするのがはずかしくて、はずかしそうに落語をしていました。でも、練習をするうちにはずかしさも次第にとけてゆき、文化祭では堂々と落語を演じ、たくさんの方々に笑わせることができました。

私は6つの資質・能力の中で「情報収集力」が不十分だったと思う。細かい動作の練習をしていたら良かったと反省した。次の課題は細かい練習をとおして自分の力にすることを頑張りたい。

私が課題だと思ったところは「思考力・表現力」です。今日、小学生の前で落語をやったときとても緊張して細かい動作を忘れてしまったので、少しだけ後悔しています。でも、終わったときの達成感はとても大きかったです。今までにないような感じでした。

「協働的な態度」も身についたと思います。落語はグループに分かれてやりました。同じグループの友達ももし何かを間違えていたら教えてあげ、逆に私がもし間違えていたら友達に教えてもらいました。もし私が1から10まで全部やるとしたら無理だと思えます。先生や友達、ジャンボさん、水龍さんがいてくれたからこそできたことなので感謝しています。また、一人でやるのではなく、グループで助け合いながらやるというところが分かりました。

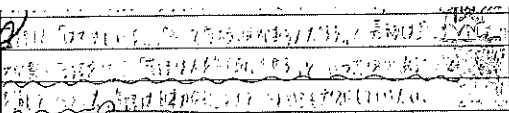
本番を演じて感じたことは、落語を聞いてもらう人の年齢によって笑うところが違うということです。中学校で披露したときに爆笑だったところがおじいちゃん、おばあちゃん方には反応がよくありませんでした。逆に中学生の人では笑わないところを大笑いしてくれたり、拍手をしたりしてくれました。

(生徒の「自己評価」及び「振り返り」より)

この単元で身に付ける資質・能力ルーブリック

資質・能力及び態度	評定基準	評定
① 情報収集力	A 落語の面白い動作や話し方のコツを見ることができた。 B 落語を見ることができた。 C 落語の内容を説明することができた。	A
② 思考力・表現力	A 落語の技を自分のものにして、上手に演じることができた。 B 落語の技を自分のものにして、上手に演じることができた。 C 落語の技を自分のものにして、上手に演じることができた。	A
③ 協働性・態度	A 落語を見、どうせなら文化祭で演じてみたいと思う。 B 落語を見、人前で演じることが楽しみたいと思う。 C 落語を見、人前で演じることが楽しみたいと思う。	B
④ 感謝・貢献	A 友だちだけでなく、先生や落語家からの助言を求め、よりよい落語にしようとしている。 B 友だちだけでなく、先生や落語家からの助言を求め、よりよい落語にしようとしている。 C 友だちだけでなく、先生や落語家からの助言を求め、よりよい落語にしようとしている。	A
⑤ 責任感・使命感	A 落語を通して、大勢の人を楽しませることができた。 B 落語を通して、大勢の人を楽しませることができた。 C 落語を通して、大勢の人を楽しませることができた。	A
⑥ 自己評価	A 落語の面白さを大切にしていてほしいと思う。 B 落語の面白さを大切にしていてほしいと思う。 C 落語の面白さを大切にしていてほしいと思う。	A

(生徒の「自己評価」および「振り返り」例)



成果と課題

「資質・能力」の姿容

	知識・技能	思考・判断	情報収集・判断	思考・判断	協働・協働	感謝・貢献	責任・使命
広南小(小6時)	+21	+11	+28	+12	+17	-	+22
広南中(中1時)	+18	+27	+46	+38	+25	+29	+22

(単位:ポイント)
「基礎・基本」定着状況調査および全国学力・学習状況調査の児童・生徒の学習生活アンケートの項目を活用し県平均および全国平均との差で実数を見取った。ただし「感謝・貢献」の指標は127全国学力・学習状況調査(小学校)に無いので非数値である。



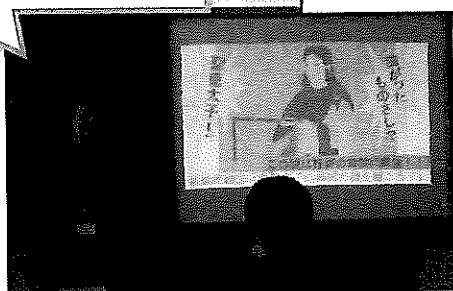
今回、みなさんは、これまでに
習った知識を活用して、ほんの
少しこのマロNSTOONの謎を
解明しました。残った謎は中学
校に行って解明してください。

小学校から中学校へつなぐ(学校段階間接続型)

さて、なぜ聖徳太子が
さしがねを持っている
のでしょうか？

教科横断型

この挑戦問題は
技術の時間で解決してください。

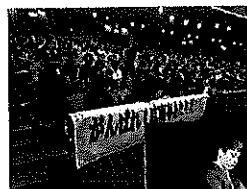


技術科へつなぐ



貫きカリキュラム

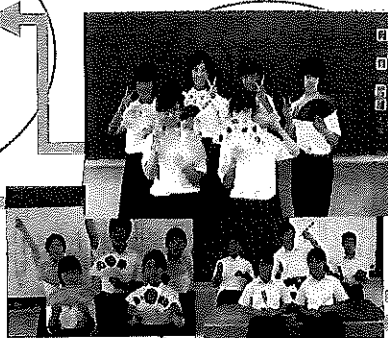
貫くことで学びが深まり広がる



呉市内地域落語会(地域行事)



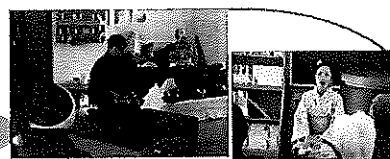
広南劇場(学校行事)



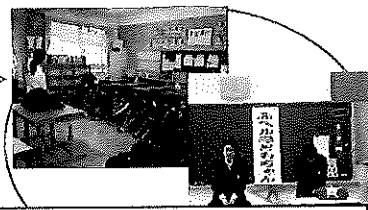
総合的な学習の時間(中1)

教科横断・実社会接続型

自治会お花見会(地域行事)



ふれあいサロン(地域行事)



小学校(学活)

単元接続・学年段階間接続型

(総合的な学習の時間(3年)+(4年)+(5年))

本単元は、地域の「里山を愛する会」の方々に協力をしていただく。広南地域は自然が豊かであるが、畑をする人も少なくなり、里山が荒れてきている。また、土砂災害警戒区域にもなっている地域なので、砂防ダムや川など、防災にもつながる場所がいくつかある。そういった「ひと・もの・こと」に触れながら、活動できる単元である。3年生に自分たちの取組をプレゼンテーションすることで、3年と4年のつながりが生まれるとともに、さらに、5年生の防災の学習とつなげることで、3学年に渡って活動できるカリキュラムをマネジメントした。

志

5年生の防災の学習とつなげて、他にも自分たちでできる取組はないだろうか。

里山プロジェクトのプレゼンをして、プロジェクトをつないでいこう。

挑戦

まとめ
創造
表現

「里山プロジェクト」をつないでいくために、「どのようなことを」「どのような方法で」提案すればよいか考える。

整理した意見の中で、すぐに取り組める活動を実際に行う。

整理・分析
情報収集

里山を守るために何ができるか、グループで意見を出し合う。

里山を守るためには自分には何ができそうか、調べたことや里山探検で学んだことをもとに考える。

里山探検を行い、分かったことや感じたことを出し合う。

情報収集

疑問点などを明らかにして、再度「里山を愛する会」の方から話を聞く。

他の地域で行われている、子どもでもできる自然を守る活動について調べる。

準備

整理・分析
情報収集

調べてきたことを出し合い、新聞にまとめる。

里山探検をする。(何回か行う。)

情報収集

「里山を愛する会」の方から話を聞いたり、さつまいもの苗植えをしたりする。

「里山」とは、どのようなところなのか調べる。

地域の
人材活用

志

課題の設定

広南の里山の一部「西山」を管理されている方が亡くなり、これからどうしようか困っていると「里山を愛する会」の方から相談を受けたことを知らせる。何かできないだろうか。

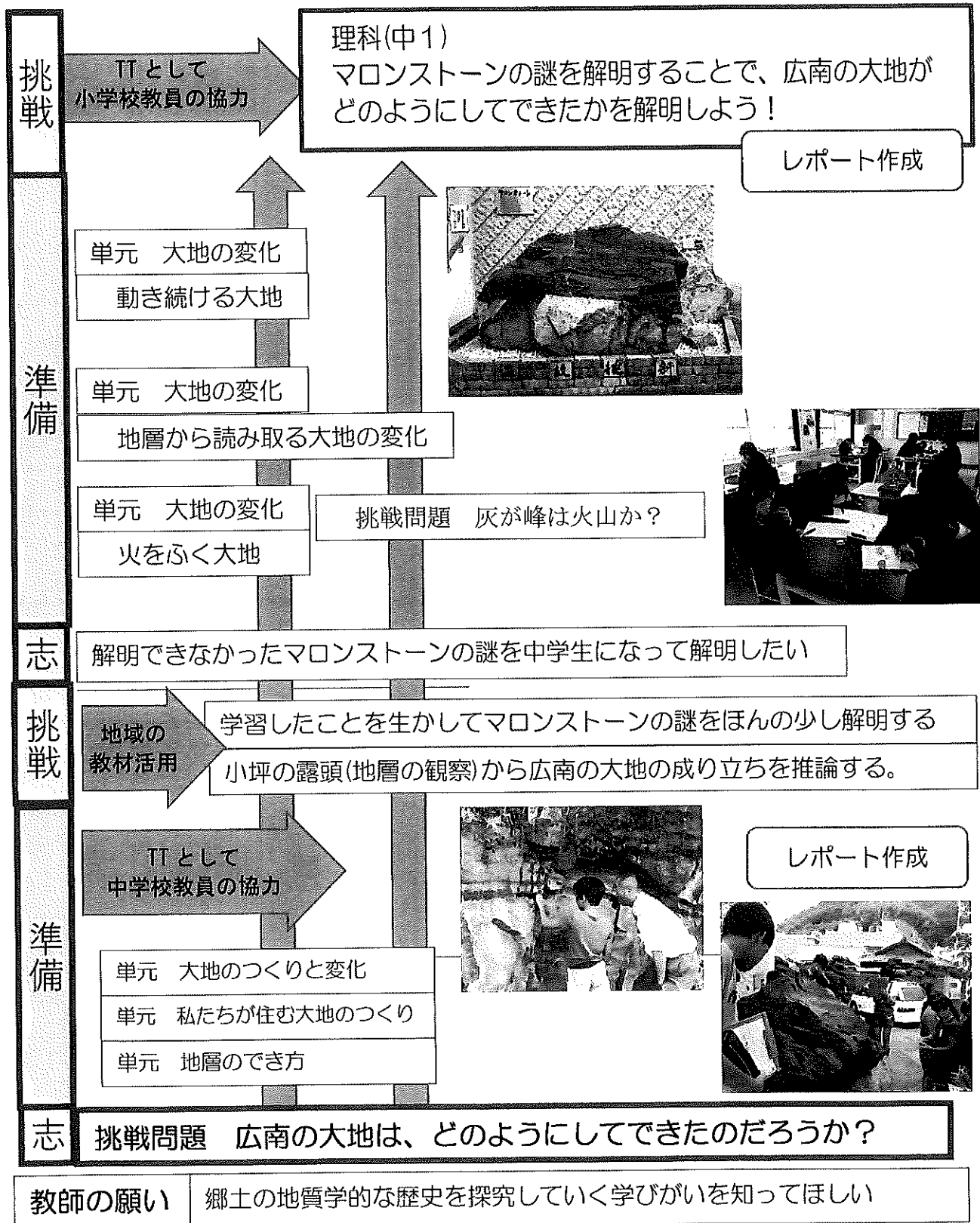
挑戦問題 『広南の里山の未来があぶない! 4年生でも里山をすくう方法はあるのか考えよ!』

教師の
願い

広南の里山を守るために、地域の方が取り組んでいることを聞いたり、自然を守るための活動について自分で調べたりしたことを参考に、4年生が取り組む課題を見付けることができる姿。また、広南の里山を守り続けるために、一人一人何を大切にすべきかを考えることができる姿。

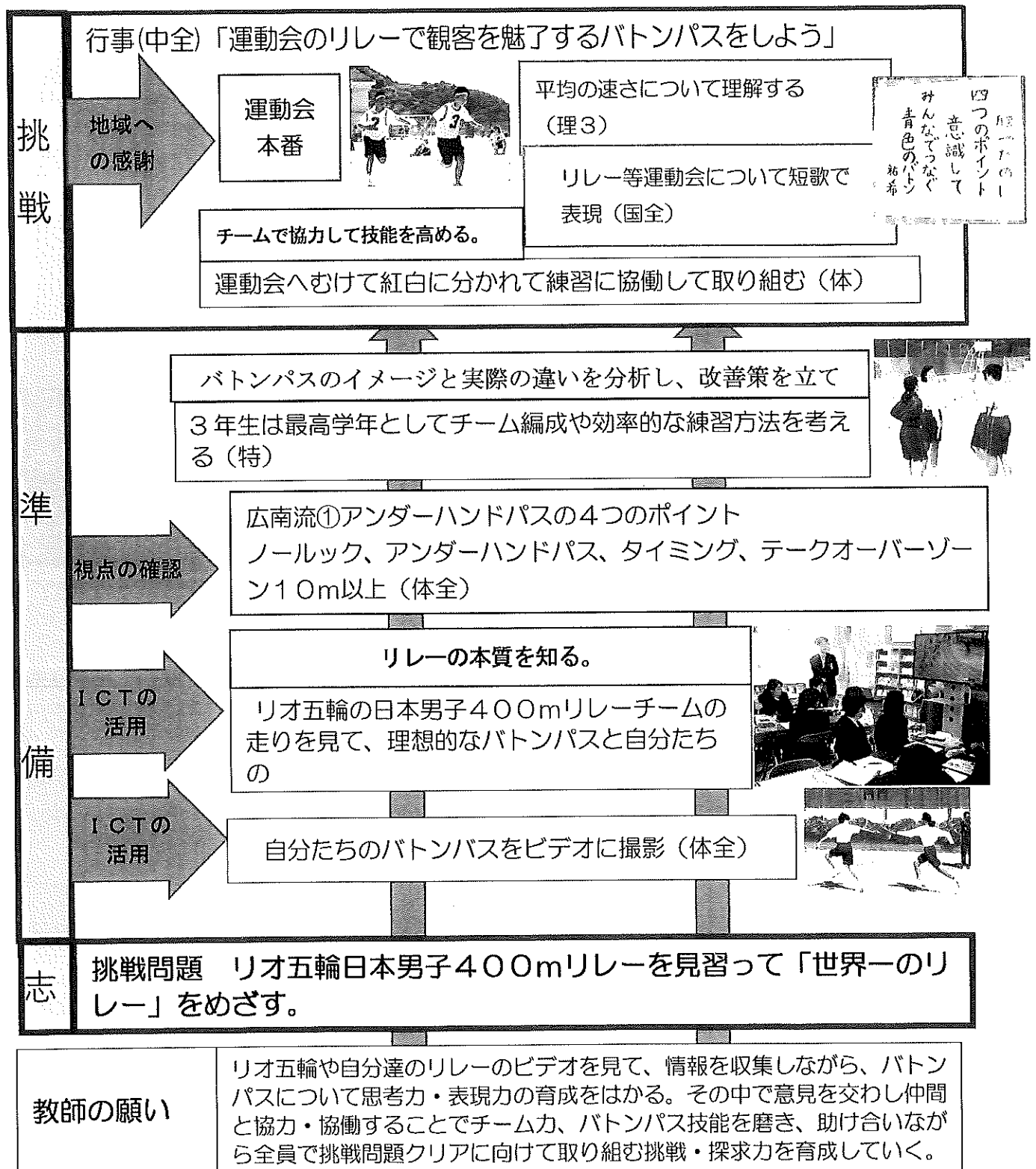
単元接続・学校段階間接続型
(理科小6+理科中1)

小学校6年生時に挑戦問題「マロンストーンの謎を解こう!」で抱いた志を叶えるための準備として小中学校の単元を繋ぐことを通して、問題解決に必要な知識や技能をひとつひとつ習得し、推論に活用する力を得て、問題解決を図っていく探究活動をマネジメントした。



教科横断型
(保健体育+理科+国語)

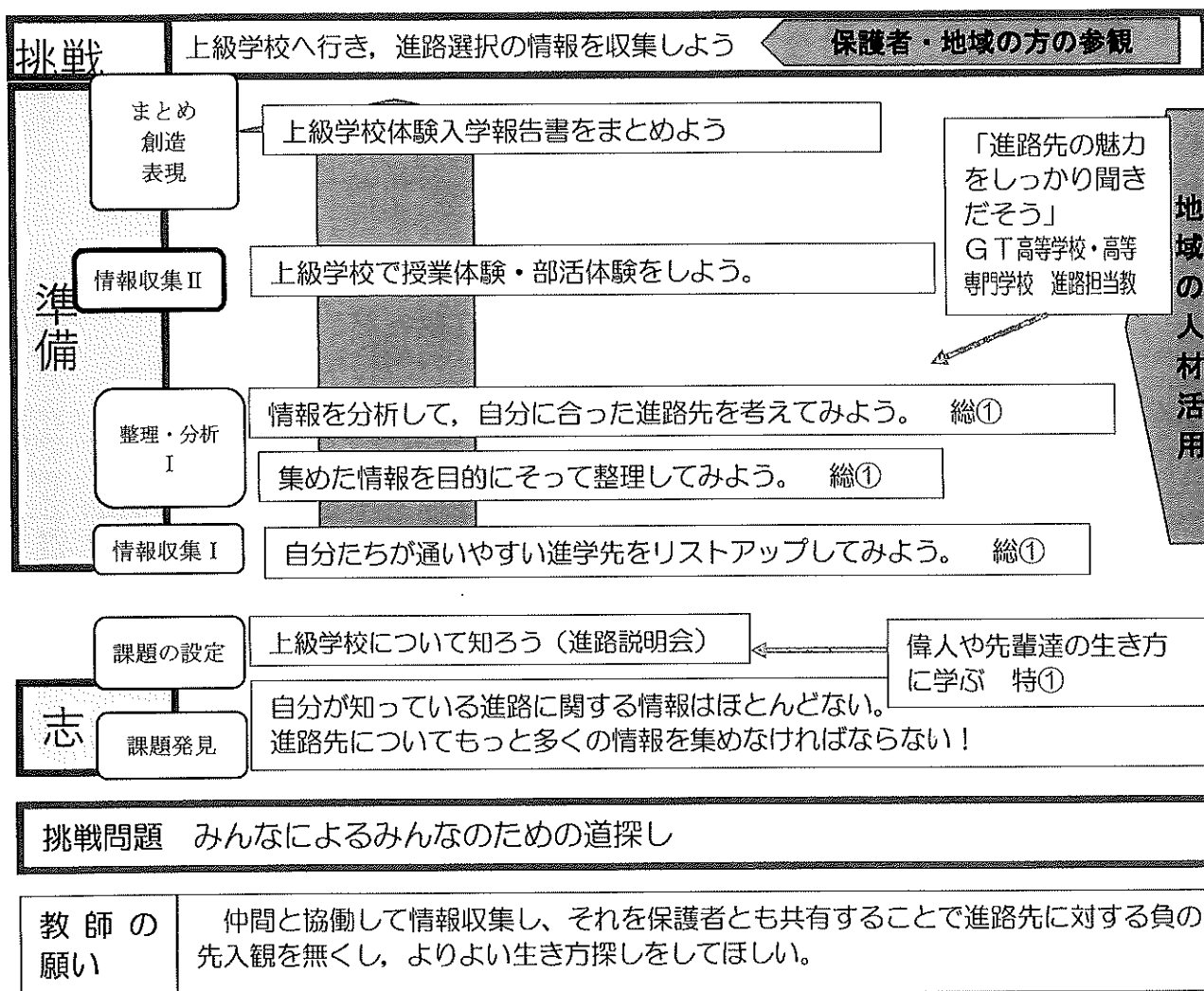
挑戦問題「学園リーダーとして、運動会のリレーで自分のチームを勝利に導こう」で抱いた志を叶えるために、ICTを活用し、リオ五輪男子400mリレーチームと自分達のリレーのバトンパスを比較し、どうすれば、スムーズにバトンパスができるか考え、実践した。運動会という場を利用することで、発表する場をもって、モチベーション高めることができるカリキュラムにマネジメントした。



教科横断・社会接続型

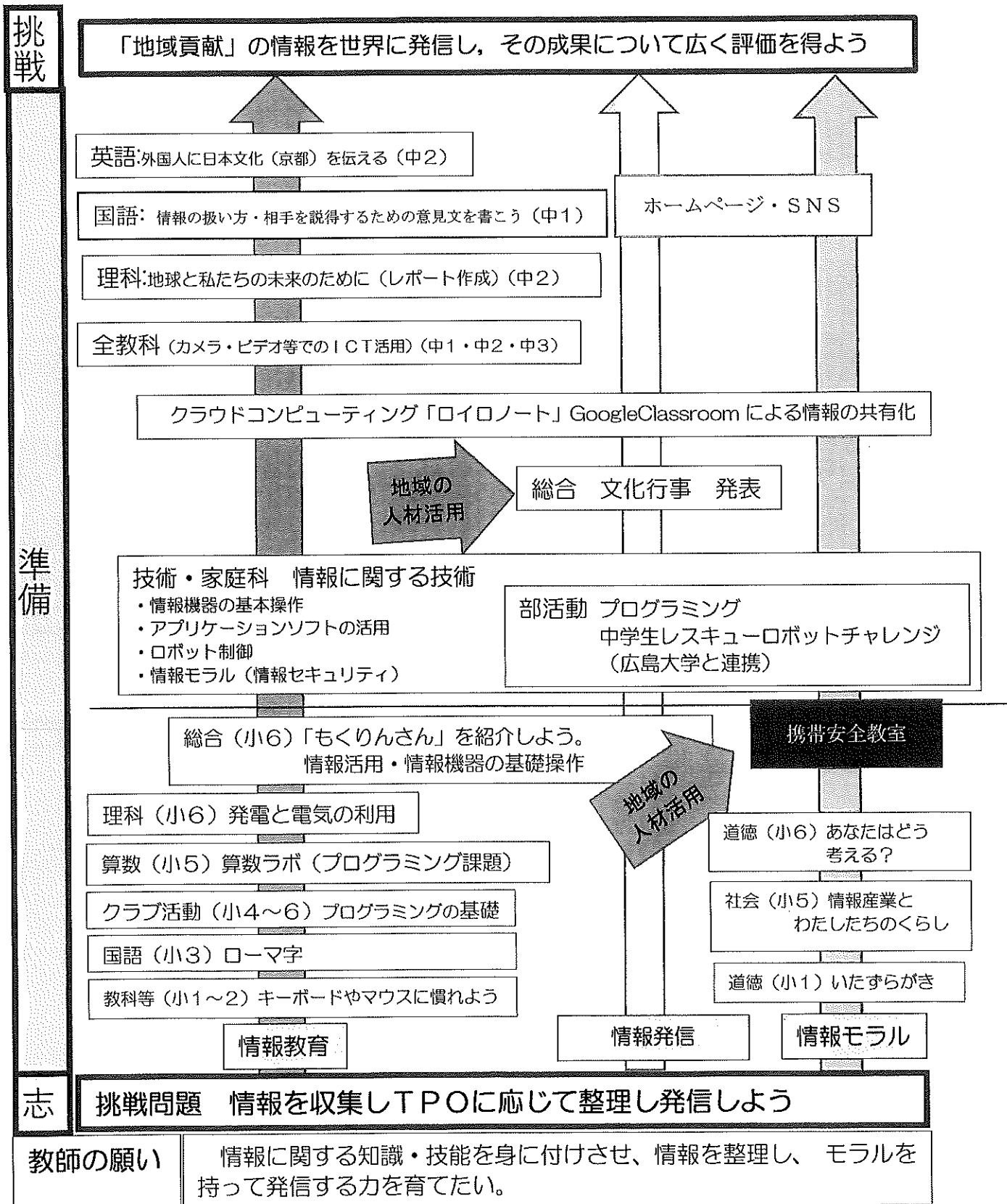
(総合的な学習の時間を出発点に(中3))

先輩の経験を参考にして、よりよい生き方探しに向け仲間と協働して情報収集、整理・分析することを通して、進路に対する視野を広げるとともに、得られた情報を保護者やクラスメートへ発信するために高校新聞を作成した。そのことを通して、各自の進路選択に向けて意識を向上させる活動をマネジメントした。



教科横断・学校間接続型
(情報教育 小1～中3)

学校でのタブレット端末の導入など県・市をあげて情報教育の環境整備が進んできている。
本校では「地域貢献」をテーマに行った活動を情報発信し、広く評価を得ている。一方、SNSの不適切な利用による、犯罪も社会問題化している。情報活用能力の育成について小中9年間を通して探究していくカリキュラムをマネジメントした。



教科横断・学校間接続型
(防災教育 小1～中3)

平成 30 年 7 月に起こった西日本豪雨災害では、地域全体が孤立するなど、広南中学校区も被災地となった。小・中学校は避難所や給水所となり、災害時の拠点となることを児童生徒は理解するきっかけとなった。今後、豪雨災害や南海トラフ地震などの影響を受けることが想定される本中学校区では自然災害についての正しい知識や防災、減災のための実践力を身に付けることが、喫緊の課題である。そこで、防災、減災というテーマについて小中 9 年間を通して探究していくカリキュラムをマネジメントした。

挑戦

地域の
教材活用

行事（全学年）防災・減災に向けて、自分たちに何ができるか、
地域とともに提言しよう！（7. 9 広南防災の日）

準備

理科（中3）自然災害と地域の関わり
を学ぶ

英語（中3）Be prepared and
Work Together

理科（中2）気象現象がもたらすめぐ
みと災害

理科（中2）天気の特徴

理科（中2）大気の動きと天気の変化

社会（中2）過去の継承と未来に向け
た社会づくり

社会（中2）自然環境に適応する人々
の工夫

社会（中2）自然災害と防災減災への
取り組み

国語（中1）防災に関するデータ

理科（中1）地震に備えるために

理科（中1）地震のゆれの伝わり方と
地震の起こるところ

社会（中1）自然災害と防災・減災への
取り組み

地域の
教材活用

地域の
教材活用

全校 避難訓練
行事 地域合同防災訓練で
学んだことを生かそう

1 学期 出水期前土砂災害
2 学期 南海トラフ巨大地震
3 学期 火災

総合（中3）避難所運営について
広南避難プログラムを確認する

技術家庭科（中3）情報収集防災ラジオの製作

保健（中3）飲料水の衛生的管理

保健（中2）応急手当

保健（中2）自然災害による傷害の防止

保健（中2）自然災害による危険

保健（中2）G T（専門家）による心肺蘇生法

道徳（中2）行動する建築家 坂茂

道徳（中2）避難所にて

総合（中2）G T（専門家）による防災学習

技術家庭科（中1）災害時の住まいと暮らし

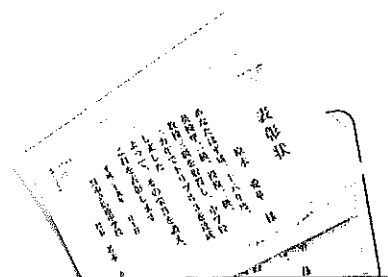
道徳（中1）震災を乗り越えて
一復活した郷土芸能

総合（中1）防災劇鑑賞
防災ジュニアリーダーとしての志を持つ

志

挑戦問題 地域の自然災害による被害を減らすために、中学生の自分たち
には、何ができるだろうか。

挑戦	地域の教材活用 (小6) 町づくりを提言しよう
準備	国語(小6) 町の未来をえがこう 「町の幸福論」 総合(小6) 輝け 自分の未来 理科(小6)・発電と電気の利用 (災害に備えた懐中電灯の機能) ・火山や地震とわたしたちの暮らし (日ごろの備え、緊急地震速報、津波ハザードマップ) ・てこのはたらき(救助用バール) 保健(小6) 病気の予防(感染症の予防) 道徳(小6) うちら“ネコの手”ボランティア 社会(小6) わたしたちの生活と政治 (復興に向けた取組)
志	挑戦問題 つながる町づくりのためにできることは？
挑戦	(小5) 自分の命やふるさとを守るためにできることを発信しよう (ふれあい参観日)
準備	地域の教材活用 理科(小5) 流れる水のはたらき (川の流れと災害、災害からくらしを守る工夫) 理科(小5)・天気の変化 (台風の情報、注意報・警報・特別警報、日頃の備え) ・雲と天気の変化(雲の種類) 社会(小5) 自然災害を防ぐ 算数(小5) 割合(お米と水の割合) なべで炊く際の水の目分量にふれる 家庭科(小5) 食べて元気に(ごはんの炊き方) 総合(小5) 出動! 自分の命、ふるさと広南を まもるんジャー ・広南地区の防災対策について 考えよう(砂防教室) 体育(小5・6) 水泳(着衣泳) 保健(小5) けがの防止 (自然災害によるけがの防止、けがの手当: けが・やけど・ねんざ等、AED、熱中症)
志	挑戦問題 災害が起こったときに、自分の命やふるさとを守るにはどうしたらよいのだろう。
挑戦	地域の教材活用 身の守り方を知り、家族に伝えよう 社会(小4) 自然災害からくらしを守る(ハザードマップ)
準備	理科(小4)・夏の夜空(北極星の方向) ・みんなで使う理科室(ガスコンロの使い方) 理科(小3)・かげのでき方と太陽の光 (方位磁針の使い方・正午の太陽の方向) ・光のせいしつ(ソーラークッカー) 社会(小3)・呉市のように ・くらしを守る(防災センター見学) 算数(小3) 長さ(避難の道のり) 算数(小2)・かさ(1日に必要な飲料水は) ・長さ(海拔0mを知る) 総合(小3) もっと知ろうよ わたしたちの町 (石泉文庫 防災訓練) 体育(小3・4) 浮く・泳ぐ運動(着衣泳) (小1・2) 水遊び(着衣泳) 生活(小2) まちたんけんに行こう (傾斜地、川の様子、避難所) 生活(小1) みんなでつうがくろをあるこう (道路の渡り方)
志	挑戦問題 自然災害や防災について知ろう。
教師の願い	児童生徒が、自然災害における正しい知識や防災対応能力の基礎を身に付けることにより、自分の命は自分で守る、という意識を高める。小学校では、発生する災害の危険を理解し、安全に行動できるとともに、他の人々の安全にも気配りできる児童。中学校では日常の備えや的確な判断、主体的な行動ができるとともに、地域の防災活動や助け合いの大切さを理解し、すすんで地域社会に貢献できる生徒を育てたい。



トリプル3（検定試験3種3級以上）達成者達成者 R4年度3名

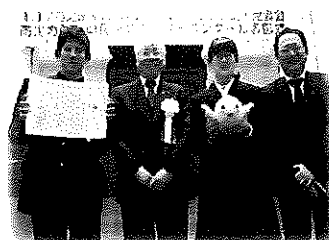
検定試験挑戦者のべ人数
R5年 39名

自主学习

県科学賞表彰式



科学研究 R5年度
広島県特選・学校賞 受賞



ぼうさい甲子園
はばたん賞 受賞

総合的な学習の時間（中）

Sルーブリック

達成目標の上にあるさらに「上質な学び」のイメージや「資質・能力の価値」を共有することで、教師も、児童・生徒も高い志を抱くことが期待できる



五色百人一首競技かるた大会
個人の部 2位
団体の部 2位（R元）

広南学園「百人一首大会」



呉市児童生徒科学研究
科学賞 5・6年生

理科等（小）

教師や学校は、子供たちに上質イメージを持たせることや、子供たち自身が上質イメージを持つことができるように、日々の教育活動の中で子供たちと真剣に向き合い「～って面白い」「～ができるようになるとこんなに良いことがある」「自分でも努力すればできるようになる」ということを体感させ、それを認める。こういった経験を積み重ねることにより、子供たちは自信を回復し、「こうなりたい」「こうありたい」とさらに上質なイメージをもつことができる。（「広島県教育資料より」）

S ルーブリック

資質・能力のルーブリックの活用例1

資格・検定への挑戦

知識・技能

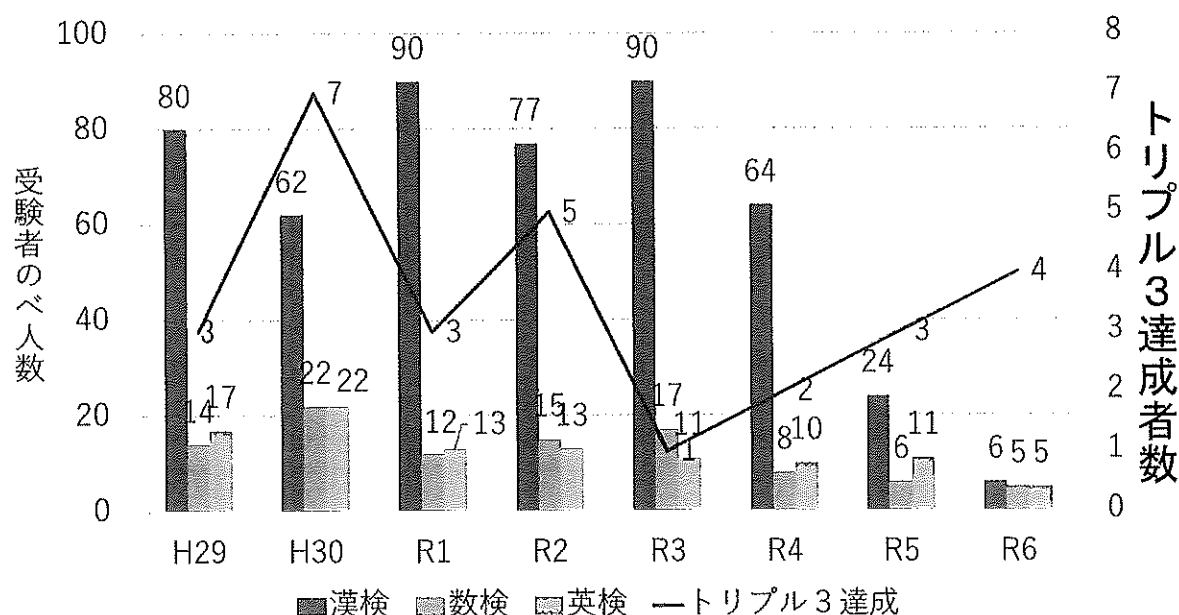
挑戦・探究

(ねらい) 実社会において、資格を持つことは、重要なキャリアアップの手段となる。また、資格習得に向けての挑戦心や主体的な学びを育てる機会となる。

そこで、本学園では、トリプル3（3教科で3級以上合格）を目標として、その資格習得への意欲付けと機会の提供を継続するとともに、達成者には、卒業式の前日に特別表彰を行っている。

その結果、下のグラフのように、検定試験の受験者は年々増加し、特に小学校では、漢字検定の挑戦が定着しつつある。また、中学校では、漢字検定だけでなく、他の検定も挑戦する姿勢を見せている。その結果、安定してトリプル3達成者を出すことができてきた。そのことを自信に高校入試に臨むことができた。今後も、入試制度の変更を見据え、さらにトリプル3への意識を高めていきたい。

検定試験年間挑戦者のべ人数の推移（広南学園児童生徒）



資格習得への挑戦ルーブリック（中学生用）

S	英検・数検・漢字検定など3級以上の資格を3つ習得した。（トリプル3）
A	資格を今年もひとつ以上習得することができた。
B	資格検定試験に今年もひとつは挑戦した。
C	資格の習得数はまだ0である。

校外への挑戦ルーブリック（小学校高学年用）

S	校外への挑戦において入賞・合格等した。（トリプル5）
A	校外への挑戦に3つ以上挑戦することができた。
B	校外への挑戦に今年もひとつは挑戦した。
C	資格の習得数はまだ0である。

S ルーブリック

資質・能力のルーブリックの活用例2 感謝・貢献 総合的な学習の時間（中学校1年生「和菓子体験」）

（ねらい）呉市教育委員会の企画で「和菓子体験」が実現することとなった。ゲストティーチャーを迎えての授業では、生徒も、教師もややもすると受け身になりやすい。授業そのものに対しては「情報収集・判断力」の資質・能力を鍛える場としての目標を示す必要があるが、ゲストティーチャーとの一期一会ともいえる場では、「感謝・貢献」の資質・能力を育てる場としても重要である。この場合、「感謝・貢献」の価値に気づかせるために、授業の導入場面で、次のようなSの目標設定を試みてみた。

（教師）今日は、呉市で有名な和菓子のお店「博美屋」さんが、みなさんに日本の誇る伝統文化「和菓子」をつくる体験をさせていただきます。今日の授業のめあては何にしたらいいと思いますか？

（生徒1）「はい、和菓子を生懸命つくって、おいしく食べるのだと思います」（笑）



（教師）なるほど、しかし、それでは、評価はBですね。ところで、なぜ「和菓子」というのでしょうか。それに対して「洋菓子」ということばがありますね。この2つの違いはなんでしょう。今日は、ぜひ、そのことを頭において、「和菓子の良さってなんだろう？」を考えながら体験してください。今日のめあては、「日本の伝統文化である和菓子のすばらしさを発見する」です。資質・能力で言えば情報収集・判断力になりますね。したがって、授業の終わりに「日本の伝統文化のひとつである和菓子の良さは〇〇であることを発見した。」それが書けていれば評価はAです。ちなみに「おいしかった」だけしか書けなかった人はCです（笑）

（教師）けれども、みなさんには、Sをめざしてほしいと思います。何ができればSだと思いますか？

（生徒2）「はい、和菓子の良さをひとつではなく、たくさん発見することだと思います。」

（教師）そうですね。情報収集・判断力でいえばそうですね。けれども、今日はわざわざ、博美屋さんは、こうしてボランティアでみなさんのために貴重な時間をさいてきてくださっています。その気持ちにどう応えますか？

（生徒3）「はい、感謝の気持ちをもって、一生懸命教わることが大切だと思います。」

（教師）「そうですね。それは教わる側のみなさんの使命でもありますね。「わざわざ、今日、みなさんに教えに来てよかった」と思っていたらAですね。そして、みなさんは来年、先輩のように起業企画に取組まなければなりませんね。「こんなすばらしい生徒達なら、ぜひ、協力したいと思います」と思っていたらSですね。（笑）ひよっとしたらみなさんならできるかもしれない。ぜひ、それを目標に、よい学びの時間を過ごしてください。」

授業後の生徒の振り返り

- ・和菓子作りを初めて体験してみて、講師の先生が作っているのを見ると、難しそうに思わなかったけど、実際にやってみるとすごく難しかった。技術があるのはすごいと思いました。日本の文化を肌で味わえてとても良かったです。
- ・良いものを作るための作業の大切が分かりました。素材からこだわっておられて、私のいろんな活動にこだわりを持ってやりたいと思いました。呉にこんなにすごい技術があったなんてとても驚いた。
- ・職人さんが作るのは簡単そうに見えたけど、実際やってみると、量の配分、形を整えるなどとても難しかったです。職人さんの技も見せていただきました。はさみで形を作っているものはさすがという感じでした。これからはもらったりするときは形をじっくり見てみたいと思いました。
- ・和菓子は人を笑顔にするとおもいました。持って帰って、お母さんがすごく興奮して嬉しそうな顔になりました。見た目も味も人を笑顔にできるからすごいと思いました。
- ・きれいに作るために1つずつ丁寧にすることと素手でさわるからいつも手をきれいにしておくことが大切だと分かりました。もっと技術や伝統を大切にしていけないと思いました。
- ・私は呉市の素晴らしい技術をもっと知り、広めていき、自分自身もすごい技術を持ちたいと思うようになりました。



授業後に、博美屋さんから「ほんとうにいい子供達ですね。文化発表会などで、ぜひ協力できることがあったら言ってください」と言っていただけた。このことを生徒に伝え、生徒もたいへん喜んでいて、事後指導として、お礼の手紙を書き、改めて感謝の気持ちを伝える取組を行った。

「感謝・貢献」の資質・能力のS評価では「感謝・貢献を積み重ねて絆をつくる」ことが評価基準になっているが、まさに、その価値を実感することができた。ぜひ、この取組を、来年度の起業企画につなげたいと考えている。(平成28年度)



【国語科】 第5学年1月30日（木）2校時

単元名 古文のえがく四季

めあて 清少納言にならって「枕草子」を書こう

単元を終えての
児童の振り返り

- ・今日の学習を通して、清少納言は「枕草子」で自分の感じた五感で書いたことがすごいなと思いました。人それぞれ感じるものが違って、春が好きだといった人でも、みんな違うものに心ひかれていることがわかりました。
- ・今日の授業で、清少納言の五感の鋭さ、感性の豊かさはすごいなと思いました。毎日の何気ない情景や音、香りなどに素晴らしさを見出すことができることを大切にして、これからいろいろな時期の素晴らしさや特徴などを見つけて、私の「枕草子」を作っていきたいです。



1時間目を終えての
成果と課題等

- 授業をする計画する上で気を付けたこと、配慮したこと
- ・千年以上も前に書かれた作品だが、作者の思いに共感できることはたくさんあるのだということを感じられるように、作者が描いている情景や当時の文化について触れ楽しめるようICTを活用した。
- ◎成果
- ・ヒントカードやモデル作品を見せることで、書くことに苦手意識をもっている児童も取り組むことができた。
- ・早く作品ができ、友達の作品と比較して楽しむ姿を見ることができた。
- 課題
- ・出来あがった作品を交流する時間や、振り返りの時間を十分に取れず、担任の先生にお願いしている。

夏は夜。
真つ暗な空に、宝石のような星が
りばめられて、美しさは言うまで
もない。
星間とは違った果てない月の白い光
がちらちらと差し込むのも良い。
耳をすませば、静かな
波の音が聞こえてくるのも
心地よい。
蒸し暑い夏の夜も、
静かな夜の音を聞くと
涼しくなる。

春は朝が良い。
花が満開に咲いては、心
地よい風と共に優しく吹っ
ているのもとても良い。
朝目覚めて、鳥の鳴き声
が聞こえてくるのは言う
までもなくとてもすばら
しい。

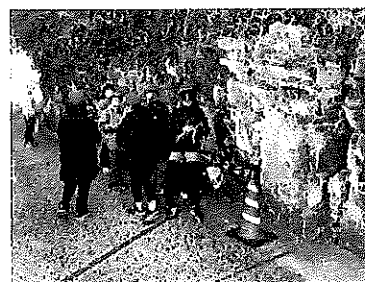
【理科】 第6学年12月19日（木）3・4校時

単元名「地層の作り方」

めあて「小坪の地層はどのようなつくりになっているのか」

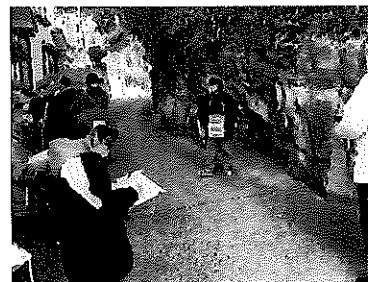
単元を終えての
児童の振り返り

- ・実際に化石があることにビックリしたし、石灰岩に塩酸を加えることで炭酸みたいになっておもしろいなと思いました。この地層を大切にしたいなと思いました。
- ・あの地層の中に化石があるかもしれないと聞いて、今度誰かと一緒に化石を虫めがねで調べてみたいなと思いました。
- ・化石などで、地層がいつできたかわかるのがすごいなと思いました。
- ・貝の化石とかもあったから、海の流れでできたとわかりました。



1時間目を終えての
成果と課題等

- 授業を計画する上で気を付けたこと、配慮したこと
- ・地域教材として、広小坪にある褶曲と断層を用いて授業を行った。
- ・観察を行うために、前時までに地層や岩石についての基礎を学習した。
- ・広小坪の地層がどのような作りになっているかを考えさせ、中学校の学習内容につながるような形で指導した。
- ◎成果
- ・身近な地域にある地層から、地域の土地の歴史を知ることができ、児童の興味・関心がより高まった。
- 課題
- ・地震の学習をしていないので、褶曲や地層が陸上に現れる現象までは説明できない。



【算数科】 第5学年 11月28日（木）3校時

単元名「単位量あたりの大きさ」 めあて「こみぐあいを計算して調べよう」	
児童の振り返り	・ 最初、どうしたら求められるか分からなかったけど、わり算で1人あたりの広さを求めるというのが分かった。実際に教室の1人あたりの広さを調べ、意外にも広がったので他のいろんなものについても調べたい。 ・ K君のわり算の意見に「なるほど」と思いました。この教室のタイルは、1人当たり39枚なのがびっくりしました。 ・ 今日の学習を通して、1人当たりの広さを調べるには、$(\text{広さ}) \div (\text{人数})$で求められることが分かりました。今日学んだ求め方を使って、今度は自分の家でもやってみたいと思いました。
1時間目を終えての成果と課題等	○授業を計画する上で気を付けたこと、配慮したこと ・ 単位量あたりの大きさの「導入」の授業であった。算数が苦手な児童でも取り組むことができるように、スクリーンや授業プリントを活用し、生徒が課題（人数やマットの数）を把握しやすくなるよう工夫した。 ◎成果 ・ 生徒は課題について理解した上で授業に取り組むことができていた。 ・ 単位量あたりの大きさを考えて混みぐあいを比べることの良さに気づくことができていた。 ・ 他の生徒の意見を取り入れ、よりよい解決方法を考えることができていた。 ●課題 ・ 比較的早い段階で、一人当たりの畳の枚数を計算することができていた。次回の授業で、畳1枚当たりの人数を計算させる流れを作りたい。この場合、割られる数より割る数の方が大きくなるので、生徒の理解状況に注意しながら学習を進めたい。 ・ 四捨五入を含む小数、分数の計算や、その大きさの比較も学習したい。



【社会科】 第6学年 1月28日（火）3校時

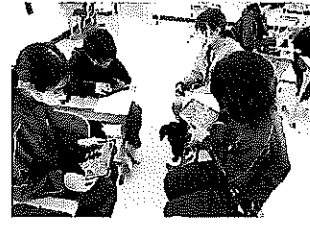
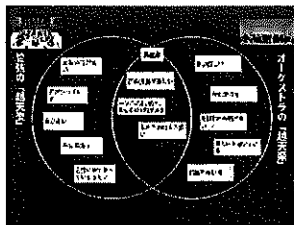
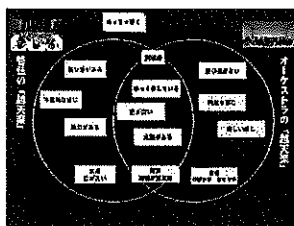
単元名「世界に歩み出した日本」 めあて「戦後日本の社会や人々のような資料を比較したり特徴を見つけたりしながら考えよう」	
児童の振り返り	・ 戦争が終わっても、人々は苦しみ続けるということが分かりました。でも、まだ少ししか知らないし、わかっていないから、もっと知りたいと思いました。 ・ 今日の学習で戦後と今の違いがたくさん分かりました。もし自分があの場所にいたら怖いし、何をすればいいかわからないから戦争は怖いと思いました。
1時間目を終えての成果と課題等	○授業を計画する上で気を付けたこと、配慮したこと ・ 呉市の今昔を写した写真を教材とすることで、興味関心を引いた。 ・ 児童の印象に残るように、戦後日本のインパクトのある資料を用意した。 ◎成果 ・ 写真資料を比較することで、変化や特徴をとらえることができた。 ・ グループで話し合うなかで、自分が気づかなかった視点を共有することができた。 ・ 戦後復興はすぐに始まったわけではなく、国民は苦しい生活を依然として送っていたことに気づき、日本の経済成長や世界との結びつきをとらえる単元の導入となった。 ●課題 ・ 提示する資料を見る視点を明確にすることで、資料に対する理解を深めることができた。



【外国語科】 第5学年 1月23日（木）4校時

単元名「Unit 6 At a restaurant.」	
めあて「店員さんとお客さんになりきって、食べたいものを注文したり、値段を伝えたりしよう！」	
児童の振り返り	・外国のお金の種類が何個もあることを初めて知りました。マクドナルドの店員が楽しかったです。英語が難しいけど、またやってみたいです。 ・ドルやセントの単位を覚えるのは難しかったけど、だんだん慣れてくるとアメリカと日本のお金の違うところをたくさん見つけることができました。コーラのサイズを英語で聞いたり、「少々お待ちください」を英語で言ったりすることができたので、もし、アメリカのお店に行くようなことや中学生になって習うときになったら今日のことを活かしたいと思います。 ・アメリカのお金を使ったり、サイズを聞いたり言ったりして少し難しかったけど、楽しかったです。中学生になっても5、6年生の外国語で習ったことは使うということを知ったので、中学生になっても覚えておきたいです。 
1時間目を終えての成果と課題等	○授業を計画する上で気を付けたこと、配慮したこと ・児童に身近なファーストフード店での注文場面を設定したり、お金は円単位ではなく、ドル単位を使ったりして、児童に海外生活で役立つ英語を学んでいるという実感をもたせた。 ◎成果 ・中学校で学習する表現を対話の中に入れることで、小学校と中学校の学習のつながりを意識させることができた。 ・新しい表現を使うことは難しそうだったが、タブレットを活用しながら、グループで教え合い、意欲的に対話することができた。 ●課題 ・対話練習時間を十分に確保するために、ドル単位を使ったお金の言い方を事前に練習しておくべきだった。 ・今後も、児童の日常生活に基づいたリアルな場面を設定し、児童が興味・関心をもって英語を使ってみたいと思うような活動を行っていきたい。 

【音楽科】 第6学年 1月31日（金）2校時

題材名 雅楽「越天楽」	
めあて「「雅楽」の特徴や魅力を探ろう」	
児童の振り返り	・雅楽は、オーケストラでは真似できないような独特な響きや音の重なり方がとても心に残り、素敵だなと感じました。 ・速度がゆっくりで落ち着くところが雅楽の魅力だと感じました。1つ1つの楽器の音色を詳しく聴いてみたいと思いました。 ・約1300年もの歴史があるのにほとんど形を変えず、受け継がれていてすごいなと思いました。 
1時間目を終えての成果と課題等	○授業を計画する上で気を付けたこと、配慮したこと ・「雅楽」の特徴やよさを捉えさせるために、オーケストラの演奏と比較し、楽器や演奏形態の共通点や相違点から日本ならではの魅力を感じられようにした。 ◎成果 ・比較をするために、ベン図を活用することで思考の整理ができた。 ・相違点からは、「なぜ指揮者がいないのに演奏することができるのか」という疑問を持ち、楽器の役割についても気付かせることができた。 ●課題 ・各楽器の音色の聴取の時間がなかったため、曲全体の雰囲気や音色についての感受でとどまり、個々の楽器との比較が難しかった。 ・歌唱教材「越天楽今様」とも関連付け、鑑賞で感受したことを、今後の歌唱表現にも活動につなげていきたい。  

単元名「ベーシックのプログラム」 めあて「プログラミングでセンサカーを動かそう。」	児童の振り返りの 1学期 ・プログラミングをするとき、2人ずつだったけど協力して交代しあいながら楽しめました。いろいろむずかしいところもあったけど楽しめたのでよかったです。 ・先生の話などはよく聞けたけど、先生に「次は〇〇ですか？」とか聞くことが多いので、次からは減らせるようにがんばりたいです。 ・わからないところを友達と協力をしてすると、車を動かしたりライトを光らせたりすることができたのでよかったです。 2学期 ・プログラミングで一学期よりもむずかしいのをして、大変だったけど協力しながらできました。三学期もクラブ発表に向けてがんばります。 ・二学期では、一学期に比べて先生に「〇〇しますか」と聞くことも少なくなったし、上手くまとめられたのでよかったです。 ・分からない人がいたら、「ここをおすよ」とか言うことができてよかったです。また、ロボットでボールを動かせてよかったです。
1時間目を終えての成果と課題等	〇授業を計画する上で気を付けたこと、配慮したこと ・2人で1台のセンサカー（自動車型ロボット）とキーボードを使って制御プログラムでセンサカーを動かす体験学習（LEDライトやモーターの制御）を行った。 ◎成果 ・センサカーにプログラムを入力してLEDライトやモーターの制御を行うことができた。 ・中学校でも8・9年生が技術家庭科の授業で同じ内容の学習活動を行っているが、小学生段階でも、中学校に負けない活動が見られた。 ●課題 ・月に1回、1時間の活動のため、簡単なプログラムの体験に終わっている。 ・中学生の学習成果の発表や中学生による小学生の指導の場といった交流活動も考えていきたい。 プログラミング体験の様子

地域の人材活用

知る・つながる・貢献する

協力・協働

感謝・貢献

1 本校区の実態

本校区においては、学校教育に対して協力的な地域の方が多い。また、「公務員ランナー」として著名で、ボストンマラソン優勝やミュンヘンオリンピック出場という輝かしい職歴を残した采谷義秋さんや、ジャズプレーヤーとして著名な坂田明さんを輩出した土地でもある。さらに、日本の伝統文化等においても、優れた能力や指導力を持つ人材も多く、教育的に大変恵まれた地域環境である。

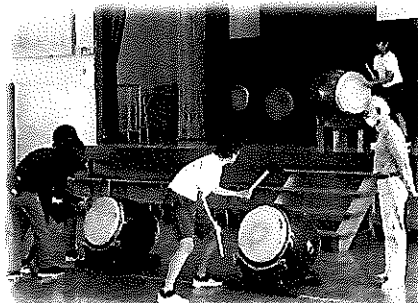
2 地域の人材活用

小学校では、主に3つの活動を通して地域の方にゲストティーチャーとしてご指導をしていただいている。

一つ目は、昔遊びクラブの活動である。皿回しやコマ、けん玉、紙飛行機、水鉄砲など、昔ながらの遊びの遊び方を教えていただいている。皿回しやコマなど、習得が難しい遊びについては、どのようにしたら良いか考えさせたり、見本を見せて下さったりすることで、昔の遊びについての理解を深めながら、楽しく活動することができている。

二つ目は、書写の授業である。書道の導入である3年生を中心に入っていただき、4～6年生も数時間、書初めや書写作品展に向けて練習をする際に指導していただいている。書き方や書に向かう姿勢などを丁寧に教えていただくことで、子供たちの成長も著しい。

三つ目は、総合的な学習の時間である。3年生は、「福島ひまわり里親プロジェクト」において、福島からいただいたひまわりの種を地域の方と一緒に植え、お世話や種取りにおいて、地域の方とふれ合いながら活動している。4年生は、「里山プロジェクト」において、地域の方と里山探検をしたり、さつまいもやど根性トマトの苗植えをしたりしている。「里山を守るためには何ができるだろうか。」とみんなで考えながら、地域の方から話を聞いたり、里山へ足を運んだりした。地域の方と直接ふれあって、教えていただけることを喜び、感謝の気持ちをもって活動することができていた。5年生は「防災プロジェクト」において、地域の方と一緒に長浜、小坪の町を歩き、危険な場所や避難所、避難の仕方について知る活動をしている。地域の方にもプレゼンテーションの作成や防災かるた作りへの助言をいただくことで、地域を意識した発信になっている。児童、家庭、地域が一体となって防災意識を高めていきたい。6年生は、「歴史探訪プロジェクト」において、地域の伝統である小坪神楽や長浜太鼓など、太鼓や笛の吹き方を指導していただき、広南の伝統を継承する活動を行っている。地域の方から小坪や長浜の歴史や祭りの由来、引き継いできた方々の思いを聞くことで「広南」という自分の住む地域に感謝し、思いを受け継ぐことの大切さに気付くことができていた。



広南中学校区では、地域文化の拠点として地域の活性化に貢献する学校をビジョンの一つに掲げている。そのため、「絆プロジェクト」と題して、先輩後輩・地域との絆づくりを行うことを大切にしている。そこで、中期の始まりである5年生において茶道を学ぶことを通して、自国の伝統文化に触れることで作法（形）から和の心を学んだり、和文化を大切にしようとする心情を育んだりすることができた。

中学校では、これまで、第8・9学年の「総合的な学習の時間」を活用して、日本の伝統文化の継承に主眼を置いた「日本文化講座」を開設してきた。平成28年より、その名称を「匠の時間」と改名し、「箏講座」、「尺八講座」、「書道講座」、「着物の着付け講座」を開設し、地域の匠をゲストティーチャーとして招き、各講座の知識・技能の習得を図っている。さらに、その集大成として、文化活動発表会である「広南劇場」で、演奏や展示を行うとともに、第9学年が小学校第5学年に「匠の技」を伝授するという「小中交流」を実施している。限られた時間の中で、いかに効果的に伝授できるかがポイントであったが、どの講座も第9学年が手分けをし、児童一人ひとりに丁寧に優しく教え、音を出すのが難しい尺八も音が出たり、手がかかる着物の着付けもできたりするようになった。第5学年の嬉しそうな顔と第9学年の指導後の達成感に満ちた表情が大変印象的であった。

また、道徳の時間においては、第8学年の「目標に向かう意志：『ランナー』」、第9学年の「希望と勇気、克己と強い意志：『未来へ走れ』」を題材とし、上述した地元の著名なマラソンランナー采谷義秋さんの、輝かしい職歴の陰にあった挫折の日々をもとに、目標に向けて、困難に負けぬ強い意志を持つこと等、豊かな心の育成の一助となっている。



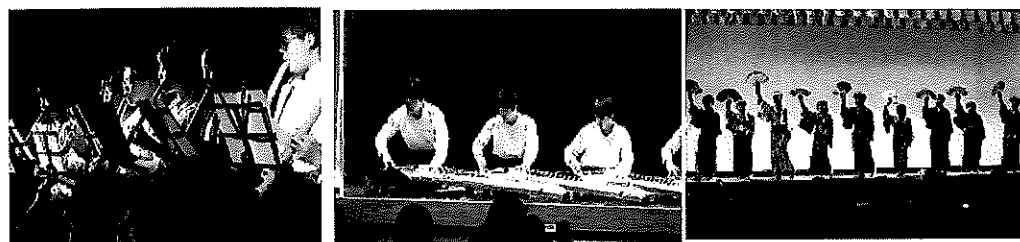
3 成果と課題

○学習指導要領にも謳われているように、グローバル人材の育成に向けては、まず、地域や我が国の伝統文化についての知識や理解が重要である。その意味で、地域の人材を活用し、日本の伝統文化の理解を図る取組は、郷土愛の育成や日本の伝統文化の継承に大いに意義ある企画・実践である。

○中学校では、第8・9学年における総合的な学習の時間の「匠の時間」だけではなく、第7学年においても、地域のゲストティーチャーから、音楽や国語の時間に、箏や尺八、書道の指導をしていただき、系統的な知識や技術の習得を図っている。第7学年で基礎を学ぶことが、第8・9学年の「匠の時間」で、より一層の習熟を図ることに繋がり、「教科横断型課題解決学習」として大きな意義がある。

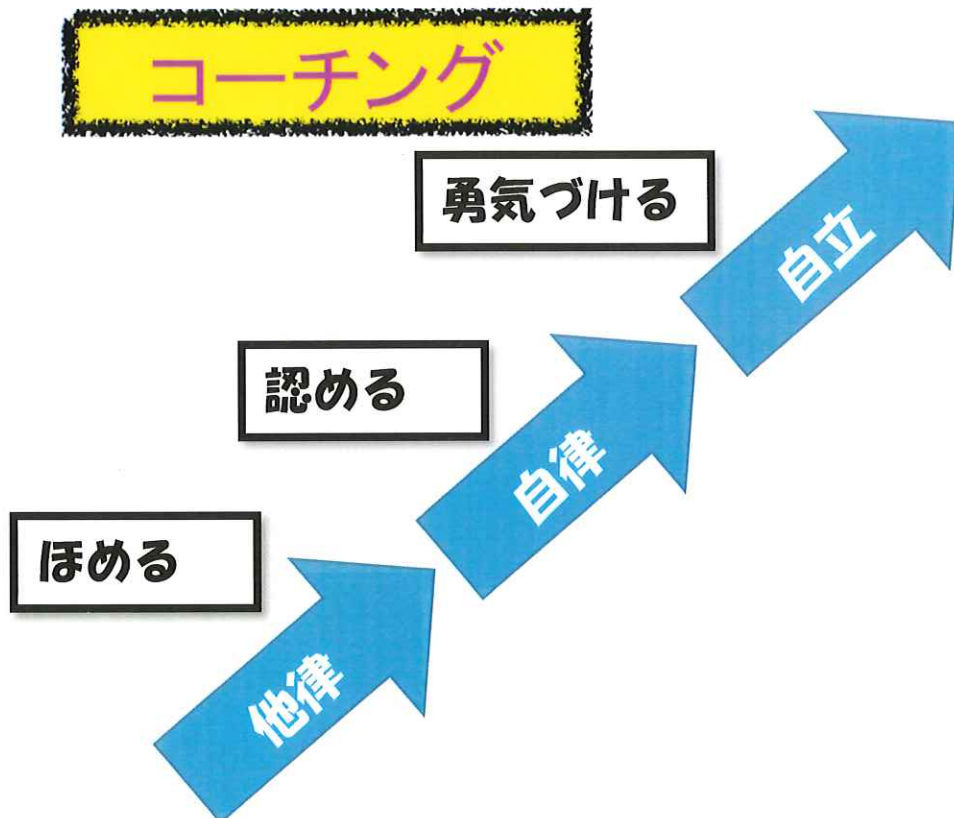


○「匠の時間」の集大成として、文化活動発表会での発表・展示を通して、地域への貢献心や自尊感情の高揚が図れる。さらに、「小中交流」において、小学生に「匠の技」を伝授する取組を通して知識・技能の定着や自己効力感の高揚が図れる。R元年度は、小学生が「小中交流」で学んだことを邦楽鑑賞会で披露することができた。



●講師の高齢化に伴い、「茶道講座」の閉講を余儀なくされた。同様に、長期的な展望において高齢化が進み、地域の人材確保が懸念される。

Ⅲ 「指導力」向上部会



ミッション

- ・小中 9 年間を見通した児童生徒の指導体制の確立
- ・「本時の展開」の授業改善（蟻の目）

R 6 研究テーマ

児童・生徒の主体性(学びに向かう力・人間性)を育てる指導の工夫〔指導技術・評価の改善〕

言葉磨きと ICT の活用能力向上を目指して

(1) 言葉磨き

研究をすすめる中で、児童生徒の主体的な学びは、事例に示すとおり、1時間の授業の枠で成立するというより、教師のひとつひとつの声かけや指導によって育成することができることがわかる。そして課題発見・解決学習は教師の指導技術の課題ともいえる。そこで、本校では生徒の主体性を育てる指導技術として「教育コーチング」や「アドラー心理学」などの研修を計画的に進め、その成果を日々の授業や生徒指導の中で生かす取組をすすめる。

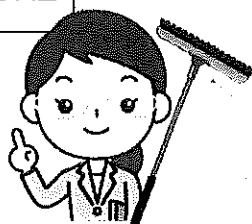
事例1 自在ほうきのしまい方について指導したい

情報収集・判断

思考・表現

責任・使命

BEFORE



ほうきの先が痛むので、先を上にして置くようにしてください。

知識注入型指導？

生徒は何も思考しないので自分のものにならない。

AFTER



あなたはほうきをどのように置きますか？
次のどちらか手を上げてみてください

課題を発見させる

では、このほうきをみてください。
なぜ、先が痛んでいると思いますか？

思考させる

今気がついたことを、次からやってみてください。掃除道具箱を見てまわるのを楽しみにしています

解決策を実行させ評価する

事例2 朝のあいさつ当番をさぼった生徒を朝会でどう指導するか？

思考・表現 責任・使命

BEFORE



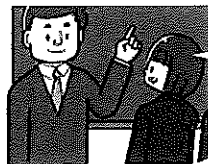
忘れた生徒は立ちなさい。(見せしめ)
おまえたちは何をやっているんだ！(恫喝)
無責任だろう！罰として〇〇しなさい(押しつけ)

AFTER

忘れずに参加した生徒ご苦労さん(承認)
今日、忘れた生徒は、昼休憩に職員室に来なさい(指示)



君はどうしたら良い
と思う？



今日はすいませんでした(謝罪)

明日やり直しても良いですか？
(償いの方法の自己決定)

わかりました。君は
明日、名誉挽回したいんですね。

失敗した時の課題解決の方法を自分で考え実行させる

事例3 面接の受け方の見本をみせにきてくれた先輩に対して評議委員に必要な対応を学ばせたい

感謝・貢献 思考・表現 責任・使命

BEFORE



はい、ではみなでお礼を言いましょう。
起立！礼！ありがとうございました！
評議委員さん、この会を閉会してください

AFTER



今日はわざわざ、先輩がみなさんのためにこうして来ていただきました。
評議委員さん、この会を閉会してください。

はい、お礼を言わせてください。
今日は、ありがとうございました。

それでは、君個人だけのお礼になって
しまいますね。

代表してお礼の気持ちを伝えさせていただきます。(感想を加えつつ感謝の気持ちを伝える。)



<授業の中で>

事例4 情報収集・判断力を育てたい 情報収集・判断

BEFORE

教科書P234ページを開いて、図Iをみてください。これから、火山は、東北地方に多いことがわかりますね。

AFTER

火山はどんなところに分布しているのでしょうか。
その情報を教科書から探して見つけてください。

はい、教科書P234ページの図1にその情報があります。

そうですね。火山の情報はそのあたりにあるみたいですね。他の人はどうですか？では、また、その図をみて、どんなことがわかりますか？火山の分布についてわかることを発表してください。

事例5 思考力・表現力を育てたい 思考・表現

BEFORE

1分間スピーチをします。内容はなんでもいいです。

AFTER

1分間スピーチをします。今、習っている故事成語をひとつ内容に使うことを条件にします。

事例6 授業をきちんと受けることの大切さを伝えたい 責任・使命

BEFORE

ちゃんと授業を受けないと行く高校がなくなるぞ！

AFTER

先生には、みなさんの学力を付ける責任があります。それで先生は今日の授業のための準備を昨日までがんばってここに立っている。
それでは、学ぶ側のみなさんのすべきことは何ですか？

事例7 協力・協働的な態度を育てたい 協力・協働

BEFORE

では、班の代表が、各班の実験でわかったことを発表してください。

AFTER

各班の実験でわかったことを今から5分後に、班の誰かに指名します。誰が指名されてもよいように準備しておいてください。

事例8 知識・技能を生きた知識・技能として身に付けさせたい 知識・技能

BEFORE

市役所の組織は図のとおりです。***は、…となっています。

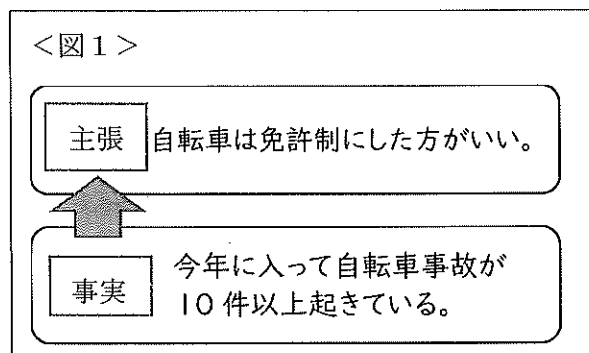
AFTER

次の1～10の困りごとが生じました。これは、市役所に相談する内容でしょうか？また、それは、それぞれのどの窓口に相談すべきだと思いますか？市役所の組織図をみて答えなさい。

(2) 三角ロジック

何をどうしたらよいか、何をどう考えるべきか、といった判断や考えを伝えている文を「主張」と呼びます。

「今年に入って自転車事故が10件以上起きている。」という事実に対して、「自転車は免許制にした方がいい。」という主張があったとします。(図1)それが正しいかどうかは、主張だけでは決



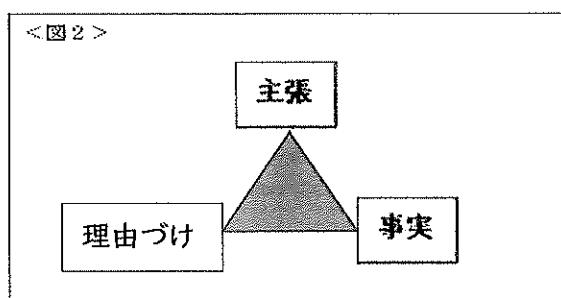
められません。その判断や考えを支える根拠を知る必要があります。

根拠は、「事実」と「理由づけ」の二つの部分に分けることができます。「事実」とは、実際に起こったできごとや、さまざまな調査などから得られた数値(データ)です。「理由づけ」とは、「事実」と「主張」の間をつなぐ考えです。

こうした、「主張」と「事実」と「理由づけ」の三つを区別し、この三点を意識して考える方法を三角ロジックといいます。

ここで、事実としてあげられているのは、「今年に入って自転車事故が10件以上起きている。」です。けれども、この事実だけでは、「自転車は免許制にした方がいい。」という主張には、すぐには結びつきません。

この事実から、どうしてこの主張が導き出されるのかを説明するのが「理由づけ」です。理由付けとしてあげられるのは、例えば、「自転車を免許制にすれば、安全運転できる人だけが自転車に乗るようになる。そうなれば、事故は減るだろうから。」です。この理由づけによって、事実と主張が結びつけられます。(図2)



主張の正しさを確かめるためには、事実と理由づけが正しいかを確かめることが必要です。ここであげた例の場合、まず本当に10件の事故が起きているのかどうかを確かめます。次に、理由づけの正しさを確かめます。そもそも10件の自転車事故は、安全運転しなかったために起きたものなのだろうか。「事故を減らすには、自転車講習をしたり、自転車専用道路を整えたりするなど、別の方法があるのではないか。」などと問いを重ねていくのです。いろいろな角度から理由づけを確かめることは、自分の考えを述べるときにも大事なことです。

同じ事実をもとにしていても、その人の考えや価値観によって、理由づけの内容に違いが表れます。理由づけが、事実と主張とを理論的に結びつけていると、主張の説得力が増します。日常の会話などでは、理由づけが省略されることも多くありますが、主張を述べる文章を読んだり書いたりするときや、討論などで主張をするときには、理由づけの部分を意識しましょう。

以上のように、三角ロジックを使って論理的な思考力を鍛えることによって、相手の主張の正しさを確かめたり、自分の主張を、より説得力のあるものに高めたりすることができます。

(出典：三省堂『現代の国語1』より)

発表の原則（話型）

A	私（僕）は、○○○だと思います。（考えました） 理由は・・・・・・・・だからです。みなさん、どうですか？
B	私（僕）も△△△さんと同じ意見で、 に付け加えて、 似ていて、○○○だと思います。 （考えました。） 理由は・・・・・・・・だからです。（自分の言葉で言い換える） みなさん、どうですか？
C	私（僕）は、△△△さんと少し違って 少し違っていて、 □□□だと思います。 （考えました。） 理由は・・・・・・・・だからです。 個人的に意見を聞いてみる みなさん、どうですか？ （自分と違う意見の人）△△△さん、どう思いますか？ （同じ考えの人）☆☆☆さん、どう思いますか？ （意見の分からない人）***さん、どう思いますか？

ポイント

相手に分かりやすい表現で、理由(根拠)を明らかにして
発言する。

広南学園生活ルーブリックの活用について

(ねらい) これまで広南学園では、「時を守り、場を清め、礼を正し、学びを求める」をめざすこども像とし、中学校では、それを「生徒の心得」の中で示すとともに、その中で共通に取り組む礼節指導、たとえば、「心を込めた深い礼」や「立腰指導」を「広南しぐさ」ということばで子供に伝えることで、意識付けを図ってきた。

しかしながら、児童生徒が自分の状態を見取り、また、教師から、その評価を返すことはしていなかった。このたび、ルーブリックの研究を進める中で、生活の振り返りにおいてもルーブリックを活用し、学期ごとに、児童生徒の自己評価に合わせ、教師の評価を加え、学期を振り返る機会をもつこととした。このルーブリックについては、元警固屋中学校長 芦谷先生がつくられたものをもとに作成した。また、そのことを生徒・保護者・教職員で共有する方法として「5つの合い言葉、3つの約束」を作成した。

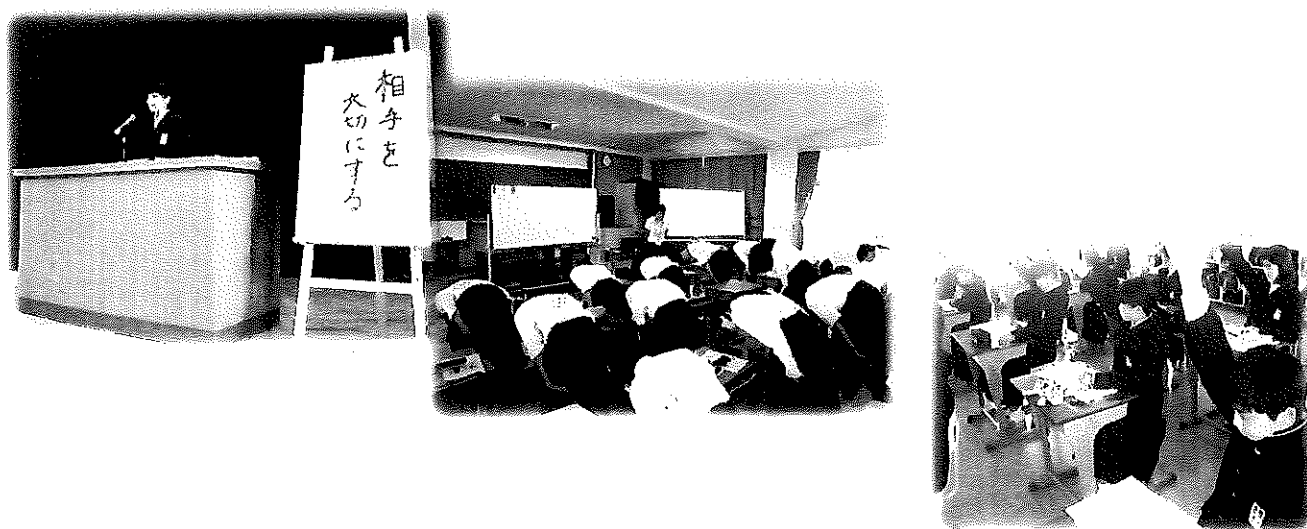
今年度は生徒のネット依存の改善に役立てていきたい。

◇生徒心得◇

呉市立広南中学校

自立に向かって主体的に生きるとともに社会に貢献できる自分と仲間をつくるため、広南中学校の生徒の一員としての自覚と誇りを持ち、次の4箇条を心に置いて、ルールを守り、みんなが楽しく生活できる学校づくりに貢献することを誓います。

1. 「ノーチャイム」の意味を理解し「時を守る」ことを大切にします。
1. 「清潔」「整理整頓」を心に「場を清める」ことを大切にします。
1. 「礼節と思いやり」の伝統を守り、「礼を正す」ことを大切にします。
1. 校訓「不かく尋ね高く志す」を胸に「学びを求める」ことを大切にします。



広南学園 生活目標「時を守り、場を清め、礼を正し、学びを求める」ループリック

年 組 氏名 ()

	<時を守る人> 時を大切にすることができる	1学期		2学期		3学期	
		自己評価	評価	自己評価	評価	自己評価	評価
S	授業開始時間の前に授業の準備を終え、授業の予習・復習をしながら待つことができる						
A	授業開始時間には授業の準備を終えて座ることができる						
B	授業開始時間には着席することができる						
C	授業開始時間に時々、遅刻することがある						

	<場を清める人> まわりを美しく整えることができる。	1学期		2学期		3学期	
		自己評価	評価	自己評価	評価	自己評価	評価
S	学び生活する場所を美しくすることで自分の心も磨かれるので、掃除が苦にならない						
A	担当の場所でなくてもゴミが落ちていたら自分で拾い、環境を整えることができる						
B	そうじ場所を少しでも美しくするために、誠実にそうじに取り組んでいる						
C	そうじの場所に行くが、しかたなくそうじに取り組んでいる						

	<礼を正す人> 相手を大切にする礼節が身についている人	1学期		2学期		3学期	
		自己評価	評価	自己評価	評価	自己評価	評価
S	時と場に応じた相手を大切にする礼節を身に付けている						
A	礼儀正しくあいさつができ、敬語がきちんと言える						
B	自分から目上の人や友達にあいさつができる						
C	自分から目上の人や友達にあいさつができない						

	<学びを求める> 学び続ける大切を理解し、求め続ける人	1学期		2学期		3学期	
		自己評価	評価	自己評価	評価	自己評価	評価
S	興味を持ったことには自主的に調べたりすることで学びを深めたりすることができる						
A	誠実な態度で授業に取り組み、学習内容を理解するためによく努力している						
B	先生の指示に従って学習（授業・提出物等）に取り組んでいる						
C	学習道具を整えて授業に取り組むことができない						

広南学園「5つの合言葉・3つの約束」

「時を守り、場を清め、礼を正し、学びを求めろ」人になろう!!

【5つの合言葉】

- ① 「時間を大切にしろ」子ども
- ② 「周りを美しく整える」子ども
- ③ 「挨拶をする」子ども
- ④ 「話をよく聞く」子ども
- ⑤ 「自分の思いを伝える」子ども

【3つの約束】

- ① 「家庭学習を毎日おこなう」子ども
- ② 「テレビ・ゲーム・SNS など利用のルールを守る」子ども
- ③ 「帰宅時刻を守る」子ども

		前 期			中 期			後 期			
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	7 年	8 年	9 年	
5 つ の 合 言 葉	① 時間を大切にする	きめられたじかんのまもる			次の準備を考えて時計を見て行動する			時間を守り、時間内にやりきる			先を見通し、計画的に行動する
	② 周りを美しく整える	つかったものをもとにかえす			使った物を元きれいに返す			必要な物を取り出しやすくする			周りを分類し、使いやすく整える
	③ 挨拶をする	じぶんからおおきなこえで			自分から進んで、立ち止まって、相手の顔をみて、大きな声で			時と場に応じて、礼儀正しく			
	④ 話をよく聞く	はなすひとにからだをむけてさいごまで			最後まで聞き、うなずいたりたりたりたり			相手と自分の考えを比較しながら			相手を理解し、事実と意見を判断しながら
	⑤ 自分の思いを伝える	あいてのかおをみながら はつきりと			結論先行、理由を付けて はつきりと			根拠に基づき、明確に			場に応じた内容と表現を豊かに
3 つ の 約 束	① 家庭学習を毎日おこなう	30 分	40 分	50 分	60 分	70 分	80 分	90 分以上	120 分以上		
	② テレビ・ゲーム・SNS など利用のルールを守る	親子で話し合い、ルールを決めて守る			(例) 時間を決める・食事中はしない・9 時以降はしない・使わない日を決める 等 【1 日 2 時間以上の SNS の使用は、2 時間の学習成果を 0 にするばかりでなく、脳の発達に悪影響があることが研究機関の調査で明らかになっています。(裏参照)】						
	③ 帰宅時刻を守る	夕方 17 時までに帰宅する(「どこへ、誰と、何をしに」を伝える)			帰宅時刻・行き先等を伝える						

「^{かいせき}脳の解析データを見^みて絶^{ぜっく}句^くし、自^{じぶん}分の子どもにスマホを与えたことを後悔^{こうかい}しました。」 (脳科学者 川島隆太) 『2時間の学習効果が消える! やってはいけない脳の習慣』(青春出版社) 前書きより

テレビやゲーム、あるいはスマホが脳に与える影響について、小中高生7万人のデータを集め、解析するとともに実際に脳にどのような影響を与えるのか医学的に研究している脳科学者がいます。ここでは、その本の中で紹介されている内容の一部を紹介いたします。詳しくは、上に紹介した本に書いてあるので、ぜひ読んでみてください。

(スマホ・LINEを長時間使用していると、) **家庭で平均2時間以上も勉強している子が、ほとんど勉強していない子より成績が悪い**という衝撃的な結果。」(P18)

「LINEを長時間、習慣的に使用することで、**脳の形が変わってしまい、集中力や注意力の低下**につながったと考えられる。」(P40)

「**どんなに長時間勉強してもゲームをしてしまうと、勉強した効果が打ち消されてしまう。**」
(P66)

「ゲームプレイ時間が長い子どもの脳は、**脳内の各組織の発達に遅れ**が見られる。」(P72)

「テレビを見る時間が長い子どもほど**言語性知能が低く、3年後の変化量も小さい**ことから、その後の**言語能力の発達が遅くなって**しまう」(P80)

『2時間の学習効果が消える! やってはいけない脳の習慣 小中高生7万人の実証データによる衝撃レポート』

川島隆太 [監修] 横田晋務 [著]

青春出版社 出版 2016年 発行

注・・・太字、()は筆者

IV 付録 令和6年度開発単元

- 中学校校内研修学習指導案
 - ・ 理科(中) 1 年 ・ 国語(中) 2 年
 - ・ 社会(中) 2 年 ・ 英語(中) 3 年
 - ・ 技術(中) 2 年 ・ 保健(中) 1 年
 - ・ 自立活動 (中) クローバー 1
- 改訂した総合的な学習の時間の単元
 - ・ (中) 1 ・ 2 ・ 3 年
- 開発・改訂した総合的な学習の時間の単元
 - ・ (中) 3 年 未来貢献 PROJECT
- (中)特別活動 (学級活動)
 - ・ 「キャリアノート」を活用した資質・能力の振り返り

「光の世界」(凸レンズのはたらき)

1 対象・日時 第1学年A組 23名

令和6年11月15日(金) 第5校時

2 単元を構成する問い

「本質的な問い」・「単元を貫く問い」について

本質的な問い	光の性質を用いることが、私たちの生活をどのように便利にしているだろうか？
単元を貫く問い	なぜカメラで写真がとれるのだろうか？

「単元(題材)について」【単元観】

本単元は、中学校学習指導要領(平成29年告示)解説理科編第1分野(1)(ア)「光と音」を受けて設定したものである。本単元では、理科の見方・考え方を働かせ、光についての観察、実験などを行い、身近な物理現象を日常生活や社会と関連付けながら理解させるとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けさせ、思考力、判断力、表現力等を育成することが主なねらいである。

光の現象に進んで関わり科学的に探求しようとする態度を養うとともに、光の性質を応用することが人間生活を豊かで便利にしていることに気付かせ、科学技術の発展と生活とが密接に関わりをもっていることの認識を深めさせることができる単元である。

生徒について【生徒観】

本学級の生徒は、光の反射・屈折について、小学校の第3学年で、日光は直進し、鏡などで集めたり反射させたりできることを学習している。

10月に行った事前のアンケート結果から、「理科の授業は好きです。」「理科の実験は好きです。」の質問に対する肯定的評価はそれぞれ79%・84%と高く、授業では、実験を積極的に行う生徒が多い。一方で、「理科の授業において、問題解決のために必要な情報を整理し、それらの根拠を論理的に組み立て説明できます。」の質問に対する肯定的評価は42%と低く、情報を整理したり、計算したりしながら、実験結果を考察・まとめることに課題がある。

指導の工夫について【指導観】

指導にあたっては、光の現象に対する興味・関心を高めてもらうために、単元を貫く問いを「なぜカメラで写真がとれるのだろうか？」と設定し、単元の中で獲得した知識・技能等を活用して、課題を解決していく単元構成にする。

生徒が主体的に見通しをもって実験結果を分析するための手立てとして、実験結果をスプレッドシートに集約することで、考察時の比較・検討が行えるように工夫し、実験結果や既習の光の性質を活用し、根拠を基に自分の考えを相手にわかりやすく説明することができるよう指導する。また、実験を行った際のスプレッドシートを活用し、生徒の理解や思考の到達度、思考過程等を読み取り、評価を行う。

3 単元の目標

- (1) 身近な物理現象としての光について、日常生活や社会と関連付けながら、光の反射や屈折、凸レンズの働きを理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付ける。
- (2) 身近な物理現象としての光について、問題を見だし、見通しをもって観察・実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働きの規則性や関係性を見いだして表現する。
- (3) 光に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見る。

4 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①光に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、光の反射や屈折、凸レンズの働きについての基本的な概念や原理・法則などを理解している。 知 ① ②科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 知 ②	光について問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働きなど、光の性質の規則性や関係性を見いだして表現している。 思	身近な物理現象として、光に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 態

5 単元の計画（全10時間）

時	学習内容	評価規準			他の単元・教科、小中、社会とのつながり
		知	思	態	
1	課題の設定 『なぜカメラで写真がとれるのだろうか？』				
	整理・分析 ・物の見え方 身のまわりの物体が見える理由を、身近な例をもとに考え、話し合い、発表する。	①			・活動の観察 ・発表 【小学校】 光の直進 【美術】 光の三原色
2	情報の収集 ・光の反射 鏡に映る物体と鏡と物体を見る人との位置関係について実験し、考察する。	②	○		・活動の観察 ・発表 ・レポート 【小学校】 光の反射
3	整理・分析 ・鏡で反射する光の道筋 実験結果から、光の反射の法則についてまとめる。また、乱反射も光の反射の法則に従っていることを確認する。	①	○		・活動の観察 ・ワークシート 【小学校】 光の反射

4	情報の収集 ・光の屈折 直方体のガラスを通りぬける光の道筋について実験し、考察する。	②	○	・活動の観察 ・発表 ・レポート	
5	整理・分析 ・光の屈折のまとめ 実験結果から、光が屈折して起こる現象についてまとめる。また、光の屈折による物体の見え方について考察する。	①		・活動の観察 ・発表 ・ワークシート	
6	まとめ・創造・表現 ・全反射の実験 全反射の実験を行い、実験結果から、全反射が起こる条件についてまとめる。また、光ファイバーなど、全反射を利用している事例について知る。			・活動の観察 ・発表	
7	整理・分析 ・レンズのはたらき 凸レンズを通した物体の見え方について、実験を行う。また、凸レンズを通る光の進み方について確認する。	①	○	・活動の観察 ・発表 ・ワークシート	【小学校】 虫眼鏡を用いると光を集約できる
8 (本時)	情報の収集 ・凸レンズによる像のでき方 凸レンズによってできる像の位置や向き、大きさについて調べる実験を行う。	②	○	・活動の観察 ・発表 ・レポート	
9	整理・分析 ・凸レンズによる像のでき方 実験結果から、凸レンズによってできる像の位置や向き、大きさの規則性をまとめる。また、実像、虚像について説明する。	①	○	・活動の観察 ・発表 ・ワークシート	
10	まとめ・創造・表現 ・凸レンズ まとめ 凸レンズによる像の作図の練習を行う。また、単元を貫く問い「なぜカメラで写真がとれるのだろうか？」に取り組み、考えをまとめる。			・活動の観察 ・発表	【社会とのつながり】 カメラ

6 本時について（本時 8/10）

（１）本時の目標

焦点距離が異なる光学台(7.5cm と 10cm)を用いて実験を行い、凸レンズによってできる像の位置と像の大きさ、像の向きとの関係を調べる。その後、スプレッドシートを用いて実験データをまとめて集約し、凸レンズによる像のでき方の規則性を考察する。

（２）本時の展開

	学 習 活 動	生徒の活動（形態を含む） 指導上の留意点（・）	◎評価規準（評価方法） ◇「努力を要する」状況と判断 した児童生徒への手立て
導入 3分 課題意識を持つ	○前時の学習を振り返る。 焦点や焦点距離について振り返る。 ○本時のめあてを確認する。	ICT 一斉 ・スクリーンに映し出して全体で実験方法を確認する。	
	めあて：凸レンズによってできる像にはどんな規則性があるだろう？		
展開 ① 25分 学びを深める	○実験の内容を確認する。 実験 光学台を用いて、光源やスクリーンを動かし、凸レンズによってできる像の位置と像の大きさ、像の向きの関係を調べる。 ・焦点距離が 7.5cm の光学台を 1 台ずつ 3 つの班、焦点距離が 10cm の光学台を 1 台ずつ 3 つの班で分かれて、それぞれで実験を行う。	・実験道具の準備 ・実験での注意点の確認 ・スプレッドシートに実験結果を記入する。 ICT 協議 ・各班で協力して実験を行い、スプレッドシートに実験の結果をまとめる。 また、実験結果からわかることを考察させる。	◎実験結果を正確に記録できる。（スプレッドシート） ◇班活動
展開 ② 17分 学びを深める	○各班の実験結果を確認しながら、わかったことを生徒と一緒に確認していく。 焦点距離が異なる凸レンズを用いたときにできる像について、共通点はなんだろうか。 ↓ 「実験結果をふまえて、焦点距離が 16cm の凸レンズを用いたとき、実験結果がどのようなになるかを予想してみよう」	ICT 一斉 ・生徒がスプレッドシートにまとめた実験結果をスクリーンに映し出して、全体で確認をする。	

	・各班で結果を予想し、スプレッドシートに予想した内容をまとめる。 ・予想の理由を説明する。説明する場合は、次の5つについて説明する。 〈物体が焦点距離の2倍より遠いとき〉 〈物体が焦点距離の2倍にあるとき〉 〈物体が焦点距離の2倍と焦点との間にあるとき〉 〈物体が焦点にあるとき〉 〈物体が焦点より近いとき〉 ○焦点距離が 16cm の凸レンズを用いて演示実験を行い、実験結果が予想と合っているか確認する。	物体が焦点距離の2倍の位置だと、像は焦点距離の2倍の位置にでき、同じ大きさで上下左右逆向きの像になる。 物体が焦点距離の2倍より遠いと、上下左右逆向きで小さな像ができる。 物体が焦点距離の2倍と焦点距離の間にあるとき、上下左右逆向きで大きな像ができる。 物体が焦点距離より近いと、スクリーンに像ができない。さらに、凸レンズの方を見ると同じ向きで大きな像が見える。 物体が焦点距離にあると、像はできない。	◎実験結果からわかることを整理し、次の実験の予想を立てることができる。 (スプレッドシート) ◇班活動
終末 5分 学習過程を振り返る	○本時のまとめを行う。	・まとめの内容はスクリーンに表示する。	
	○振り返りを記入する。	まとめ：物体が焦点距離の2倍の位置にあるとき、 上下左右逆向きで同じ大きさの像ができる。 物体が焦点距離の2倍より遠い位置にあるとき、 上下左右逆向きで物体より小さい像ができる。 物体が焦点距離の2倍と焦点の間の位置にあるとき、 上下左右逆向きで物体より大きい像ができる。 物体が焦点距離の位置・焦点距離より近い位置にあるとき、 スクリーンに像はできない。	

国語科学習指導案（略案）

呉市立広南中学校

指導者 浜満 理恵

1 日 時 令和7年1月29日（水曜日） 第5校時

2 学年・学級 第2学年A組（17名）

3 単 元 名（本時） 並行読書で読みを深めよう「小さな手袋」

本質的な問い：文学的な文章から私たちは何を得ているのか。

単元を貫く問い：この作品を象徴しているものから、どのような効果が生まれているのだろう。

4 本時のねらい

「読むこと」において、観点を明確にして文章を読み、文章の構成や表現の効果について考えている。

5 学習の流れ

	学 習 活 動	児童生徒の活動 (形態を含む) 指導上の留意点（・）	◎評価規準(評価方法) ◇「努力を要する」状況と判断した児童生徒への手立て
導入 3分 課題意識を持つ	○ 課題意識をもつ。 ・作品を読み進めてきた上で、初めに予想した「重要アイテム ベスト3」を検証し、一つに絞ることを確認する。 ICT一斉 ・初めに予想したものをスクリーンで共有する。 めあて：自分が選ぶ作品の「重要アイテム」について、根拠を明らかにして書こう。		
展開 35分 学びを深める	○ 再度、「重要アイテムベスト3」を考える。	個人思考 ・初読の際の予想と、作品を読み進めてきた今の考えを、個人で検討する。 ・アイテムを選んだ理由を書かせる。その際、他作品との比較をさせ、そのアイテムに込められている意味や効果等について言及させる。	◎ [思考・判断・表現] ワークシート ・ここでは、自分が最初に考えた「重要アイテム」を再検討する際、明確な根拠を示しながら自分の考えを書いているかを確認する。(記述の分析) ◇書き方のモデルを示す。

	(予想される生徒の記述) ・「小さな手袋」…「手袋」ではなく、「小さな手袋」と表現されている。ここから、おばあさんが不自由な手でありながらも、シホのことを思いながら一生懸命に編んでくれた「手袋」だということがわかる。おばあさんがシホのことを大事に思い、何よりもシホへの愛情を感じられるアイテムだと考えた。 「字のない葉書」でも、一つのアイテムである「手紙」から、普段は見せない父親の愛情を感じた私が、とても温かい気持ちになっている。 ・「ショール」……寒くなっても、シホが毎日雑木林に通い、おばあさんのショールの中で、おばあさんとの交流を深めている。寒い冬でもショールの中に入れば温かく、二人の交流がとても温かだったことを想像でき、そこから二人の絆を感じ取れた。「セミロングホームルーム」では、「セミ」から瀬尾君を守ろうとしたトリノの行動に気付いた瀬尾くんが、トリノに「ありがとう」と感謝の思いを伝えていた。瀬尾くんがセミに気付いていないと思っていたからこそ、静かに、セミから救ってあげようとしたトリノと、トリノのことを信じていた瀬尾くんの様子から、二人の関係に絆を感じることができる。 ・「おやつ」……いつも娘がお世話になっているおばあさんに対して、シホの母親が、シホに持たせた「おやつ」である。病気である自分の「父」と「おばあさん」を重ね、おばあさんの体のことを考えた手作りのおやつからは、母からおばあさんへの愛情、感謝の思いを感じることができるアイテムである。		
	○ グループで、交流する。	○各グループの中で、 「はなしたいわシート」を活用した交流になるよう意識づける。	
	○ 交流を通して、自分が「ベスト1」だと考えたものを決める。	個人思考 三角ロジック	
	○私は、最も重要なアイテムを「雑木林」だと捉えた。物語の最初から「雑木林」は登場し、とても丁寧に細かい描写で描かれている。そして、この雑木林でシホとおばあさんは出会い、そこから二人の温かい交流を広げている。この雑木林が、この物語の舞台であり、二人がお互いに思い合う愛の溢れた場所として描かれていると解釈した。だから、この「雑木林」を最重要アイテムだと考える。		
	○ 自分の考えを発表する。	・何人かに、発表させる。	
終末 10分 学習過程を振り返る	まとめ： 小説の中には、象徴としてはたらいっている物や場所が出てくる。それぞれの物や場所に、どのような事柄がこめられているかを考えることで読みが深まる。		
	○ 振り返りを書く。		
	・私は、「手袋」を最重要アイテムだと考えていた。作品のタイトルにもなっているし、「小さな手袋」はおばあさんからシホへの愛情を表しており、タイトルから読者に想像させるよう工夫していると捉えたからだ。交流で、「雑木林」だと考えている人の意見を聞き、雑木林が必要以上に細かいところまで描かれている理由に納得でき、「雑木林」がこの作品にとって重要なアイテムだと考えが変わった。		
	○ 次の時間は、他作品と比較しながら、文章にまとめることを伝える。		

社会科学学習指導案（略案）

呉市立広南中学校

指導者 木須 悠文

- 1 日 時 令和7年1月30日（木曜日） 第4校時
- 2 学年・学級 第2学年A組（17名）
- 3 単 元 名（本時） 欧米の進出と日本の開国 （江戸幕府の滅亡）
本質的な問い：近代化とは何だろう。
単元を貫く問い：欧米諸国の接近が、江戸幕府の滅亡にどう影響したのだろう。
- 4 本時のねらい
欧米の進出が、日本の政治や経済を変化させたことを理解し、江戸幕府滅亡の理由を考える。
- 5 学習の流れ

	学習内容	生徒の活動（形態を含む） 指導上の留意点（・）	◎評価規準（評価方法） ◇「努力を要する」状況と判断した生徒への手立て
導入 （5分） 課題意識を持つ	○前時までの振返りをする。 質問 なぜ江戸幕府は滅亡したのだろう。	ペリー来航以降、日本は欧米と不平等条約を締結したことが原因となって、国内では尊王攘夷運動が過激化したこと、物価が高騰したことを確認する。（発表） ・欧米のアジア進出、日本への接近によって、幕府の政治や経済が動揺していることを意識づける。	
	めあて：江戸幕府が滅亡した理由を、欧米がアジアや日本に進出した事実から、根拠をもとに説明しよう。		
展開 （35分） 学びを深める	薩摩藩が薩英戦争、長州藩が下関戦争を経験して、どのように意見を変化させたのかを考える。	ICT個人 資料をから、攘夷思想が倒幕しそうへと変化した事実背景を考える。（個人→ペア） ・ICTで資料を提示する。 下関戦争や薩英戦争によって、長州藩や薩摩藩は、攘夷は不可能と考え、倒幕し、近代化を図ることが優先であると考えたようになったから。	

	どのように江戸幕府は滅亡したのだろう。 ○なぜ江戸幕府は滅亡したのだろう。	坂本龍馬が薩長同盟の仲介をし、一方で15代将軍徳川慶喜が、大政奉還を行い、江戸幕府が滅亡したことを理解する。 話型 単元の学習を通して学んだ事実を根拠にして、説明する。 (個人→グループ) ・話型を提示する。 ・年表を参考にさせて、事実を明確にさせる。	◎[思考・判断・表現](ワークシート) 江戸幕府滅亡の理由を、根拠を基に説明している。 (記述の分析) ◇話し方のモデルを示す。
	(1858年 日米修好通商条約) 江戸幕府が滅亡した理由は、大老の井伊直弼が朝廷の許可なく日米修好通商条約をしたからだと考える。これによって、攘夷派たちの怒りを買って、桜田門外の変が起きた。これは幕府の権威を大きく失墜させることにつながった。だから、江戸幕府の滅亡の理由は、日米修好通商条約を結んだことだと考える。 (1866年 薩長同盟) 江戸幕府が滅亡した理由は、坂本龍馬が薩長同盟を結ばせたことだと考える。これによって軍事の西洋化を図る2つの藩が結託して、江戸幕府に対抗できる力をつけることにつながり、江戸城の無血開城を果たしたのではないだろうか。だから、江戸幕府の滅亡の理由は、薩長同盟を結んだことだと考える。		
終末 (10分) 学習過程を振り返る	振り返りシートに記入する	・生徒のことはでまとめさせる。	まとめ：私は、ペリーが日本に来航したことが、江戸幕府が滅亡した理由だと考えていた。ペリー来航によって日本は開国し、江戸幕府の政治や経済が大きく変化したからだ。しかし、友達の意見聞いて、日本が開国したとしても、江戸幕府が政権を担い続けることは可能で、むしろ開国後に江戸幕府が、朝廷に無許可で日米修好通商条約を結んだり、安政の大獄などを行って現状を維持し続けようとした対応が、江戸幕府の滅亡の原因となったと考えようになった。

- 1 日 時 令和6年12月17日（火曜日） 第5校時
- 2 学年・学級 第3学年A組（22名）
- 3 単 元 名 New Horizon 3 Unit 5 A Legacy for Peace
- 4 本時の目標 関係代名詞を使って自分の大切なものや人を紹介することができる。
- 5 本時の評価規準 関係代名詞の特徴やきまりを理解している。 【知識・技能】
聞き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて話そうとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

6 本時の学習の流れ

	学習活動	生徒の活動（形態を含む） 指導上の留意点（・）	評価規準 （評価方法）
導入 (10分)	1 帯活動を行う ① Let's Talk in pairs! ② 教科書の音読練習 2 本時のめあてを確認する	・既習事項を思い出させ、定着を図る。 ・タブレットとヘッドフォンを使い、各自で音読練習する。	
	めあて：，関係代名詞を使って自分の大切なものや人をわかりやすく紹介しよう。		
展開 (30分)	3 発表練習 発問 発表するときにどんなことに気を付けて発表しますか。 ペア練習 4 グループ内で発表 5 全体で発表 各グループの代表者が発表する	声の大きさ・アイコンタクト・表情を意識して、聞き手にわかりやすく伝える。 ・ペアで、声の大きさ・アイコンタクト・表情を意識して、聞き手にわかりやすく、原稿は見ずに覚えて練習する。 ・即興で1文付け加えて発表するように促す。 ・グループ内でお互いに評価し、代表者を決める。	聞き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて、自分の大切なものや人を話そうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 （行動観察）
終末 (10分)	6 本時のまとめを行う。	・聞き手を意識して発表するときに何が大切かを確認する。	
	まとめ：聞き手を意識して発表するときは、大きな声・アイコンタクト・表情を意識して発表する。		
	7 本時の振り返りを行う。 ・振り返りシートに記入する。	・本時を振り返り、目標が達成できたか自己評価させる。	

技術科学学習指導案（略案）

呉市立広南中学校
指導者 佐々木 裕介

1 日 時 令和7年1月31日（金曜日） 第5校時

2 学年・学級 第2学年A組（17名）

3 単 元 名（本時）情報の技術（プログラミング）

本質的な問い：生活を豊かにするにはどうしたらよいだろう。

単元を貫く問い：プログラミングで何ができるのだろう。

4 本時のねらい

計測・制御を活用したプログラムを制作し、マイクロビットを動かす体験を通して、生活の中にあるプログラミングについて考える力を身に付ける。

5 学習の流れ

	学習内容	生徒の活動（形態を含む） 指導上の留意点（・）	◎評価規準（評価方法） ◇「努力を要する」状況と判断した生徒への手立て
導入 (5) 課題意識を持つ	○教具（センサライト）について考える。 質問 これは、何でしょう？ S C A とは？	・計測・制御（SCA）について確認する。 S（センサ）←照度センサ，温度センサ， 振動センサ，タッチセンサ C（コンピュータ）←マイクロビット A（アクチュエータ）←LED，スピーカ	
	めあて：計測・制御を活用したプログラムを制作し，マイクロビットを動かそう。		
展開 (40) 学びを深める	○プログラムを制作する。 課題 計測・制御を活用したプログラムを制作しよう！ ○計測・制御を活用したプログラムを考え，制作する。 ○プログラムの紹介と説明をする。	一斉 全員同じプログラムを制作する。 （プログラム制作の練習） ・スクリーンにプログラムを提示し，説明する。 発表 「私が組んだプログラムは○○です。このプログラムは○○ができます。」	◇グループ活動での教え合い ◎計測・制御を活用したプログラムを組むことができた。 （ロイロノート提出箱）
終末 (5) 学習過程を振り返る	○本時の振り返り まとめ：計測・制御（SCA）を活用したプログラムは生活に役立っています。 みんなが考えたプログラムも製品化されるかもしれません。 ○振り返りシートに記入する。		

保健体育科学習指導案（略案）

呉市立広南中学校
指導者 山本 葵

- 1 日 時 令和7年1月28日（火曜日） 第4校時
- 2 学年・学級 第1学年A組（23名）
- 3 単 元 名（本時） 健康な生活と疾病の予防①（休養・睡眠と健康）
 本質的な問い：生涯を通して、心身の健康を保持増進するために大切なことは何だろう。
 単元を貫く問い：調和のとれた生活とは何だろう。
- 4 本時のねらい
 授業を通して、睡眠及び休養の必要性を理解し、自分の睡眠までの生活習慣を見直すことができる。
- 5 学習の流れ

	学習内容	生徒の活動（形態を含む） 指導上の留意点（・）	◎評価規準（評価方法） ◇「努力を要する」状況と判断した生徒への手立て
導入 (5分) 課題意識を持つ	○前時までの既習事項の確認を行う。（運動と健康、食生活と健康） 質問 昨日、何時に寝ましたか？	・運動や食生活が健康と結びついていることを思い出させる。 ・本時の睡眠についての関心を持たせるために、睡眠時刻について確認する。	◇ペア活動
めあて：自分の睡眠を振り返り、有効な時間の使い方を考えよう。			
展開 (40分) 学びを深める	○睡眠セルフチェック ○睡眠クイズ	・睡眠セルフチェックを行い、自分の睡眠の質を確認させる。 ・クイズを通して、睡眠について学習をする。 ・クイズの答えがなぜそうなるのか、自分の考えを持たせながら行う。 ・理想の睡眠時間や日本の睡眠時間の実態について触れる。 ・睡眠に加えて、休養も大切ということを押さえる。	

	○自分の睡眠を振り返る。 ・昨日の1日の過ごし方を円グラフに記入する。 ・問題点・改善策を考える。 ①個人で考える。 ②班で交流する。 ③全体で共有する。	ICT 一斉 ・問題点を見つけるために、時間の使い方を確認させる。 ・大まかに記入するように指示する。 ICT 協議 ・個人で考えた後に、班で共有することにより、自分では気が付かなかった問題点に気が付かせる。 ・今回の授業で学んだことを取り入れて考えるように指示する。 問題点 ・寝る前にスマホをみている。 ・寝る時間が遅い。 改善点 ・寝る前の2時間前スマホを使わないようにする。 ・テレビを見る時間を少なくして、寝る時間を早くする。	◇机間指導 ◇机間指導 ◎自分の1日の過ごし方について自分で問題点、改善策を記入している。(ロイロノート)
終末 (5分) 学習過程を 振り返る	○振り返りをロイロノートに記入する。 ○次回の保健の予告をする。	・再度、めあてを確認し、めあてに沿った振り返りになるようにさせる。 ・寝るまでにどのように過ごしたらいいのか考えることができた。今後は、寝る前にスマホを見ないことや、寝る2時間前には遅くてもご飯を食べるようにしたい。 ・友達の見解を聞いて、自分では気が付かなかった問題点に気づくことができた。今後は、今日考えた改善策を心がけたい。 ・振り返りが終わった生徒は、保健のノートをさせる。 ・次回の見通しを持たせる。	◇机間指導 ◎めあてに沿った内容になっているか、今後実生活にどのように生かしていくか記入している。(ロイロノート)

自立活動 学習指導案（略案）

呉市立広南中学校

指導者 佐伯 育伸

- 1 日 時 令和7年1月17日（金曜日） 第3校時
- 2 学年・学級 第1学年クローバー1組（2名）
- 3 単 元 名（本時）1年間の振り返りから成長の確認と今後の目標を考える。
 本質的な問い：なぜ学ぶのか
 単元を貫く問い：この1年間の学びは、将来につながっているのか
- 4 本時のねらい
 作成したムービーで自分の1年間を紹介し、新学年になってからの目標を設定する。
- 5 学習の流れ

	学習内容	生徒の活動（形態を含む） 指導上の留意点（・）	◎評価規準（評価方法） ◇「努力を要する」状況と判断 した生徒への手立て
導 入 (10)	質問1 この1年で成長したと思う？ 質問2 学校生活、この1年間で印象に残った活動は？その理由は？	話型 僕が印象に残っているのは〇〇です。理由は〇〇です。	
課題意識を持つ	めあて：今年1年間の活動を振り返り、新学年の目標を考える		
展 開 (30)	進行役：教師 ○1年の活動を振り返る。 ○自作ムービーを紹介する。 ◎成長について考え、発表する。 ◎新学年での目標を考える。 ○先生方からのアドバイス	共感 共感 ICT 個別 作成時の気持ちを伝え、鑑賞する。 話型 成長した点は〇〇です。 話型 目標は〇〇です。なぜなら〇〇だからです。 「こんなことできるかもね」的にアドバイスをもらう。	◎自分の考えを発表できる
終 末 (10)	◎目標を再考し、変更等があれば発表する。 ○1年間の振り返り「なぜ学ぶのか」を考えて発表する。	話型 先生からのアドバイスを聞いて〇〇を付け加えます。理由は〇〇だからです。	◎自分の考えを深めて発表できる。
学習過程を振り返る	まとめ：学びながらトライしているからこそ自分では気づけない成長がある。将来につなげるために今日立てた目標も達成できるよう頑張っていきましょう。		

単元名

「魅力的な生き方がし」～ビブリオトーク～

挑戦問題

『あなたはいくつの人生を知っていますか』

本単元で育成する資質・能力

感謝・貢献 責任・使命 挑戦・探究 協力・協働 思考・表現 情報収集・判断 知識・技能

期待される生徒の変容

生徒の会う「運命の本」は、あえて生徒の興味を持ったことのない人物に関する本とし、その中の登場人物の生き方を深く読み取らせる。読み取った情報を、クラスの仲間に紹介することによって、参考にした先輩の動画や友達の発表と自分の発表内容を比較し、自分の表現力の向上を実感させる効果が期待される。

中学校入学後の最初の総合の単元として、「ビブリオトーク」で出会ったさまざまな生き方や、あきらめず挑戦することのすばらしさの価値を学び、自分の生き方につなげて考えようとする態度を育てる。

令和6年度の取組より

Before 【生徒の振り返りシートより】

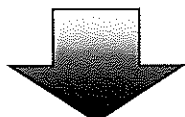
- ・わかりやすいフリップをつくって、魅力のある発表をしたいです。
- ・大きな声で、表情よく発表することができるようにがんばりたい。
- ・先輩のビブリオトークの動画を見ると、問いかけるような話し方やフリップに仕掛けをつくって工夫をしていました。私も見る人にわかりやすく伝わるように発表したいです。
- ・実際できるのか不安だけど、まあできるだけことはしたいです。

フリップづくり



After 【振り返り】

- ・最初の頃はできないと思っていたけど空き時間を使つての練習、友達からのアドバイスで色々と考えながら取り組みました。本番、成功してうれしかったです。
- ・本番は大きな声で発表できてよかった。本の内容をまとめる力、覚える力がつきました。また多くの人の生き方や考え方を知ることができました。友達の発表を聞くと身振り、手振りを面白くしたり、わかりやすくしてすごいなと思いました。
- ・人によってその本の人の生き方を自分なりにまとめていて面白かったです。この取組を通していろいろな本を読んでいきたいなと思いました。



読み練習



令和7年度指導計画・ワークシートの改善のポイント

- ・フリップ作成に時間がかかりかかるため、画用紙に描くのではなく、タブレットに描くことで作成時間の短縮、絵の質の向上、見る人の見やすさにつながると考えられる。
- ・小学校教員の参観日が5月末に行われる。それに合わせて完成させ、そこでリハーサルができるよう準備するのが望ましい。
- ・保護者の参観の日に発表して、保護者の感想を書いてもらうことは継続していきたい。

本番の様子



単元名

「伝統文化を受け継ごう」～落語に挑戦！～

挑戦問題

『たくさんの人を笑顔にできる新しい自分づくりに挑戦しよう！』

本単元で育成する資質・能力

感謝・貢献 責任・使命 挑戦・探究 協力・協働 思考・表現 情報収集・判断 知識・技能

期待される生徒の変容

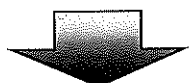
日本の伝統芸能である落語に挑戦し、日本の伝統文化を理解するとともに、表現力の育成を図り、「笑い」や「人を楽しませる」ことの価値に気づくこと、稽古を通して仲間と切磋琢磨しながら、人を楽しませることのできる自分の成長を感じる中で、主体性を育成する。

最後に、落語で習得した技能を使い、お世話になっている家族や友人、地域の人の前で、感謝の気持ちを込め、落語を中心に、文化活動発表会などの舞台で披露し見てくださる方々に楽しんでもらうことで、表現活動の醍醐味を味わうとともに、後期の様々な表現活動へ主体的に取り組むためのさらなる挑戦心を育む。

令和6年度の取組より

Before【生徒の振り返りシートより】

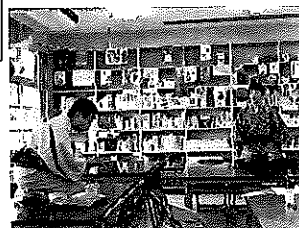
- ・最初は楽勝と思っていたけど、いざ学んでみると表情や顔の方向などがとても難しそうで自信がなくてやりたくないと思いました。だけど落語の学習が10年続いていると聞いて、私たちが止めるわけにはいかないと火が付きまして。恥じらいを捨てていきたい。
- ・みんなが笑ってくれるようなものができるか、しっかり大きな声でなりきって発表できるかとにかく不安です。でもやるしかないので頑張ります。
- ・人前で発表することが苦手で、自信をもつことが難しいので、しっかり覚えてがんばっていききたい。
- ・覚えるのも大変だけど、動作も覚え、視線にも気をつけていくようにしていきたい。



After【振り返り】

- ・正直、落語を始めたころは、私にはできないとあきらめていたけど、たくさん練習をしていくうちに聞いてくれる人に笑顔を届けたいという思いに変わっていきまして。この取組を通して、あきらめないことが大切だと学びました。
- ・自分の良いところを認めつつ、相手の良いところも見つかけながら、自分にできなかったところに足していき、仕上げることができました。
- ・最初は、「もう無理かもしれない」と思ったけど、いざやってみると上手にできました。そして、落語披露が終わって「もっと、いろいろなことに挑戦してみたい」と思いました。

講師来校



落語披露



令和7年度指導計画・ワークシートの改善のポイント

- ・小学校での落語披露の際に、小学校4年生と5年生には少し内容が難しく、理解するのが難しいため、小学校では6年生のみに披露し、小学校以外の学校外へ発表をする機会がさらに多くてもよいと感じた。
- ・夏休みに落語を覚えるように、毎週枚数を決めて段階的に練習させた。さらに落語の動画を提出させることによって、計画的に覚えることができた生徒が多かった。
- ・外部講師に指導していただく機会が少なかったため、可能であれば、指導していただく機会を増やしてほしい。



単元名

「広南起業PROJECT」

挑戦問題 『地域社会に貢献する起業に挑戦しよう』

本単元で育成する資質・能力

感謝・貢献 責任・使命 挑戦・探究 協力・協働 思考・表現 情報収集・判断 知識・技能

期待される生徒の変容

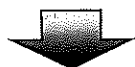
「起業して社会貢献すること」を題材にした「広南起業 PROJECT」を通して、自己の能力や適性を活かしながら、将来を自らの力で協働して創造的に切り開こうとする志（こころの力）を身に付けるとともに、資金集めや商品開発、広報宣伝販売活動等、実際の起業活動に挑戦することで、志を叶える力を育成する。

また、探究の過程で、職場体験学習等において地域の人・もの・ことと関わることにより、地域への愛着や地域の一員としての自覚が深まり、プロジェクトで得た利益を、地域や社会に還元することで、社会における仕事の存在意義に気付き、社会貢献する喜びを実感させたい。

令和6年度の取組より

Before 【生徒の振り返りより】

- ・一致団結し、自分から積極的に仕事をしたい。
- ・楽しい商品開発を目指したい。
- ・みんなと常に協力して、楽しく明るいチームを作りたい。



After 【振り返りより】

- ・販売する商品を丁寧に扱いながら、責任を持って仕事をやりきることができました。HMIIショップでは、声の大きさや言葉づかいを意識して、お客様と接することができました。
- ・友達と協力して、HMIIの仕事を進めることができました。本番は緊張しましたが、全力を出し切ることができました。
- ・友達や先生と協力して準備をすることができました。準備は大変だったけど、たくさん売れて嬉しかった。
- ・動画編集や小道具作りなど、自分が得意なことで活躍し、お客様を喜ばせることができました。
- ・会計や商品の袋詰めなどを経験することで、大変さがわかりました。舞台発表や販売準備などをみんなで協力することによって、クラスの絆がさらに深まったと感じました。
- ・宣伝販売部としての責任を果たすことができました。最大限に商品の魅力が伝わるような発表を考えることができました。成功できてよかったです。観客の皆様にも笑っていただけて嬉しかったです。

HMIIショップの様子



令和7年度指導計画・ワークシートの改善のポイント

- ・キャリアスタートウィークの時期と、HMIIでの資金調達や商品開発の時期が重なっており、準備に多くの時間が割かれる。そのため計画的にプロジェクトを進める必要がある。
- ・今回は地域・小学校に向けての予約販売と、広南劇場での当日販売の両方を実施した。10月までに予約販売や当日販売の準備が整えるためにはもっと早い段階（1学期）からの準備が必要である。
- ・地域還元イベントとしてイルミネーションを、今年度は防災教育と絡めて1学年と合同で行った。この規模でのイベントを今後も継続していこうと考えると、今後の生徒数減少も加味して、2学年だけでなく、他学年とも協力しないと生徒や教職員の負担が大きくなってしまう。もしくは負担が軽減できるような別の方法を模索したい。



「FOR THE NEXT STEP」

挑戦問題 『みんなによるみんなのための道探し』

本単元で育成する資質・能力

感謝・貢献 責任・使命 挑戦・探究 協力・協働 思考・表現 情報収集・判断 知識・技能

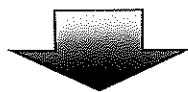
期待される生徒の変容

よりよい生き方探しに向け、仲間と協働して情報収集・整理分析することを通して進路に対する視野を広げることが期待できる。また、保護者やクラスメートへ、担当した進路先について得られた最新の情報・魅力を、ポイントを絞ってわかりやすくまとめて発表することで思考力・表現力を向上することができる。また、それぞれの進路選択に向けての自立的な態度と支援的環境を向上させる効果も期待できる。

令和6年度取組より

Before【初発の生徒の振り返りより】

- ・名前や場所などわかる高校はあるが、どんな学校なのか学科やその学校の特徴など、わからないことがあるので調べてみたいと思いました。
- ・進路決定のためには、将来自分が何をしたいのか、どんな仕事に就きたいのかを考え、その就きたい仕事にはどんな資格が必要なのかを知ることが大切だと思いました。そして、たくさんの学校を自分で調べてオープンスクールに参加したいと思いました。
- ・積極的に情報収集し、良く考えて、進学先を決めたいと思いました。



After【生徒の振り返りより】

- ・この学習で、上級学校の種類などたくさんの学校のことを知り、さらにイメージが変わった学校もたくさんあった。一人一人の夢の実現に向けて、一人ではなくクラスみんなで取り組まないといけないことがわかった。
- ・高校には種類があるし、学科もいろいろある。自分がその学校で何をしたいか、自分の夢に近づくことができる学校なのかなど、高校を決めるために考えることがたくさんあった。
- ・高校の先生をおもてなしすることで、相手を意識した対応を学び、広南中学校の良さをしっかりアピールすることもできた。各高校への質問も分担して考え発表することができた。担当した係の仕事をしっかりと、みんなで協力し会を成功させることができた。
- ・「高校説明会」では、今まで知らなかった学校の様子を学びました。もっと知りたいと思い、オープンスクールに積極的に参加することができました。

令和7年度指導計画・ワークシート改善のポイント

- ・生徒たちが自ら企画、実行する機会として捉え、高校説明会の企画やそのために準備する時間数を確保する。特に、より充実した会にするために互いにアドバイスし合い、事前練習するための時間が必要である。
- ・企画、準備では配付資料、送迎、司会、挨拶、質問等の分担をし、その係毎に原稿や動きを確認、練習した。
- ・県立高等学校入試の「自己表現」に向けて、計画的に進めていく必要がある。広南中学校では1年生時の「落語」を初め、2年生の「HMⅡ」、3年生の「創作劇」、図書のビブリオトークなど学校生活の中での様々な発表の機会を通して、表現力を身に付ける活動に取り組んでいる。発表後は、生徒を評価し、改善すべきところは指導し、さらなる自己表現力の向上を目指す。

単元名

「未来貢献 PROJECT」

挑戦問題 「地域の偉人の生き方に学ぶ 宇都宮黙霖」

本単元で育成する資質・能力

知識・技能

情報収集・判断

思考・表現

挑戦・探究

責任・使命

協力・協働

感謝・貢献

1 対象 第9学年A組 計23名

2 単元で目指す学ぶ姿

地域の偉人に着目し、未来に貢献するためのメッセージの発信を、創作劇づくりを通して協働して挑戦しようとする姿。

＜単元で生徒と共有する学びの姿を見取る資質・能力のルーブリック＞

		資質・能力	評価	評価基準	
				※「何ができるようになったか」で評価	
問題解決へ向かう探究の能力	知識・技能	知識・技能	S	宇都宮黙霖について知識や創作劇での知識や技能について、誇りや自信を持って、人に伝えることができる。	
			A	宇都宮黙霖について学んだ知識や創作劇での知識や技能の良さを人に伝えることができる。	
			B	宇都宮黙霖について学んだ知識や技能を人に伝えることができる。	
			C	宇都宮黙霖について学んだ知識や技能を人に説明することができない。	
	思考力・判断力・表現力	情報収集・判断	S	宇都宮黙霖について、尋ねたり、調べたり、試したりして、生き方についての考え方を広げ深めることができる。	
			A	宇都宮黙霖について、尋ねたり、調べたり、試したりして、必要なものを見付け、選び出すことができる。	
			B	宇都宮黙霖について、尋ねたり、調べたり、試したりして、関係ありそうなものを見付けることができる。	
			C	尋ねたり、調べたり、試したりすることができない。	
		思考・表現	S	創作劇において、相手に思いが伝わるようなアイデアや方法を考え、自分の思いを表現することができる。	
			A	創作劇において、問題解決へむけてのアイデアや方法を考え、自分のことばで表現することができる。	
			B	問題解決へむけてのアイデアや方法を考え、表現することができる。	
			C	問題解決へむけてのアイデアや方法を考えることができない。	
主体的・協働的に地域社会に参画しようとする意欲と態度	学びに向かう力・人間性	挑戦・探究	S	夢や疑問、できないことを大切にし、新しい自分やものを創り出すことができる。	
			A	夢や疑問、できないことを大切にし、見通しを持って粘り強く学び続けることができる。	
			B	夢や疑問、できないことを大切にし、学び続けようと努力することができる。	
			C	できないことやわからないことをあきらめている。	
		責任・使命	S	宇都宮黙霖を学んだ者として、自分の使命を自覚し、自分のこれからの生き方の目標を見付け出すことができる。	
			A	宇都宮黙霖を学んだ者として、これからの平和について、使命感をもって考えていこうとすることができる。	
			B	宇都宮黙霖を学んだ者として、自分の使命を理解し、果たそうと努力することができる。	
			C	自分の役割や使命を理解していない。	
		協力・協働	S	他の人と協力し、いろいろな意見やそれぞれの力を生かして全員が納得できる劇を作っていくことができる。	
			A	創作劇を進める中で、他の人と協力し、いろいろな意見やそれぞれの力を生かすことができる。	
			B	創作劇を進める中で、他の人と協力しようとして努力することができる。	
			C	他の人と協力しようとしていない。	
		感謝・貢献	S	文化活動発表会で劇を披露することで、地域の方や保護者に感謝・貢献の気持ちを表し、仲間や地域との絆を深めることができる。	
			A	文化活動発表会で劇を披露することで、感謝の気持ちを持って、自分なりに貢献することができる。	
			B	文化活動発表会で劇を披露することで、感謝の気持ちを持って、自分なりに貢献しようとして努力することができる。	
			C	感謝の気持ちを持っていない。	

【評価方法】

生徒には、上記の資質・能力のルーブリックを適時示し、意欲を喚起させ、単元の最後の自己評価に教師の評価を加える。(授業観察、ワークシート)

本単元は、「ふるさと学習」における、地域・未来貢献プロジェクトの集大成である。第1学年では、地域貢献としてふるさとの人々を笑顔にする「落語に挑戦」し、人を楽しませることができた自分の成長を実感することで主体性を伸ばした。また、第2学年では社会貢献として「起業プロジェクト」に取り組み、自己の能力の適性を生かしながら、協働して創造的に将来を切り開こうとする志を持ち、それを実践することで、かなえる力を身に付けてきた。今年度、第3学年ではテーマを「永遠（とわ）に明日（あす）へプロジェクト」とし、地域の偉人「宇都宮黙霖」を題材にし、宇都宮黙霖の生き方から学び、保護者や地域のためにできることを考え、そのメッセージを伝えることにした。

創作劇に取り組むことは、誰もが責任を持って役割を果たさなければならない負荷があることによって、実社会における問題解決に取り組む態度である、責任・使命や協力・協働など学びに向かう力を育むことにつながると考える。23人という少人数での環境では、舞台に関わる準備については、そのほとんどを全員で取り組まなければならない。作業の一つ一つを自分たちで力を合わせ取り組んでいくことで達成感を味わわせたいと考えた。

4 本単元の構想図（貫きカリキュラム）

志 大事な進路を見据えて自分の生き方を見つめ、自分自身の良さを表現できるようになりたい！

挑戦問題 自己PR大作戦で自分の良さを表現しよう！

単元の振り返り 創作劇を通して、自分の役割を責任をもってやりきることができた。たくさんの人にふるさとの良さや課題を伝えることもできた。今度は自分自身の事が語れる人になりたい！総①

挑戦 創作劇「宇都宮黙霖物語 ～立志編～」 保護者・地域の方の参観

準備 まとめ・創造・表現

劇の練り直し 総②
 劇リハーサル 総②
 劇練習 総③
 創作劇づくり・衣装・音響・映像照明等 総④

地域の方の参観
 創作劇実行委員会実施（随時）

地域協力（住蓮寺）

整理・分析 調べた情報から自分たちができることを考える 総①
 情報収集 宇都宮黙霖について本で学ぶ 総①
 課題の設定 自分の地域について知らないことが多い。地域の課題について調べ、課題解決のため、みんなで考えたことを地域の人たちに伝えたい！
 課題の発見

志

挑戦問題 ふるさとの未来のために、メッセージを伝えよう！

教師の願い ふるさとの良さや課題を発見し、課題に沿って自分たちにできることを総合的に考え使命感を持って後輩に伝え実践しようとする生徒を育てたい。

6 本単元の指導計画（総授業時間数 30 時間）

月	学習活動	時数	指導上の留意点・評価の視点・方法
4	課題の設定 情報収集Ⅰ STEP 1 「ふるさとの未来について考えよう」（地域の偉人「宇都宮黙霖」について調べて生き方を伝えよう） ○地域の偉人はどのようにして生まれたか。書物を調べる。 ○地域の偉人からふるさとへ伝えるメッセージを考える。 ・それぞれが情報収集する内容の分担を決める。 ・どんな情報を集める必要があるか、考える。 各グループで、項目立てを決める。 ・必要な情報を実際に集め、メモにまとめる。 ・創作劇に必要な役割分担も決める。任された仕事を進めていく際、どのような情報が必要か考える、	1	★【情報収集・判断】 地域の偉人や地域の歴史や資料から情報収集し、ふるさとや自分たちの課題を考えることができる。
6	情報収集Ⅱ STEP 2 「先輩たちの創作劇からどんなメッセージが伝わってくるか、劇をつくるために必要なものは何かを考えよう。」 ○先輩たちの創作劇から学ぼう ・先輩の創作劇を見て、先輩たちのふるさとに対するメッセージを知り、自分たちはどのようなメッセージを伝えるべきかを考える。 ・先輩たちの創作劇の良さに気づく。 挑戦問題 「ふるさとの未来のために、メッセージを伝えよう！」 ・ループリックでこの単元でつける資質・能力を確認する。 ・この地域へのメッセージとして、どのようなことが考えられるか課題とする。	1	・先輩たちの伝えたかったことは何かを考える地域や未来についてのテーマを提示し、自分たちの使命を考えさせ、自分たちはどのような創作劇をつくりたいかを考えさせる。 ★【挑戦・探究】 ふるさとのために、創作劇を上演する意義を理解し、挑戦しようとする気持ちを持つことができる。
8	整理・分析Ⅰ STEP 3 「集めた情報をもとに、これから先、自分たちが取り組まなければならないことは何かを考えよう」 ・調べた情報をもとに、自分たちの課題を考え、交流する。 情報収集Ⅲ STEP 4 「課題を意識しながら、創作劇の準備をしよう。」 ・脚本に、自分たちの考えを入れ込み、物語を完成させる。 ・創作劇の作り方を学び、自分たちの役割を分担する。 STEP 5 「それぞれの役割の中で、やるべきことを順序立て、準備をしよう」 ・各部署で、どのように仕事を進めるかを確認し、必要なものをリストアップする。	1 2 2	・それぞれのグループの発表を聞いて、自分たちが取り組まなければならないことを発表し合う。 ★【協力・協働】 舞台の準備について、必要なものは何か、 アイディアを出し合ったり考えを出し合ったりできる。

9	・作業日程を決め、それぞれの部署で作業を始める。 STEP 6 「創作劇の練習をしよう」「舞台装置を作ろう」 ・芝居を効果的に見せるために、どのような道具を準備して、どのように使っていくかを考える。 ・パートごとの練習を行う。 ・舞台装置製作の進捗状況を、全体で確認し、協働して作業する。	9	・創作劇のカレンダーを見ながら、自分たちで計画を立てる、 ★【知識・技能】 台詞を言うのではなく、その状況に即したコミュニケーションを表現するためにどのような工夫点があるか、考える。(振り返りシート) ★【協力・協働】 話し合ったりアドバイスをしたりして、効果的な表現にしようとしている。 舞台装置や音響など、協力・協働して作業をしている。(行動観察・振り返りシート)
10	整理・分析Ⅱ 新たな課題の設定 STEP 7 「先生方に見てもらい、必要な箇所を見直そう」 ○通し稽古をして、最後の確認をしよう。 ・通し稽古を先生方に見てもらい、アドバイスをもらう。その中で、改善点を見つけ、改善する。 まとめ・創造・表現 STEP 8 「本番 創作劇を上演しよう」 ○感想ボードの設置とアンケートを準備し、観客の人々に感想を書ってもらおう。 振り返り (振り返る) ○「単元で身に付けた資質・能力を振り返ろう」 ・創作劇を披露することで、地域の人たちを喜ばせ、メッセージを伝えることができたか、感動させることができたかについて振り返り、クラスで交流する。 ・ワークシートのループリックを見て、本単元で身に付けた資質・能力を自己評価する。 ・ワークシートを提出し、教師の評価を受ける。	12	・立ち稽古ができたなら、先生方に見てもらい、さらに工夫をしていく ★【責任・使命】 自分の役割を理解し、スムーズに練習ができるために何をしなければならないか等、自分の責任を果たしているか振り返る。 ★【思考・表現】 観客に伝わるように、効果的に表現の仕方を工夫している。(行動観察・振り返り) 1 ★【感謝・貢献】 上演に向け、創作劇の意義を確認し、感謝の気持ちを持って上演することを確認する。(振り返り) 1 ・感想ボードや自身の振り返りシートを見返し ながら、ループリックの項目について自己評価を行い、自分の資質・能力の成長を確認する。

7 本時の学習（2時間目／全 30 時間）

（1）本時の目標 DVDを視聴して、先輩方がどのような劇づくりを目指しているか、それを参考に
して、自分たちがどのような劇をつくりたいかを考える。

（2）学習の流れ

学習活動	指導上の留意点（・） 配慮を要する生徒への支援（◆）	評価規準 資質・能力（★） （評価方法）
1 課題意識を持つ。 ・劇を伝えるために、必要なことは何だろう。 ・先輩たちの去年の創作劇を見て、先輩たちがふるさとのために伝えたかったメッセージは何か、どんな準備が必要か、考える。	生徒の気付き例 ・何を伝えたいか。という内容。 ・どんな準備が必要かわからない。	
2 本時のめあてを確認する。 めあて STEP1「先輩たちの創作劇からどんなメッセージが伝わってくるか、劇をつくるために必要なものは何かを考えよう。」		
3 広南劇場で、上演すべき居とはどんなものか考える。 ・先輩方の創作劇を見ながら、伝わってきたメッセージ、創作のために参考になったこと等、考えたことを記入する。 ・発表し、交流し合う。 ・挑戦問題を知る。 ・ループリックでこの単元で身に付ける力を確認する。	・先輩たちのテーマの設定の仕方を考える。 ・広南劇場を楽しみにしている人たちは、自分たちにどんなことを期待しているか考える。 生徒の意見の例 ・地域の偉人のことを題材にしている。 ・自分たちの活動の成果を題材にしている。 ・全員で劇をつくっている。	
＜挑戦問題の提示＞ 挑戦問題「ふるさとの未来のために、メッセージをつたえよう		
4 良い創作劇にするために必要な要素を考える。先輩たちの良い点を交流する。	生徒の意見の例 ・地域への強いメッセージを入れたい。 ・声が大きく、はっきりしゃべっている。 ・全員で劇をつくっている。 ・先輩たちの思いが伝わってくる。	・ループリックを見て、今回身に付ける力を確認する。
5 自分たちが、今回の単元でどのようなメッセージを伝えたいか、思いを持つ。 ＜予習課題＞ ・次回は地域へのメッセージについて考えるので、どんな案があるか、考えてくること。	生徒の振り返りの例 ・自分たちも先輩たちのような劇が創れるか不安だ。 ・地域の人に喜んでもらえる劇をつくりたい。	★【挑戦・探究】 地域の人のために、創作劇を創りたい、初めての劇だけどもがんばりたい、という思いを持つ。（振り返りシート）

第9学年 学級活動 学習指導案

呉市立広南中学校 指導者 佐伯 育伸
岩城 祥子

- 1 日 時 令和元年7月10日(水) 5時間目(10:45～11:35)
- 2 学年・学級 第9学年(男子10名 女子8名) 計19名
- 3 題 材 「七つの資質・能力を振り返り、なりたい自分を発見しよう」

内容(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用

4 生徒の実態と題材設定の理由について

(1) 生徒の実態

所属校では、学校の教育目標を達成するため七つの資質・能力を設定し、課題発見・解決学習を行ったり、各教科等を横断的につないだりして単元開発を行ってきた(以下、「プロジェクト学習」とする。)。その結果、平成29年度「基礎・基本」定着状況調査の質問紙調査から、所属校の育成を目指す資質・能力に関する項目で肯定的回答は80%以上であった。また、キャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力について所属校の生徒実態を把握するため、第3学年生徒21名にアンケートを実施した。中学校キャリア教育の手引きの「キャリア教育アンケートの一例」を基に4段階評定尺度法で行った調査では、右表のようになり、人間関係形成・社会形成能力及びキャリアプランニング能力については肯定的評価が見られる。一方で、自己理解・自己管理能力、課題対応能力に課題を抱えていると考えられる。このことから、一学期に取り組んだ行事である「小中合同運動会」や、総合的な学習の時間で取り組んだ「For the Next Step」などの活動から大きな達成感を味わう活動があったものの、これまでの学校生活や今度の活動を自分の生き方とつなげることができていないのではないかと考えられる。

基礎的・汎用的能力	平均
人間関係形成・社会形成	3.19
自己理解・自己管理	2.94
課題対応	2.90
キャリアプランニング	3.05

(2) 題材設定の理由

生徒の実態から、本題材では、中学校指導要領解説(平成29年告示)特別活動編(以下「解説」とする。)に示されている学級活動の内容(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」「ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用」を取り扱う。「解説」では、キャリア教育に関わる様々な活動に関して、学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うことが示されている。また、学級活動において、生徒が活動を記録し、蓄積するポートフォリオ的な教材を活用することで、発達の段階に応じた系統的なキャリア教育を充実させることができると示されている。

本題材では、学校教育全体で育成を目指す資質・能力を「キャリアノート」でつなぎ、生徒自身が七つの資質・能力について振り返り、自己の成長や課題、学びの関連付けや自分にとっての大切な学びを考えることで、自己実現を図ろうとする態度を育成する。

指導にあたっては、1学期に取り組んだ各「プロジェクト学習」の単元末において、生徒が七つの資質・能力についてルーブリックを用いて振り返ったものを基礎資料として、事前の活動で「志とカシート」にまとめさせておく。「志とカシート」とは、1学期に取り組んだ「プロジェクト学習」についての振り返りを一元化してまとめたものである。本時では、「志とカシート」を基にして、以下の〔1〕～〔7〕を「キャリアノート」に記述する活動を行う(付した番号は「キャリアノート」の記述番号である。〔1〕～〔4〕自己の成長や課題、〔5〕昨年度末の「キャリアノート」に記入した「大切にしたいこと」「努力したいこと」の自己評価。友だち

と交流したカード、〔6〕他の場面で役立つ学び、そして、〔7〕2学期末における自己の将来の在り方生き方について、である。）。さらに、事後の活動として、教師や保護者のコメントを記入してもらい、それを受けて自分のコメントを記入し、「キャリアノート」のファイルに綴じさせる。

以上のように「キャリアノート」を活用することを通して、自己実現を図ろうとする態度を育成することをねらいとして、本題材を設定した。

5 指導のねらい

これまでの「プロジェクト学習」で育成した七つの資質・能力を振り返り、「キャリアノート」を活用することで、自己実現を図ろうとする態度を育てる。

6 評価規準

集団活動の意義や活動上の必要事項の理解と行動の仕方（知識及び技能）	生活や人間関係の課題の発見と解決のための話し合い、合意形成、意思決定（思考力・判断力・表現力等）	人間関係等のよりよい形成、生き方の深化と自己実現を図ろうとする態度（学びに向かう力・人間性等）
現在及び将来の自己と学ぶこととの関連や意義を理解している。	「志とカシート」から、自己の成長や課題に気づき、改善策を考えている。 - 現在の学びを振り返り、自己のよさや課題を見だし、自己の生き方について意思決定している。 - 友だちの成長したところや友だちへのアドバイスを、書いたり、伝えたりしている。	これまでの学習や総合的な学習の時間での「魅力的な生き方」を踏まえた上で、自己の在り方について考え、これからの生活や学習において、自分にふさわしい生き方を選択しようとしている。

7 指導の過程

(1) 事前の生徒の活動：国語、理科、保健体育、総合的な学習の時間、小中合同運動会において行われた「プロジェクト学習」について、身に付いた資質・能力について振り返り、「志とカシート」に記入する。「キャリアノート」の自己の成長や課題、改善点について考えておく。

活動の内容	指導上の留意点	評価規準
- 各「プロジェクト学習」単元末で、ループリックによる資質・能力の振り返りと感想や気づき等を記述する。 「志とカシート」に、資質・能力を記入し、一番がんばった資質・能力と、もっとがんばればよかった資質・能力を書き、その理由を記入する。 - 自己の成長や課題、改善点について記入する。	「志とカシート」には、書き方の例を参考にして、評価の理由を書くように伝える。 「志とカシート」から自己の成長や課題、改善点を記入する。	- これまでの「プロジェクト学習」で身に付いた資質・能力の中で、一番がんばった資質・能力と、もっとがんばればよかった資質・能力について、自分の学習態度を振り返り、その理由を記入している。 「志とカシート」を見て、自己の成長や課題を記入している。

(2)指導と評価の計画 (全1時間)

活動の内容	評価				評価方法
	知技	思判表	態度	評価規準	
- 昨年度末に記入した「大切にしたいこと、努力したいこと」に関して自己評価をする。 - 今後大切にしたいことや努力したいことについて考える。		○	◎	- 昨年度末に記入した「キャリアノート」における「大切にしたいこと、努力したいこと」を振り返り、今学期の自己の成長や努力を自己評価している。 「志とカシート」や「キャリアノート」の記述を読んで、今後大切にしたい学びやがんばりたいという思いをもっている。	「志とカシート」 「キャリアノート」 「キャリアノート」

(3)事後の生徒の活動:「キャリアノート」を教師(担任)、保護者に提出し、コメントを書いてもらい、そのコメントを受けて自分の思いを書き、「キャリアノート」のファイルに綴じる。

8 本時の展開

(1) 本時の目標 「キャリアノート」を活用して、自分の成長や課題を見付け、これから大切にしたいこと、努力したいことを発見する。

(2) 本時の展開

	活動の内容	指導上の留意点 (○) 「配慮を要する」と判断した生徒への手立て (◆) 予想される生徒の反応 (目指す生徒の姿) (□)	評価規準 [観点] (評価方法)
導入 (2分間)	○準備物を確認する。 ○「志とカシート」を活用して、1学期の取組を振り返り、自己の成長や課題についてどんなことを書いているかを確認する。		
展開 (43分間)	○本時のめあてを確認する。		
	めあて 「キャリアノート」を活用して、自分の成長や課題を見付け、これから大切にしたいこと、努力したいことを発見しよう		
	○〔5〕昨年度に記入した「キャリアノート」の「大切にしたいこと、努力したいこと」について今学期の自己評価を行う。 ○グループで、友だちの「キャリアノート」と「志とカシート」を読んで、がんばったところやよかったところについて、伝えたり、コメントを書いたりする。(グループ)	○具体的な取組での自分の姿を振り返り、努力できていたかを自己評価するように伝える。 ◆「志とカシート」や1学期の「プロジェクト学習」の振り返りの自己評価(S・A・B・C)や記述と照らし合わせるように声を掛ける。 ○友だちの成長したところを「キャリアノート」や「志とカシート」以外からも、取組の様子を思い出して、よかったところやがんばっていたところをメッセージカードに書くように伝える。 友だちの評価の例「ソーランの練習の時、後輩たちに、一生懸命教えてくれている姿がかっこよかった」「急に順番が入れ替わったのに、文句も言わず協力してくれてうれしかった。」 ◆具体的な取組の場面を提示し、その時の友だちの様子やそれを見ての自分の思いを想起させる。	[思・判・表] 〔5〕 昨年度末に記入した「大切にしたいこと、努力したいことについて、今学期の自己評価をしている。(「キャリアノート」)
	○〔6〕身に付いた資質・能力や学んだことが、他の場面で役立つのは、どんなことか考える。(個人) ○どんなことを書いたか、交流する。(全体)	○過去の学習や生活の場面、また将来必要な場面について考えさせる。 ◆他の教科や学習だけでなく、実生活で活用できるといったことがないかを問いかける。	

まとめ (5分間)	○〔7〕これから先、大切にしていきたいことや努力したいことについて記入する。	○これまでの学習や体験したことを踏まえ、これから先、自分にとって大切なことやがんばりたいことは何かを考えさせる。 ◆2学期の「プロジェクト学習」の内容を提示し、がんばりたいことを記述させる。 1学期は、これまでの中学校生活で、最上級生として自覚を持つ経験ができた。みんなとなんとかやってこれたので、これから2学期の活動についても、みんなと一緒に乗り越えたいと思った。	〔態度〕 〔7〕 なりたい自分について自分の思いをもっている。(「キャリアノート」)
--------------	--	--	--

【事後の活動】

「キャリアノート」に担任と保護者からコメントをもらい、それを受けて自分の思いを記述し、「キャリアノート」のファイルに綴じることを伝える。

9 板書計画

「七つの資質・能力を振り返り、なりたい自分を発見しよう」
めあて：「キャリアノート」を活用して、自分の成長や課題を見付け、これから大切にしたいことを発見しよう

○確認しよう

- ・できるようになったこと
- ・がんばったところ
- ・自分の課題
- ・改善点

○交流タイム

- ・他の場面で活用できること
- ・大切なこと、努力したいこと

○振り返りシート



「志と力シート」七つの資質・能力を一枚のシートにまとめて、自分の資質・能力を振り返ろう！ 第3学年 () 番 氏名 [

- ①それぞれの単元の終わりに書く振り返り用紙を使って、七つの資質・能力のS・A・B・Cを全て記入しよう。
- ②それぞれの単元について、七つの資質・能力の中で、最もがんばった資質・能力と、もっとがんばればよかった資質・能力について、

自己評価の理由(2カ所)を書こう

基礎的・汎用的能力			課題対応能力		人間関係形成能力・社会形成能力		キャリアプラン		自己理解・自己管理能力	
「プロジェクト学習」			情報収集・判断		知識・技能		協力・協働		責任・使命	
「生き方学習」(For the next step)			情報収集・判断		思考・表現		協力・協働		責任・使命	
最もがんばった資質・能力 [] 自己評価の理由			情報収集・判断		思考・表現		協力・協働		責任・使命	
最もがんばった資質・能力 [] 自己評価の理由			情報収集・判断		思考・表現		協力・協働		責任・使命	
最もがんばった資質・能力 [] 自己評価の理由			情報収集・判断		思考・表現		協力・協働		責任・使命	

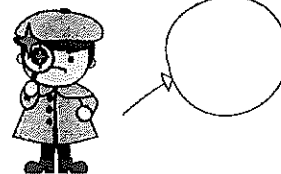
七つの資質・能力の中で、最もがんばった「思考・表現」の例

「英語の練習で、登場人物の性格の違いがはつきり分かるように、しゃべり方を一人一人変えることができたから。」

もつとがんばればよかった「協力・協働」の例

「舞台の準備をするとき、みんなと話し合いができていなかったの
で、本番でミスが続いた。もっと打ち合わせをしておけばよかつた。」

「志とカシート」を見ながら、自分のことを振り返りましょう。
自分の中の気づきや考えを、書きましょう。



できるようになったこと

がんばったこと

Q 1. 各教科の学習や行事、生徒会活動などの取組を通して、どんなことができるようになりましたか。また、そう考えるのはなぜですか？

Q 2. 各教科の学習や行事、生徒会活動などの取組を通して、どんなことを一番がんばりましたか。また、そう考えるのはなぜですか？

もっとがんばればよかったこと



改善するために

Q 3. 各教科の学習や行事、生徒会活動などの取組を通して、できなかったことや、もっとがんばればよかったと思うことはどんなことですか。また、そう考えるのはなぜですか？

Q 4. Q 3について、今後、生活や学習、活動についてどのように取り組んでいきますか。改善点を書きましょう。

昨年度学期末からの成長

Q 5 昨年度学期末に記入した、「これから大切にしていきたいことや努力したいことについて、1学期のあなたはどうか、自分について評価をし、そのように評価した理由を書きましょう。

自己評価 4 よく努力した 3 まあまあ努力した 2 あまり努力できなかった 1 努力できなかった

理由

友だちからあなたへ

友だちから見たあなたのがんばりや活動の様子は・・・



より

より

より

他の場面で役立つ資質・能力や学び

Q 6. 1学期の各教科の学習や行事、生徒会活動などの取組を通して、身に付いた資質・能力や学んだことについて、他の場面でも役立つと思うことはどんなことですか。理由も含めて書きましょう。
(*他の場面：これまでの学習や取組、これから先の学習や取組、実生活など)

これから先、将来に向けて

Q 7. 各教科の学習、行事、生徒会活動などの取組で学んだことやできるようになったことを通して、これから先、あなたが大切にしていきたいことや、努力したいことはどんなことですか？

先生からのコメント

保護者からのコメント

先生と保護者からのコメントを読んで・・・

7月 18日(木) までに提出

第9学年 学級活動 学習指導案

呉市立広南中学校 指導者 森澤 葉子 荒谷 政俊

1 日 時 令和4年2月9日(水) 5時間目(13:30~14:20)

2 学年・学級 第9学年(男子10名 女子9名) 計19名

3 題 材 「9年間を振り返り、自分の成長や将来の自分の姿について語り合おう」

内容(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用

4 生徒の実態と題材設定の理由について

(1) 生徒の実態

所属校では、学校の教育目標を達成するため七つの資質・能力を設定し、課題発見・解決学習を行ったり、各教科等を横断的につないだりして単元開発を行ってきた(以下、「プロジェクト学習」とする。)。その結果、令和3年度「基礎・基本」定着状況調査の質問紙調査から、所属校の育成を目指す資質・能力に関する項目での肯定的回答は80%以上であった。また、キャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力について所属校の生徒実態を把握するため、第3学年生徒19名にアンケートを実施した。中学校キャリア教育の手引き「キャリア教育アンケートの一例」を基に4段階評定尺度法で行った調査では、表の通りで、各項目において肯定的評価が見られる。一方で、自己理解・自己管理能力、課題対応能力にやや課題があると考えられる。2学期に取り組んだ「文化活動発表会」や、総合的な学習の時間で取り組んだ「For the Next Step」「未来貢献プロジェクト」などの活動から大きな達成感を味わう活動を実施しているので、これまでの学校生活や今度の活動をさらに自分の生き方とつなげる必要がある。

基礎的・汎用的能力	平均
人間関係形成・社会形成	3.62
自己理解・自己管理	3.31
課題対応	3.38
キャリアプランニング	3.51

(2) 題材設定の理由

生徒の実態から、本題材では、中学校学習指導要領(平成29年告示)解説特別活動編(以下「解説」とする。)に示されている学級活動の内容(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」「ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用」を取り扱う。「解説」では、キャリア教育に関わる様々な活動に関して、学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につながったり、将来の生き方を考えたりする活動を行うことが示されている。また、学級活動において、生徒が活動を記録し、蓄積するポートフォリオ的な教材を活用することで、発達の段階に応じた系統的なキャリア教育を充実させることができると示されている。

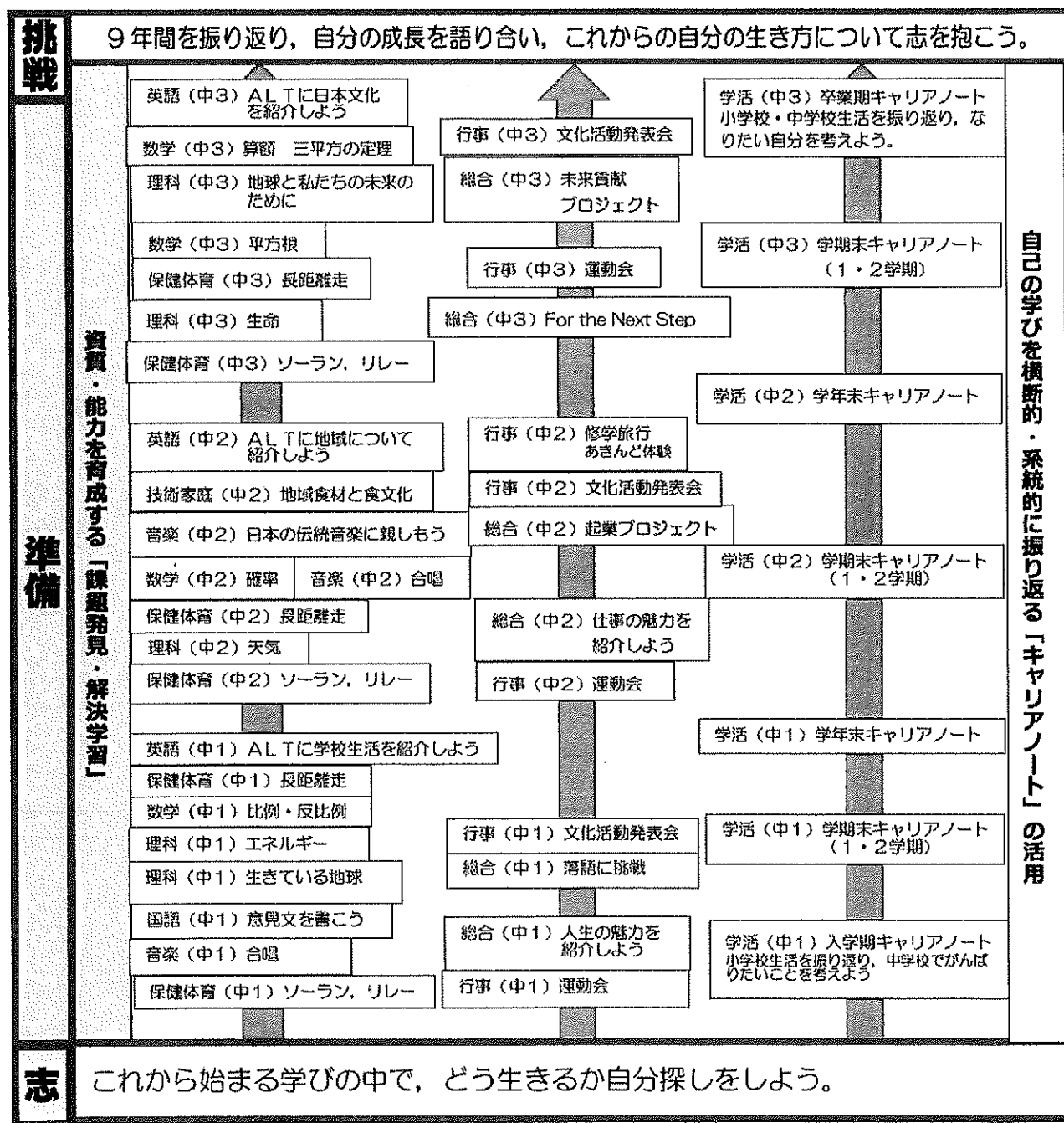
本題材では、小学校生活と、中学校生活を通して取り組んだ「プロジェクト学習」や所属校で育成を目指す七つの資質・能力を振り返り、自己の成長や課題に気付く活動を行う。さらに、中学校生活を振り返り、将来自分がどうありたいか、どういう役割を果たしたいかを考えることで、自己実現を図ろうとする態度を育成する。

指導にあたっては、予め一覧化した中学校の「プロジェクト学習」等の活動を「キャリアノート」上に取り上げておく。その中から、生徒自身が印象に残った学びを三つ取り上げ、なぜ印象に残ったかその理由を選んだり、記述したりできるようにしておく。また、所属校で育成を目指す七つの資質・能力について振り返り、考えや感想を記述する。さらに、友だちと語り合うことによって、生徒自身が自分の成長や課題を記述する、そして、進学したり、社会に出たりしたときにがんばりたいこと、自分が大切にしたいことや努力したいことについて記述する活動を行う。この活動の中で、特に、友だちと語り合う際には、自己の思いを素直に語る関係性が求められると考える。そのため、学級内の人間関係も配慮する必要がある。そこで、学級の実態に応じてメンバーや人数を決め、語り合う目的やルールを生徒と共有し取り組んでいくこととする。

これらの活動を通して、自己実現を図ろうとする態度を育成することをねらいとして、本題材を設定した。

5 貫きカリキュラム

本校の学校教育目標である「未来を創る」ために設定された七つの資質・能力の育成を目指し、学校教育活動全体で、さまざまな課題発見・解決学習を行ってきた。この課題発見・解決学習を通して身に付いた資質・能力について、ルーブリックを用いた自己評価を活用し、自分の学びをつなぎ、友だちとの語り合いによって振り返ることと、保護者、教師からの評価を得ることによって、将来の自分の在り方・生き方について考える力を育成する。



6 指導のねらい

これまでの「プロジェクト学習」等で印象に残ったことを振り返り、「キャリアノート」を活用することで、自己の成長や課題、努力していきたいことを考え、自己実現を図ろうとする態度を育てる。

7 評価規準

よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団の一員としての話し合い活動や実践活動を通じた思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
・学習や生活を振り返ることで、自分の成長を実感したり、目標を立てたりすることができることを理解している。	- 印象に残った「プロジェクト学習」等について、自分の言葉で、なぜ印象に残ったか、その理由を友だちに伝えている。 - 小学校生活や中学校での「プロジェクト学習」を振り返り、自己の成長や課題、努力していきたいことに気付いている。	・これまでの経験を踏まえた上で、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

8 学習過程

(1) 事前の生徒の活動

「キャリアノート」〔1〕〔2〕の、小学校生活や中学校生活での「プロジェクト学習」で印象に残った出来事について記入し、小学校生活や中学校生活を振り返る。

(2) 本時の展開

- ① 本時の目標 小学校生活や中学校での「プロジェクト学習」を振り返り、がんばったことや、成長したことなどを語り合い、これからの自分の生き方について志を持つことができる。

② 本時の展開

	活動の内容	指導上の留意点 (○) 「配慮を要する」と判断した生徒への手立て (◆) 予想される生徒の反応 (目指す生徒の姿) (□)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
導入 (5分)	○小学校・中学校の生活を振り返る。	ICT一斉 ○スクリーンに小・中学校のころの主な行事などを提示する。その際、「キャリアノート」を見たり、友だちと話したりしながら、小学校生活や中学校での「プロジェクト学習」等について、印象に残った出来事を振り返らせる。 ○「キャリアノート」〔1〕〔2〕について、記述しているか確認させる。	
展開前半 (20分)	○本時のめあてを確認する。 めあて 小学校生活や中学校での「プロジェクト学習」等を振り返り、がんばったことや、成長したことなどを語り合い、これからの自分の生き方について志を抱こう。 ○七つの資質・能力について振り返り、考えたことや感想を記述する。 ○心に残った「プロジェクト学習」トップ3や、資質・能力について友だちと語り合う。(ペア)	挑戦・探究は伸びたなと自分でも思う。落語にチャレンジしたり、修学旅行でのあきんど体験にチャレンジしたりしたし、今年も防災の活動や創作劇に挑戦できたと思う。 ○話す場合は、相手に伝わりやすいように工夫して話すようにさせる。聞く場合は、相手の話を聞いた後、相手の成長したところや課題を伝えるようにさせる。 共感 授業者は、各グループに入り、生徒を認める声かけや、語り合いが深まるよう声かけをする。	[思考・判断・表現] 印象に残った「プロジェクト学習」等について、自分の言葉で、なぜ印象に残ったか、その理由を友だちに伝えている。(行動観察・「キャリアノート」〔2〕〔3〕〔4〕)

展開後半 (20分)	○中学校生活を通して、成長したこと、残った課題について記述し、語り合う。 ○上級学校に進学したり、社会に出たりしたとき、がんばりたいこと、自分の中で大切にしたいこと、努力したいことを記述する。 ○友だちと語り合う。 ○どんなことを書いたか、全体で交流する。	まだまだ、自分のことになるとすぐにあきらめるところがあります。クラスのため、友だちのため、地域のためには動けるようになったけど、自分のことは、あまり前向きになれないです。 ◆記述しているキャリアノート〔3〕〔4〕から自分の成長や課題がないかを問いかける。 ○これまでの学習や体験を通して、将来どのような自分になりたいかを考えさせる。 小学校の時は、みんなの前で発表したりするのは、苦手だと思っていたけど、今は、どちらかというと、楽しい。将来は、人と接したり、話をしたりする仕事に就きたいと思うようになった。これからは、コミュニケーション能力をさらにつけていきたい。 ICT一斉 ○ICTで生徒の書いた「キャリアノート」を提示しながら、発表させる。	【思考・判断・表現】 小学校生活や中学校での「プロジェクト学習」を振り返り、自己の成長や課題、努力していきたいことに気付いている。 (行動観察・「キャリアノート」〔5〕〔6〕) 【主体的に取り組む態度】 将来は、どんなことを大切にしていきたいか、あるいは、どんな役割を担っていたいか、自分の考えをもっている。(「キャリアノート」〔7〕)
まとめ (5分)	○語り合いで、印象に残ったことや気付きを記入する。	○学習や体験を語り合うことで、どんな効果があったかを考えさせる。 広南中では、いろんなことを体験してきたんだなあということが改めて分かった。そして、友だちと語ることで、自分も成長していることに気付くことができたのでよかった。	【知識・技能】 学習や生活を振り返ることで、自分の成長を実感したり、目標を立てたりすることができることを理解している。

(3) 事後の活動

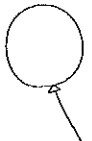
「キャリアノート」に担任と保護者からコメントをもらい、それを受けて自分の思いを記述し、「キャリアノート」のファイルに綴じる。

9 板書計画

9年間を振り返り、自分の成長や将来の自分の姿について語り合おう めあて 小学校生活や中学校での「プロジェクト学習」などを振り返り、がんばったことや、成長したことなどを語り合い、これからの自分の生き方について志を抱こう 「キャリアノート」 〔3〕 七つの資質・能力について振り返ろう。 〔4〕 友だちと語り合おう。 話し手：説明の仕方を工夫しよう 聞き手：話し手の成長したこと、課題を発見しよう。 〔5〕 成長したこと〔6〕 残った課題 〔7〕 進学後や社会に出たとき、がんばりたいこと、大切にしたいこと。 ○ 振り返り	スクリーン
---	--

◎小学校生活や中学校生活を思い出しながら、書きましょう。

[1] 小学校生活で、心に残っていることと、なぜ心に残っているか理由を書きましょう。



[2] 中学校で、各学年で行ってきた各「プロジェクト学習」、学校の授業や行事、活動などを振り返り、印象に残った「プロジェクト学習」について、トップ3を選び、[]に1、2、3の番号を記入しましょう。また、なぜその「プロジェクト学習」などを選んだか、その理由を考え、近いものを線で結び、トップ1について、なぜ1番に選んだか、その理由を記述しましょう。

第1学年	第2学年	第3学年
☐ 保健体育「ソーラン」「リレー」 「持久走」 ☐ 音楽「合唱」 「日本の伝統音楽に親しもう」 (箏・尺八) ・総合的な学習の時間 ☐ 「生き方学習」 人生の魅力を紹介しよう ビブリオトーク ☐ 「ふるさと学習」落語に挑戦! 映画「落語の刃」作成 ☐ 運動会 ☐ 文化活動発表会 ☐ その他の授業や行事、活動など ()	☐ 技術「ロボット制御」 ☐ 保健体育「ソーラン」「リレー」 「持久走」 ☐ 英語「ALTに地域について紹介しよう」 ・総合的な学習の時間 ☐ キャリアスタートウィーク ☐ 「ふるさと学習」 HMⅡ 起業プロジェクト 商品開発 宣伝 総務 販売 イベント 特別企画 ☐ 文化活動発表会 ☐ 修学旅行 ☐ 運動会 ☐ その他の授業や行事、活動など ()	☐ 保健体育「ソーラン」「リレー」 ☐ 音楽「合唱」あなたへ-旅立ちに寄せるメッセージ- ・総合的な学習の時間 ☐ 「生き方学習」 For the Next Step ☐ 「ふるさと学習」 未来貢献プロジェクト ミュージカル「MISSION IMPOSSIBLE ～采谷義秋」 広南一番星プロジェクト ☐ 文化活動発表会 ☐ 運動会 ☐ その他の授業や行事、活動など ()

[印象に残った理由・・・該当する授業や行事、活動と線で結びましょう。]

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・もともと好きな分野、自分の得意分野を生かせる取組。 ・[]の力が身に付いた(資質・能力)。 ・友だちと協力して成し遂げることができた。 ・苦手な分野だったけど、努力して成し遂げることができた。 ・友だちとけんかして、気まづくなった。 ・その他() | <ul style="list-style-type: none"> ・挑戦問題がおもしろかった。 ・取り組んでいく過程がおもしろかった。 ・新しい自分の力を発見することができた。 ・取組自体が簡単だった。 ・取組が苦手なものだった。 |
|---|--|

トップ1の具体的な理由(箇条書きでもよい)

[3] トップ1に選んだものはあなたにどのような資質・能力をつけましたか？理由や感想も含めて書きましょう。

七つの資質・能力

[考えたこと・感想]

知識・技能 情報収集・判断 思考・表現

協力・協働 責任・使命 感謝・貢献 挑戦・探究

() 番 氏名[]

〔4〕語り合い

心に残った「プロジェクト学習」などのトップ3について、友だちと語り合しましょう。また、友だちにも感想や気づきを伝えましょう。友だちの名前[]

友だちから言ってもらった感想や気づきを書きましょう。

〔5〕書く⇄語り合い

中学校生活を通して、自分が成長したと思うところはどんなところですか。また、なぜそう思うのか、理由も書きましょう。

〔6〕書く⇄語り合い

中学校生活を通して、自分にはどんな課題が残ったと思いますか。また、なぜそう思うのか、理由も書きましょう。

〔7〕書く⇄語り合い

上級学校に進学したり、社会に出たりしたとき、あなたはどんなことをがんばりたいですか。あなたが自分の中で大切にしたいこと、努力したいことは何か。また、どうしてそう思ったのか、理由も書きましょう。



友だちとの語り合いで、印象に残ったことや気づきを書こう。

先生からのコメント



保護者からのコメント



先生と保護者からのコメントを読んで…

月 日 () までに提出



教師や学校は、子供たちに上質イメージを持たせることや、子供たち自身が上質イメージを持つことができるように、日々の教育活動の中で子供たちと真剣に向き合い「～って面白い」「～ができるようになる」とこんな良いことがある」「自分でも努力すればできるようになる」ということを体感させ、それを認める。こういった経験を積み重ねることにより、子供たちは自信を回復し、「こうなりたい」「こうありたい」とさらに上質なイメージをもつことができる。（「広島県教育資料より」）